

国際理解 第 5 号

1 9 8 8



中国の剪紙

岡山県国際理解教育研究会

目 次

ごあけびし	西崎正明
ごあけびし	宮地暢夫
ごあけびし	三澤和昭
ごあけびし	森崎岩之助
第一部	
そして日本	尾崎達
Habia una vez	難波勢津子
着任三か月足らずまで	神田進
アルジェリアのイスラム点描	垣見益子
第二部 「子供のための世界の国々に」(小学5・6年、中学3年を対象として)	
インドという国について	西崎正明
THE LADY IN THE MOON	井関繁孝
「昭南島」と呼ばれていたシンガポール	乗峯憲悟
つるとかに	沼本泰知
孫悟空の中国	黒田忠男
北京の春節(お正月)	熊代剛士
香港	村瀬俊一
	68
	65
	57
	52
	47
	41
	33
	22
	17
	12
	10
	7
	5
	3
	1

ベネズエラ	赤坂英二	81
アマゾン河口、ペレインの人々の暮らし	菊田治	87
ブラジルコーヒーとテラロッシヤ	高橋典男	96
メキシコ物語	寺脇政富	98
スペイン	南井滋野	102
アウトバーン物語	三宅正勝	119
ドラキュラの正体は？	友保正彦	140
サハラへの旅	垣見憲治	143
私の見たナイジェリア	秋本賢治	152
発展途上国への赴任の手引	沼本泰知	166
事例研究シリーズ(一)	村瀬俊一	172
”	増田節男	174
”	熊代剛士	176
”	西崎正明	178
第三回国際フィルム映像鑑賞会を終わって	黒田忠男	180
国際理解教育の実践	井関繁孝	184
事務局だより		197
海外派遣者名簿		199
本年度本会役員名簿		201
本会則		203

ごあいさつ



会 長 西 崎 正 明

「国際理解」第五号の発刊となりました。本誌は、海外に派遣された先生方が、派遣先の生活について書かれた貴重な経験の一端です。

六十二年三月末には、六名の先生方が帰岡され、四月には、例年になく多数の先生方十三名が派遣され、それぞれの地に赴任されました。

私達の仲間には、本年度派遣された方々を含めて、世界四十数ヶ国で三年間の生活経験をもった七十五名となり、これらの多くの仲間達に支えられた、「岡山県国際理解教育研究会」も徐々に充実して来ました。又、この冊子「国際理解」も生活体験記録の他に国際理解に役立つ内容もみられるようになり、これからの教育の一端でもになればと考えています。

幸い本年度（六十二年度）「財団法人・福武教育振興財団」から本会が考えている、「国際理解教育に関する実践的研究」に助成金を頂くことができました。学校教育のなかに国際理解教育をどのように取り入れるかはむづかしい事ですが、私達が経験した事や見聞きした事は貴重な教材ですので、これが現場に役立たないかと先ず考え、本誌五号から二～三年かけて、寄稿された原稿などから、

小学生高学年から中学生向きの副読本作りを計画しました。

できれば「子供のための世界の国ぐに」と題したものがまとまればと思っています。

寄稿された方々には、感謝申しあげると共に、他の会員の方々もぜひ御協力を願ひ、副読本を充実させたいと念じています。

この冊子も、関係機関、学校等にお送りし、感謝されていますので、今後とも内容の充実につとめながら、仲間の貴重な体験を記録として残し、多くの人達に紹介しながら役立ててゆきたいものです。

国際化とマナー

—御挨拶にかえて—



前岡山県教育長 宮 地 暢 夫

去年十一月、全国の教育委員長、教育長さん方十余名といっしょに、二週間の日程で西ヨーロッパの教育事情を視察した。

ロンドン郊外のグレイブニー総合中学校を訪問したとき、校長先生が冒頭、「日本の訪問者は皆さんで三度目です。前回は東京のテレビ局が来ました。日本の学校にはきびしい規則があるが、規則なしでも教育ができるということのあかしとして、本校を取材したい、ということでした」といったのが、耳にチクリと刺さった。

その日の午後はロンドンの教育庁を訪問した。主任視学官のスマスさんからいろんな説明を聞いたが、今イギリスの大きな問題は出生率の低下による児童生徒数の急減だ、という話が出たとき、私たちの村井資長団長との間にこんなやりとりがあった。

「日本にも同じ問題があります。当面四十五人学級を四十人にするので、一部カバーしていますが——」

「四十人ですか。子どもたち、行儀がいいですね。イギリスではとても持ちません」

「日本は規則でしばりますから」(笑)

「イギリスの教員には権力がありませんのでね」(笑)

このちょっとした会話が、午前のフィリップス校長のことばをあらためて思い出させた。

今回の視察での総体的な印象の一つは、学校の施設設備や学習授業の内容において、日本は欧米に比し遜色はないが、公衆道徳や对人的マナーでは、あちらに一日の長があると思われることであった。これは美術館や公園などでも痛感したことである。

パリ郊外の幼稚園でしつけ指導の場面をいくつか見たが、他人の迷惑にならないよう、全体の秩序を乱さぬように、それによってお互いの生活と自由を大切にしましょうといった、生活の基本からの指導であって、一方的なきまりの押しつけという感じはなかった。また、家庭や地域社会の責任を前提にした、ごく軽いタッチの指導のように思われた。西ベルリンの総合制高校には、かなり異様な服装の生徒がいたが、对人的マナーの点では身についたこなしがあった。

そこで先程の「規則なしの教育」、「日本は規則でしぼる」、「イギリスの教員には権力がない」といったことを又しても思うのである。なぜ日本では社会の道徳とかルールが、人間内部の自律的な規範として定着しないのか。人間としての基本的な在り方までが、なぜ外からの規制と受け止められ、時に「権力」の押しつけとまで意識されるのであろうか。駅周辺の自転車の整理のようなことまで、行政が外向かなければどうにもならないというのは、考えてみれば恥ずかしいことである。

規則で押しつけるからマナーが育たないのか、マナーが一向よくならないからますます権力的な規制になるのか。あるいはこうしたことが国際レベルに達するについても、欧米の歴史なみに今後相当の時間と訓練を必要とするのであろうか。

社会的なルールやマナーに対する内面的な自覚の確立は、国際化時代の私たちが当面する大きな課題であると思うが、どんなものであろうか。

新しい時代の教育をめざして



前玉野光南高等学校長

三 澤 和 昭

本会の発足は昭和五十六年ですから今年で八年目を迎えます。当時教育センターでお世話になっていた私は、昭和五十五年に一月の海外研修の機会を与えられアメリカ、南米を訪ねました。その訪問先の一つにサンパウロ日本人学校がありました。当時そこには岡本先生がお勤めで御親切な御案内を頂きました。なだらかな丘をけずって造られたグランドはブラジル特有の赤土で、十二ヘクタールの広大な校地の周りには有刺鉄線がはりめぐらされ、校門には拳銃をもった数人の守衛が警備にあたっているのが印象的でした。この視察の翌年にはサンパウロのエミリオ市議会議長さんが来日され一行を広島・宮島に案内しましたがエミリオさんは日本に来て一番不思議なことは「駅のホームで荷物をおいても無くならない」ことだと言い、「日本の治安は世界一だ」と感心していました。現在百数十校ある海外日本人学校の中にはブラジルのように治安のよくない国も多く帰国報告会でもそんなお話をたびたびうかがっています。こういう国々での先生方のお仕事は大変だったと思います。しかし、先生方は長い間日本を離れて日本のよさ、すばらしさを体験された方々であり、それと同時に外国の方々と一人一人のふれあいを深め国際親善にも一役も二役もかって来

られた方々です。会員の皆さん方がこうした海外の貴重な体験をこれからの新しい時代を生きる子供達の教育に直接役立ててほしいと思います。海外日本学校帰国教師の会は一年前、国際理解教育研究会と改称されましたがその意味もこうしたところにあると思います。

現在、県下には五十余名の日本学校帰国教師の方々がおられ、その派遣国もさまざま、まさに世界の縮図と云える会です。しかも、会員も派遣国も年々増加するという誠にたのもしい会だと思います。皆さん方がお互いに協力し、新しい時代の教育の原動力として活躍されとともに、この会がますます発展されますことをお祈りする次第です。

国際理解教育と帰国教師の役割



学 事 課 長 森 崎 岩 之 助

臨時教育審議会の答申では、二十一世紀に向けて我が国は、いっそう国際化が進み、これまで以上に積極的な国際化への対応が必要なことを提言しています。

また、岡山県においても、明るく豊かで活力のある郷土づくりを目指す「第三次、岡山県総合福祉計画」が策定されていますが、その中でも、国際化への対応がとりあげられ、今後県民の国際理解を一層深め、県民と県内在任の外国人との交流を活性化し、海外からの来訪者に接し受け入れるための体制の整備など、国際交流の基盤づくりを進めなければならないとしています。そして、そのためにまず、交流の主体である県民の国際感覚を養い、国際性豊かな人づくりを進めるため国際理解を深める教育の充実や学習機会の拡充、海外派遣等を進めなければならないことが指摘されております。

このように今、国際理解とか国際理解教育ということばがよく使われるようになりましたが、これらのことばは、現実的にはいろいろな意味で用いられているように思います。

そこで、参考のためにユネスコが千九百七十四年に国際理解教育について出した勧告の中で、「国際理解教育のための教育政策の指導原則」としてあげた七項目を紹介しておきたいと思えます。

一、世界的視点を持った教育

二、各民族、文化、生活様式の理解と尊重

三、世界の相互依存関係の認識

四、コミュニケーション能力の育成

五、他人や他国の権利と義務の認識

六、国際的連帯、協力の必要性の理解

七、国や世界の問題解決への参加の用意

各学校における国際理解教育は、これらの諸点を参考として、今後とも一層さまざまな指導方法、カリキュラムの開発等が望まれておりますが、その推進力となるのは、在外日本人学校で貴重な体験をされた帰国教師の会の先生方において外にはないと私は思っております。

数年前、幸せにも私は教育海外派遣団の一員に加えていただき、わずか十六日間ではありましたが、アメリカ・カナダの教育事情等の研修視察をする機会を与えられました。

巨大なアメリカ大陸については、本やテレビを通じて良く知っている積りで現地に参加しましたが、百聞は一見にしかずという諺のとおりで、知識と体験の違いの大きさを思い知らされました。

ジェット機で何時間も飛んでも、どこまでも続く同じハゲ山、谷深くセスナ機で入り込んでお米粒ぐらいにしか見えないグランドキャニオンの谷底の集落など、自分がその場に身を置いてはじめて体験することの意味を感じることができました。

在外日本人学校に派遣された先生方は、その国への単なる訪問者ではなく、それぞれの国の住民としての生活を三年間にわたって体験され、私共の想像のつかない多くの経験を積んで来られたわけでありまして、この貴重な体験を子供たちの指導に役立てていただくことは、大変有意義なこと

だと思っております。

世界各地の日本人学校に派遣され、外国での生活体験を通して得られた国際感覚をもって、先生方がこれから行って下さる御指導は、子供たちが二十一世紀に生き、国際社会に役立つ人間として成長していくうえに、大きな影響を与えて下さるものとなることは、間違いないと思います。

皆様が、今後とも健康に留意され、益々御活躍下さいますよう祈ってやみません。

「そして日本」

マレーシア・コタキナバル日本人学校
岡山・庄内小学校 尾崎 達

赴任した当時、異国の地に慣れるため半年間は身体的・精神的にとても苦痛であったが慣れてしまうと快適ときえ感じるのはどういうことだろうか。今、日本に帰国して半年、身体的・精神的にもすぐに順応するはずである。はずであるのだが、何故か異国の地に行った時と同じようにずんなりといかないのである。この三年間で、教職二十年近い経験が変えられてしまったような気がする。それは、日本が早いテンポで動いているので浦島太郎のようになってしまったのだろうか、それとも私の固陋からくる進歩性のない考え方を持っているからだろうか。いずれにしろ玉手箱を開けてなぞを解きたいのだがそれも無い。しかし玉手箱の中味をあこれ考えるのは自分の勝手であるのでそれを書いてみたい。

赴任校は小規模であったし、創立二年目という新しい学校であった。児童数も二十〜三十名の間で派遣教員六名という家庭的な雰囲気であった。私は校長に次ぐ年令という

ことで教務という職を持たされた。日本のそれとは違い、その職の上に、複式の担任、しかも授業時数二十四時間という厳しきだった。休み時間も充分とれなかったし、課外でサッカーの指導もしていた。今考えるとよく体をこわさなかったと感心するくらいだ。しかし、これが不思議と苦にならなかつたのは、その全てが直接子どもたちのための時間だったからのように思う。いわゆる雑用だとか研修会とか会議などによってその時間をさくようなことがなかつたということから本来の職務に没頭できたという満足感があつたために苦痛を感じなかつたのだろう。日本ではこうもいくまい。子どもが主人公でありながら、子どもを早く帰らせたり、自習にさせたりしても研修会に出なくてはならないことがよくある。とすると、玉手箱から立ちのぼつた煙はこのことだったのだろうか？……

他にもありそうだ。当然海外には、各都道府県から派遣された教諭が集まってくる。それぞれは考え方もちがっているし、自分に自信を持っている人たちでもある。従って行事一つを決めるにもなかなかスムーズにいかず調整するのに大変である。創立間もない学校に伝統もないし、昨年のことと全く違うことも試みられたりする。なるほどと思うこともあるし、腹を立てることもある。面倒であるけれども、慣習に左右されることなく、自分たちで創り出して

いこうという喜びがあった。しなくてはならないからするのではなく、するべきだからし、してみたからするのだという能動的な活動が約束されていた。もちろん討論は沸とうするが、意欲的になる大事な要素であった。反面、帰国して「することになっているからする」ということがあまりにも多すぎるという感じを持ったものだ。

子どもたちも、実にはのびのびとしていた。スクールバスで八時半に登校し、四時半には下校する。下校後は塾へ行くでもなし、テレビを見るでもなく、水泳やサッカー、釣りやテニス等のスポーツをしたり、友だちとの語らいや家族とおしのつきあい。小旅行などをして過ごしている。父母との連携もあるので補習やとりしまりなど教師の手をわずらわすことは皆無だった。子どもたちも、おとなも、日本のような遊ぶものこそないが、健康的な遊びの場はしっかり確保できていた。それぞれの場で遊びのルールも学び、自然を刺激して満足していたようだった。たくましく子どもらしく成長しているようにも思えた。しかし、この子どもたちがいずれ日本に帰ると、テレビの俳優やマンガのヒーローを覚えないと友だちとのコミュニケーションが持てなくなり、仲間外れにされるといふ現実をむかえなくてはならないとはとてもさびしい気がする。そして半年もしないうちにすっかり順応してしまうのだ。

私も今までそんな日本にっかっていた。そして今また日本にいる。何か異質に感じているのは私だけなのだろうか。子どもも教師にも、もっとゆとりのある日々があり、特設された一時しのぎのものでない根本的な変化が必要な感じがする。四十人学級の実現などはその一例であるが真に子どものためになることを今一度考えていってみたい。とあれ、この三年間の経験がなかったらこのようなことすら考えなかったかもしれないが、今の私は、慣れてすっかり快適だと感じるにまだまだ時間がかかりそうである。

Habia una vez.....

—とんとむかしが あったとき—

ヴェネズエラ・カラカス日本人学校

真庭郡落合町立天津小学校

津山市立弥生小学校

難波 勢津子

「ヴェネズエラにも よい絵本がありますよ。」

と聞いたのが、赴任して二—三か月の頃でした。ちょうどその頃、偶然本屋で見つけたのが、絵がとてもユーモラスな「EI Conejo y EI Mapurite」(ウサギとスカンク)という本でした。内容的には、五—六才向きのものでしょうか。しかし、私には読むほどのスペイン語の力もなく、ただ、絵を見て楽しむだけでした。

私が見つけたのは、グアヒロ族の昔話でした。グアヒロ族というのは、グアヒラ半島、油田で有名なマラカイボ湖の近くに住んでいるインディオですが、それ以来、ヴェネズエラの昔話を集めてみようと思うようになりました。そして、辞書をかた手に少しずつでも読んでみることにしました。

先日新聞でヴェネズエラの「バンコ・デル・リブロ」が朝日国際児童図書普及賞を受賞したことを知り、ヴェネズ

<p>「本の銀行」に 朝日国際児童図書普及賞</p>	<p>「本の銀行」は、 朝日国際児童図書普及賞</p>
<p>「本の銀行」は、 朝日国際児童図書普及賞</p>	<p>「本の銀行」は、 朝日国際児童図書普及賞</p>

朝日新聞 9月14日付

エラのもものが認められたことをとてもうれしく思いました。次のお話は、グアヒロ族の昔話です。

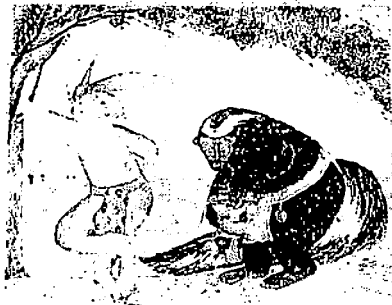
(ウサギとスカンク)
動物たちが、今日の人間のようであったその昔、マプリテ(スカンク)が一番よい呪術師であった、とグアヒロ族の老人は語る。

ある日、マプリテは肺に悪い病気がとりついて、咳が出て、胸がいたむ看者を治療するために、アチャ川の方へむかって歩いていました。そのとき、西から東にむかうウサギに出会いました。

「おや、グランチャーロ(呪術師)、そんなに急いでどこへ行くの。」
「病人を治療しにアチャ川に行くんだ。あんたはどこに行くんない。」

El Conejo y el Mapurite

cuento guáiro



Ediciones Ekará - Banco del Libro

ウサギは二回

とびはねて言いました。

「えーと、こっちからあっちの方へ、足のむくま、足のむくま、西から東へ、輝く太陽がのぼるホロトウイまでだよ。」

「へえ、ほんと

それから、ふたりはわかれしました。

マプリテは西の方へ歩いて行きました。ウサギはタバコに満足していました。あたかもふたりは遠ざかっているかのようにでした。しかし、ウサギは丘をぐるっとまわって、マプリテの前に出るように同じ道にむきをかえました。声をかえてウサギは言いました。

「やあ、克蘭デロー、そんなに急いでどこへ行くの。」

「病人を治療するためにアチャ川まで行くんだよ。」

マプリテはまばたきしながら答えました。

「それでお年より、道中どうだったかい。」

「うん、いや、何も。少し前にあんたと同じ方向にむかって旅をするウサギに会っただけだよ。」

「そうかい。追いついて旅の道づれになるとしよう。ところで、タバコをもっていたらおれにくれなにか。」

とウサギは言いました。

しかし、四回とびはねて、ウサギは丘をぐるっとまわって、マプリテに出会うようにむきをかえ、あとを追っていききました。

今度は、ウサギは年よりのふるふるえた声をまねしました。

「お会いできてうれしいよ。ご老人。人生も残りわずかだ。わたしは昔のことをなつかしく思っている。よばよばの年

う。」

マプリテはウサギを見ないで言いました。なぜなら、マプリテの目は小さくて、ほとんど何にも見ることができなかったから。

「ねえ、道中たいくつしのぎになるタバコをもっていないかい。」

とウサギは言いました。

「うん、もっているよ。アミーゴ（友だち）。」

そして、自分のカバンに手を入れて、マプリテは大きなタバコをウサギにやりました。

よりです。

マブリテはそれを聞いてうれしくなり、若かったころのでき事を話したいと思いました。

顔をあげました。でも、二匹ののみにように小さい彼の目では、だれに話しているのか、ほとんど見えませんでした。

「わたしにくれるようなタバコをおもちではありませんかな。」

ウサギは急いで聞きました。

「ええ、もっていますよ。よろこんでさしあげましょう。」

マブリテはそう言っ、タバコをあげました。

ウサギは三本のタバコをもって、よろこんで走って行ってしまいました。

マブリテは西にむかって歩いて行きました。

マブリテはアチャ川に着いたとき、自分の看者をマッサージするために使うタバコが一本も残っていないことに気づきました。

思い出して：思い出して：

ウサギがずるく自分をだましたこと



に気づきました。

「おぼえていろよ。」

マブリテはおこって言いました。そして、きみょうな葉を作り始めました。

うすの中にとうがらしを入れ、プリンガモサの木の液、タバコのやんを入れしました。そして、ちょっとばかしのピビ（おしっこ）を入れました。強くかきまぜました。こんなふうには、こんなふうには、

まぜかげんがちょうどよくなったとき、それでタバコを二本作り、ふくろにしまいました。

家に帰る道は、ウサギに出会った同じところを通りまし



た。

何という偶然か、そこにまた、あのウサギがいたのです。

「やあ、お年より、おれのアミーゴ。また会ったね。おれにくれるようなタバコをもっていないかい。」

「ええ、もちろん、もっていますよ。よろこんでさしあげましょう。アチャ川で買ったんですよ。とてもおいしいものですよ。」

マブリテは二本のタバコをウサギにやって、家への道へいそぎました。

ウサギはタバコをすい始めました。すって、すって……不ゆかいな気分になってきました。何かきみような感じが出てきました。鼻の中をありにかまれたような、口の中をくすぐられているような感じがしました。

でも、ウサギは気にしませんでした。気にしないですい続け、タバコのおいをはき続けました。

鼻づらがふくらみ始め、鼻が動かそうと思わないのにかってにピクピク動きました。それからウサギはタバコを捨てて、鼻をこすり、くしゃみをしました。でも、かわりなし。ウサギの鼻はぬれて赤くなり、たえずピクピク動いていました。

グアヒロの人々はこう言っています。

そのときから、ウサギというものは鼻づらと鼻がふるえ

ています。なぜなら、まだマブリテの不思議なタバコのかゆみを感じているからです。

そう、話しています。

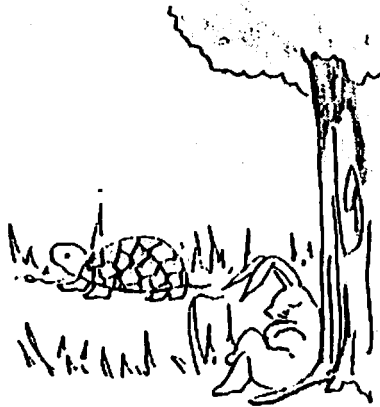
(Ediciones Ekare - Bancodel - Libro)

植民地の時代、多くのアフリカ人が奴隷いとしてアメリカ大陸につれてこられました。そのアフリカ人がもたらしたといわれる、「トラどんとウサギどん」の話は、ヴェネズエラだけでなく、アメリカの他の国々でもよく知られているものです。

力の弱い者ほど生きのびていくための知恵と身を守る手段を身につけていなければなりません。アメリカ大陸の人々は、世渡りのうまいウサギという動物像を民話の中に作りあげました。その悪がしこいとも言えるほどのぬけめのなさと行動力は、無力な庶民のかなわぬ夢、反骨精神をあらわしたものではありませんか。

残念なことにこれらの話ほしだいに忘れられてきているようです。物語を語る、という習慣が失われてきているからです。しかし、最近、何人かの研究家が、まだ話を覚えている人々からそれらの昔話を聞き取り、まとめています。そして、忘れられつつある昔話を広く子どもたちに伝えようと、Cuenta cuentos (お話を語る)の活動も

おこっけてきているそうです。休日の公園、広場で人々にお話を語り、聞かせるのです。何とすばらしいことでしょう。ヴェネズエラでの三年間はあっという間でしたが、数々の思い出がありますが、昔話を通して、ほんの少しですがヴェネズエラの文化にふれることができたことをたいへんうれしく思っています。



着任三か月足らずまで

サウジアラビア・ジッダ日本人学校

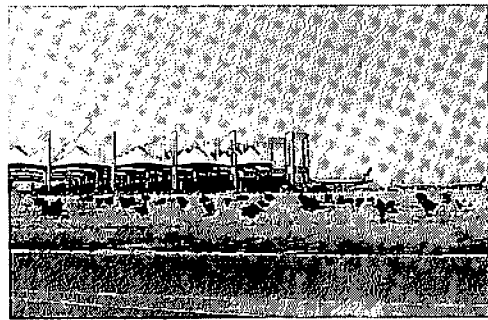
津山市立広野小学校 神田 進

「ジッタ、ジェッタ、ジェッタ、ジェダというところへ決まった。なるべくはやく教育委員会に報告するように。」と校長より連絡があった。

さっそく世界地図をだし、ジッダとかジェッタとかジェッタとかジェダとかいうところを探してみた。ジェッタというところがサウジ・アラビアの紅海沿岸、メッカ（マッカ）の近くにあった。どうやらこの所らしい。サウジ・アラビアといえば、砂漠とラクダと石油しか知らない。私は三年間もテント暮らしではないかと心配で、生活ができないのではないかと不安であった。

さっそく、サウジ・アラビアから帰国された三人の方に聞いてみた。

ある商社マンの方のお話：「私は、十年前にあちらの方へ行っていた。食べるものは口に合わず、住居も悪く、不衛生な町であり、住むところでないのですぐ断りなさい。」
ダハランの方の建築現場で働いた人のお話：「イスラム



JEDDAH空港のハッジターミナル

教の戒律が厳しく、たいへん心身ともに苦しむところだ。夏は大変暑い。しかも、乾燥した天気が続くところだ。遊ぶところもなく、苦しいだけのところだ。しかしジェッタは西の方だから、湿り気があるようだ。ダハランやリヤドに比べると暮らしやすいのではないだろうか。しかし、できればやめた方がよい。」

派遣教員で帰国した人のお話：「なにも迷うことはない。すぐにOKしなさい。いろいろな言っても体験しないとわからないと思う。ジッダへ行っていろいろな体験し、楽しんで来てほしい。」

三人が三人とも話が違ふ。せっかく、派遣が決まったのだし、だれもが生活をし、生きているのだから、行く決心をした。

三人の先輩が話されたことは、三人とも違ふようでも正



ハンバーグ売場前にて

しかつたのです。ジェッタは今から十年前まではメッカへの巡礼の小さな港町であった。オイルダラーの流入と同時にジェッタの町は近代化し、高層ビル、五十メートル幅以上ある広い道路、二百万人ともいわれる大都市に成長した。日本の百年かかって出来た近代化を十年でやってしまったのだ。サウジ政府は、国を先進諸国のレベルに引き上げるため、オイルダラーを国づくりに投資したのだ。例えば、小麦では輸入国であったのが最近では輸出するようになった。砂漠に山積みされた小麦の山は驚くほどでかいものだ。

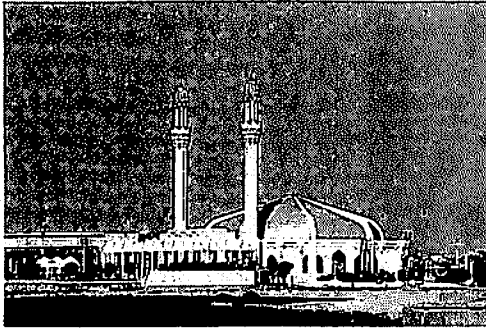
オイルダラーを国王が独り占めにするのではなく、国民に還元するようにしているのだ。学校や医療費の無料には驚かされる。また、最近是人つくりに力を入れ、人つくりは国つくりという方針で、二十一世紀へ向けて、学校教育の充実がはかられている。

いよいよ、成田ーバンコクーリヤドージェッタのルートで四月十三日出発をした。バンコクからはサウジエアであった。トープ（カッターシャツのすそを長くした男の白い服）を着たサウジ人が乗り込んできた。とうとうこのようなサウジの人達のなかで、生活をするのだなあ。と思いつつ黄色にやや赤みを帯びた砂漠の上を、飛行機が下降し、リヤドに着いた。

入国手つづきが大変厳しいと聞いていたので、時間がかかるだろうと思っていたところが、私達の不安な顔と不慣れた動作を察してか二ー三個バックをチェックしただけで、すぐに入国手続きを終えた。親切な人がドメスティックエアポートへと案内してくれた。

リヤド空港は大きなドーモのようなビルで、中には噴水があり、ごみ一つ落ちていない、大変美しいものであった。成田とは比べられないほどの近代的なしゃれた飛行場である。

飛行機に乗り込み出発を待っていたときである。どんどん真っ黒い服や黒い布を頭からかぶった人々が飛行機に乗り込んで来たのだ。まるでからすの行列のように無気味な雰囲気、葬列のように感じて身の毛が立ったのを今でも覚えていいる。どんどん乗り込んで来る女性は顔の一部も見せない。そのときはたいへんなショックであった。女性は



モスク（寺院）

顔を見せるもの、お化粧をして美しさを競うものと思つていた女性観が、いっぺんにくずれてしまった。

日本では、和服を着る事はお正月ぐらいで、しかも誰もが着ないものなのに、サウジ・アラビアの国民服だと思つていたトープやアバヤは生活から切り離せないものである。アバヤは黒いため光を通さなく涼しい。しかもいつも砂や土が空中を漂っている熱帯砂漠気候ではアバヤを着けることは合理的であるように思う。

飛行機から見るジェッダの町はダイヤモンドが輝くように、電灯のあかりが赤や黄色に輝き、町全体が宇宙都市のようになつて見えて、この世のものとは思えないほどのものであつた。ジェッダ空港では、派遣教員、学校運営委員会の人、大使館の人達の出迎いで、落ち着きを取り戻した。飛行場から私の

家までの道路は、広々として、道路わきのやしの木が青々と茂り、美しい風景であつた。

夜十時家へ着き、先輩の派遣教員の奥さんが作ってくれたおむすびはおいしかった。

さっそく、次の日には、入式があつた。私は一年生を担当した。何をどうするのかわからず一日が終わつた。毎日目が回るほど忙しく、暑いのを忘れていたほどだつた。毎日目に飛び込んで来るアラビア文字、そして我子の病気で一か月間毎日通院する。緊張の連続であつた。

ついに、私が入院する羽目になつた。

五月二十四日、家庭訪問の第一日目、最後の子供の家を出て、十メートル程歩いたところで、突然膝から下が動かなくなつた。起きようとしても、どうしても足が立たない。脚気になつたのだろうか。いったい私はどうなつたのだろうか。足をたたいたり、ひねったりした。二十〜三十分その場においてようやく立つことが出来た。足を引きずりながら、私の家までやっとたどり着いた。

その夜のことだ。十二時頃から突然高熱が出て、前頭部が割れるような痛み、四十度の熱。

夜明け三時頃ファキーハ病院へかつきこまれた。マラリアかも知れないという事で個人部屋へ入れられた。症状はマラリアによく似ているが、何回検査をしても、その反応



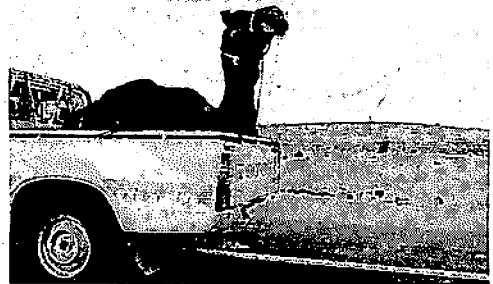
バトウイン（遊牧民）といっしょに

が出なかった。サウジに来て一か月半で、しかもサウジのようところで死んでしまうのかと情けない気持ちでいっぱいであった。

ところがフィリピンの看護婦達が愛想よく、一時間おきに入ってくる。アンタクワイエス（気分よいか、元気か）と尋ねてくれる。また、フィリピンの掃除夫達が体全体を動かして踊って見せてくれる。ジャバニーズクワイエス、ヤバーニクワイエス（日本人は良い人だ）と言ってくれる。ピリピーネクワイエスと返事を返す。四日間の入院であっ

たが、この病院で働くフィリピンの人達の励ましと、エジプトの医師の力によって完治することが出来た。

この入院を境に、私はサウジに慣れることが出来たようだ。外国人を見るとおどおどしたり、無理に肩に力を入れたりしなくなった。



日本製のトラックにラクダを乗せて砂漠を走っている

サウジ・アラビアは外国人の労働者によって、国が出来ているといっても過言ではないだろう。ショッピングセンター、医師、建築だけでなく兵隊までも、韓国、フィリピン、タイ、インド、スリランカ、パキスタン、フランス、

イギリスなどの国から労働者として入国している。

さまざまな人種の中で、イスラム世界という我々にとって特異な社会で、三年間無事任務を終える事ができた。サウジ・アラビアでは、個人の生活のみでなく、日本人学校でも、あらゆる人の援助や協力がなくては何一つすることが出来ない。例えば、五月五日の子供の日にこいのぼり集会をしようと思っても、のぼりを禁止されているため、屋根より低いこいのぼりになる。また、運動会に雷管をならすことも出来ないため、静かな気の抜けたような運動会に

なってしまう。あらゆる面で障害の連続であった。

この作文は、私の派遣が決まって、たった三か月足らずの出来事と、サウジ・アラビアで生活をしてみての感じたことを書いてみた。



N. Mori

アルジェリアのイスラム点描

アルジェリア・アルジェ日本人学校

中国短期大学 垣見 益子

「アッラーアクバル。」日の出前、モスケ(イスラム寺院)のスピーカーから朗々と流れるこの声でアルジェリアの朝は始まります。ただでさえ時差で眠りが浅かった初めの頃は、日本人が売りつけたというこのスピーカーを大いに恨んだものでしたが、次第に慣れていきました。正午頃、日本人学校のすぐ近くのモスケから同じ声が響き渡った時、「あれは、『クズイー、オハライ』と言っているんですよ。」と、先輩の先生に教えられ、

「アラブ語がわかるなんて、すごいですね。」と真面目に感心して大笑いされたことがあります。調子はそっくりなのですが、本当は、「アッラーは偉大なり」との意味で、ムスリム(イスラム教徒)への礼拝の呼びかけの最初の言葉だったのです。

憲法でイスラムを国教と定めたアルジェリアの生活・文化は、宗教を抜きにして語ることはできません。今回はイスラムの五行である、(1)信仰の告白(2)礼拝(3)断食(4)喜捨(5)

巡礼のうち、「断食」と「巡礼」の実践の様子を通じて、アルジェリアの一面を紹介したいと思います。

一 断食

イスラムの断食は、日本でも毎年そのニュースが報道されるまでに、世界的に有名になってきました。イスラム暦の第九月ラマダン月の三十日間、日の出から日没まで一斉の断食を断つ修業です。喫煙も禁じられています。太陰暦であるイスラム暦は、一年三五五日で西暦と十一日のずれがある為に、ラマダンは真冬になることもあれば真夏のこともある訳です。日没から次の日の出までの断食は認められているとしても、決して楽な修業ではありません。

コーランはラマダン月を「人々の救済として啓示された神聖月である」とし、この修業によって「お前たちにも本当に神を畏れかしくむ気持ちが出てくる」と述べています。飲食を断つ行為そのものよりも、人間の煩惱を抑えて清浄な境地に入ること、大きな意義が認められているのです。ですから、ラマダン月の結婚は昔から忌まれ、闘行為も禁じられていました。しかし同時にコーランは、日没後の性交渉は何ら差支え無いとし、また相手が攻めてきた場合は攻め返すべしと説いています。イラン・イラク戦争がしばしばこの時期停戦に入るのも、共にイスラム国ならではのことなのでしょう。

身体に少なからず影響を及ぼすこの修業は、本によれば病人、旅人、身体虚弱者、妊婦、乳児のある婦人、戦場の兵士などが除外されるそうです。アルジェリアで耳にした、十四才未満の子供・医者・看護婦・パイロット・警官もこの「など」に含まれるのか、それともアルジェリア独特の除外なのか私にはわかりません。バカロレア（大学入学資格試験）の時期と重なる場合は、その受験者も免除されるという話も聞きましたが、アクシッschuss家の三女のノラは試験当日も断食を続けたそうです。そして結局一浪する破目になりました。このあたりのことは、個々の家族の価値観の問題のようです。

滞在三年目の一九八五年のラマダンは五月二十一日からでした。カンカン照りで四十度を越したこの日、私は丁度フランス語講座の認定試験があり、朝早く夫の車で、アルジェ中心部のフランス文化センターへ行きました。昼間、暑さと試験疲れで痛む頭をかかえて駅へ行くと、ホームに人の影が見えませんが、駅の人に尋ねると、ラマダン中は列車が減り、一時間以上待たねば次の汽車が出ないとのことでした。いつもでしたらこれ幸いとウィンドウショッピングを楽しむところですが、ズキズキする頭ではそうもいかず、苦勞の末タクシーをつかまえて帰宅しました。道路は普段に増して渋滞し、イライラが募るのか、あちこちでクラク

ジョンが悲鳴をあげていました。この日何件か交通事故が起きたと、翌日マダムから知らされ、さもありなんと納得した次第です。夫も異常接近してきた対向車とミラー同士がぶつかり、はねたミラーでドアのガラスを割られてしまいました。お金を出せばすぐ修理してもらえ、日本と違い、その後大変な難儀をこうむることになったのです。初日の運転は要注意です。

ラマダンが始まって二週間目頃になると、見慣れた顔が除々に瘦せてきます。さぞかしつらい一月なのだろうと、フランス語講座で知り合った若い女性に尋ねてみると、期待に反して、

「私はラマダンが大好き。」
とニコッと笑って答えました。首をかしげている私を見て彼女は、

「だって、大っぴらに夜外出できるんですもの。」
とつけ加えたのです。

教義としては、日没後軽食をとり、モスクで特別の「心鎮めの礼拝」を捧げ、静かに、清く夜を過ごすことになっています。が、現実にはアルジェリアで見たラマダンは、かなり様子が違います。

日没後暫くバタツと人通りが途絶えた商店街は九時頃には昼間を凌ぐ賑わいとなります。日中扉を閉ざしていたカ

フェヤレストランも店開きし、照明が煌々と輝くなかを陽気な伝統音楽が流れていきます。普段はままならない女性達の夜の外出もこの期間は大っぴらに認められるのです。国营テレビはハリウッドやヨーロッパの古い映画を放映し、広場や港などでは、週末ごとにコンサート・ショーなどが催されます。交通渋滞は人々が家路をたどり始める一時頃ピークとなり、大勢の警官が出て整理をしても遅々として進まなくなります。

女性が友人を訪ね合う時でもあり、普段、日中でも全然と違っていいほど外出しないマダムも、二、三度ハイク姿で、大きな包みを持って娘さんを二人ぐらい連れて、夜の街へ出て行きました。苦業である苦のラマダンは、同時に一年中で最も楽しい期間でもあるのです。これによって若者の精神的なイスラム離れが幾分防げているのではないかと思えます。

ラマダンが近づくと、街からバター・卵・牛肉などが姿を消していきます。また店には砂糖やアーモンド、スムール（ひき割り麦）などの大袋が積み上げられますが、これもちまら売れていきます。断食を控えた食糧の買い貯めに初めは合点がいかなかった私ですが、話を聞いて納得しました。つまり、日中食べない分日没後、いつもより栄養価の高い料理、つまりごちそうを食べているのです。

各家庭では、バター、アーモンド、蜂蜜がたっぷり入ったお菓子を作ります。軽食に食される他、近所や友人にもプレゼントされます。これがマダムの大きな包みの中身だったので。私達も毎年もらいましたが、あまりの甘さに、二年目からは数を減らしてもらいました。夫をして「即席虫歯の素」と言わしめたアルジェリアのお菓子は、普段でも砂糖が多く使われていますが、それに輪をかけた感じでした。パン屋の店先からも、いつものバゲッドが姿を消し、蜂蜜入りのドーナツ型の大きいパンが並びます。

ラマダン中、テレビは毎夜、国内各地の翌日の日没時刻を分刻みで知らせます。修業を解かれるこの時刻が何人にも待ち遠しいに違いありません。ある日本人出張者がホテルのレストランで夕食を採ろうとして大変な目に会ったそうです。注文を取った後、待てども待てども料理を持って来ないので、しびれを切らして奥をのそくと、従業員が皆、一心不乱に、食事をしていたというのです。結局喰わされたのは「待ちぼうけ」だった訳です。

他のイスラム国で報じられるような警察による取締りは、アルジェリアにはありません。外国人事務所が多く並ぶ中心街のレストランは、ラマダンの日中でも開いており、昼食時には満席のようでしたし、ソフトクリームをなめながら街を歩いても何の咎めもありません。非ムスリム（非イス

ラム教徒)の飲食は自由なのです。外国人の為のキリスト教会、サクレクール教会が原子力発電所を連想させる建物を、アルジェの中心地に堂々とそびえさせていることにもアルジェリア政府の姿勢が表われています。とは言え、飲食を断ちつらい修業をしている人達の前でこれ見よがしに飲み食いするのは無神経なことですから、私達もそれなりに気を遣い、日本人学校でも通学バスの中でお茶を飲まないよう生徒達に指導したり、遠足をラマダンの時期からはずしたりしました。

学校の送迎バスの運転手さん達も当然ムスリムですから、安全の為ラマダン中は時間割を組み替え、生徒達を早く帰らせます。政府の役所は午前中のみ、日本大使館もそれに合わせます。敬虔なムスリムである二女シャブハによれば、「ラマダン中でも、日常と同じ労働をしなければならぬ」のだそうですが、現実には、仕事は滞り、日本からの商社マン達は仕事にならないとこぼしています。通学途中よく見る道路掃除の男性は、大てい木陰でへたり込んでいました。「ラマダンが無かったらイスラム社会はもっと経済的に発展するのに」という商社マンの言葉は、半分当たっていると感じさせられました。

ラマダン中のある日、マダムが

「今日は調子が悪いので少しスープを飲んだの。ラマダ

ンを一日延ばすことにしたわ。」

と言いました。また、ラマダンをフランスのリヨンの病院で過ごしたシャブハは、その年の冬、代わりの断食をしていました。黙っていたら外の人には解からないことで、家族の信仰心の深さをあらためて感じたのです。

かと思えば、ラマダン中でも断食をしないばかりか、酒までも飲んでいる家庭もあります。勿論、法律上アルジェリア国籍を有する者は皆ムスリムですから、大っぴらにはしませんが、相当数の家庭がラマダンを守っていないという話も聞きました。中国には「三人のムスリムはムスリム、二人のムスリムもムスリム、一人のムスリムは決してムスリムではない」という諺があるそうですから、アルジェリアに限ったことではないのかも知れません。禁酒国としてあれ程厳しい取締りをしているサウジアラビアにおいてさえ、何度も仕事で足を運んだ男性がその随筆の中で、「アルコールに関して言えば、サウジアラビア人は、「一人のムスリム」になりきっている」と書いている程ですから。

イスラムでは従来断食はラマダン月だけとは限りませんでした。贖罪の一方方法でもあったのです。例えばコーランは、誤ってムスリムを殺してしまった時の規定として、「もし相手が汝らとの間に協定関係のある部族の者である場合は、血の代価を相手に支払った上、信仰深い奴隷を一人解

放すること。もしそれだけの實力がないなら、二ヶ月間連
続断食すること」と述べています。勿論、近代法治国家が成
立する以前のことでしょうが。

五巡礼

メッカ巡礼は、イスラムを特徴づける儀礼ですが、これ
は告白・礼拝・喜捨・断食と違つて必ずしも義務ではなく、
健康な男女で、旅費と留守中の生活を保証することのでき
る、経済的に余裕のある者に限つて課せられます。

メッカのカアバ神殿は、イスラム出現のずっと前から、イ
スラムが徹底して打ちくだこうとした多神信仰、偶像崇拜
の聖地で、中には三五〇体の偶像が置かれていたといいま
す。その地がなぜイスラムの総本山となつたのでしょうか。



メッカのカアバ神殿
グランドモスケ発行「礼拝
の手引」より

マホメットは五七二
年、メッカの名門に
生まれました。彼の
祖先は、五世紀にメ
ッカを支配し、カア
バ神殿を再建したほ
どの有力者であつた
といひます。しかし、
彼が生れる前に父は

没し母も六才の時他界しました。彼を育てた祖父も死に、
裕富ではない伯父の下で成長したのです。

六一〇年最初の啓示を受けた彼は、人々の心に深く根を
下していた偶像崇拜や崇石信仰を否定し、アッラーのみを
神として畏れるよう布教を始めました。初めの信者は主と
して奴隷や下層民でしたが、やがて旧秩序を維持しようと
するメッカの指導者達の迫害を受け、最大の協力者であつ
た妻と伯父を失い、公けの伝道を中止し、メッカへの巡礼
者への宣伝に主力を注ぎました。

間もなく、メッカと対立関係にあり、ユダヤ教徒の多い
メディナの招きを受け移動を決定し準備を始めた彼は、生
れ故郷を裏切つたと解釈されて生命の危機に面しました。
六二二年九月二十日ようやく難をのがれてメディナに落ち
のびましたが、これは「聖遷（ヒジュラ）」と呼ばれ、十七
年後に第二代カリフ（預言者の後継者）によって採用され
たイスラム暦（ヒジュラ暦）の出発点となっています。メ
ディナではマホメットは宗教的指導者であると共に政治的
支配者でもありました。メッカ時代に啓示を受けたコーラ
ンが、概して短く、激しい調子をもち、信仰に関する記述
が多いのに対し、メディナ啓示は、概して長く、婚姻・離
婚・相続・契約・売買・訴訟・裁判・非ムスリムの権利と
義務・犯罪と刑罰など立法関係が多くなつてゐるのです。

メデイナのユダヤ人と親しく交った彼は、キブラ（礼拝の方向）をユダヤ教のキブラであるエルサレムに定め、コーランも著しくユダヤ教的色彩を帯びてきました。しかし、マホメットの権力の増大を警戒したユダヤ人がイスラム軍を攻撃するに至り、彼はキブラを変更しメッカのカアバと定めたのです。以降、従来異教邪宗の中心であったメッカの神殿がイスラムの総本山となったのです。コーランは、※最初キブラをエルサレムに定めたことについて、「本当にマホメットについて来る人と背を向けてしまう者どもとはつきり見分けるための方便だったのだ」と説明し、※カアバを「人々の為に建てられた最初の神殿」「万人の還り来る場所」「安全地域（罪人でもここに逃げ込めば害を与えられない）」と定め、「汝らアブラハムの立処を礼拝の場所にせよ」と命じています。イスラムの伝承では、カアバ神殿はアブラハムがその子イスマイルと共に建てたことになっており、建築の途中にアブラハムが立っていた石が彼の足跡を残しており、神聖視されています。

メッカへの巡礼は、イスラム暦第十二月の七日から十日にかけて行われます。今でこそ車・船・飛行機の利用ができませんが、昔は遠方から徒歩で砂漠の中を行ったのですから大変な旅といえます。

巡礼の務めを果たそうとする者は、女性に触れたり放蕩

喧嘩したりすることを禁じられ、一種のタブー状態にあるとして狩猟も禁じられています。その他、着衣や心得など厳重に定められています。ムッシュユの話では、巡礼中は血を流してはいけないのでひげも剃らないとか。禁を破れば羊一匹を神に捧げなければならないそうです。

カアバに着いた信者は神殿を七回まわり、徒歩で近くの聖なる丘アラファトを訪れます。日没と同時にそこから、メッカとの間にある聖なる立場ムドザリファアへ信徒の大群が駆け寄せるのだそうですが、その喧嘩ぶりは大変なものだとか。つまづいてころぶ者も続出するそうです。正規の巡礼以外にも、小巡礼といって、近くの二つの丘のまわりをぐるぐる回る、イムラム以前のアラビアの聖地詣での習慣も、メッカ巡礼の一部として取り入れられています。

メッカ巡礼はムスリムであれば誰しも望むことですが、経費がかさむので、外貨統制の厳しいアルジェリアでは簡単なことではありません。毎年夫婦でかかる金持ちもいますが、ムッシュユのように、政府のチャーター便で比較的安く団体巡礼をする番を待つ人もいます。彼の番は、私達の滞在二年目の夏に訪れました。八月十三日買出し旅行から帰った私達は、その朝早くムッシュユが発ったと聞きました。庭にはメッカ巡礼を祝う前夜のパーティのあとが残っていました。

九月十二日大きな荷物をかかえて帰ってきたムッシュは別人かと思える程にやせており、疲労困ぱいしているように見えました。数日後庭で巡礼について尋ねた私に、

「大変な暑さで、確かに肉体的には厳しい巡礼ではあったが、心は今までに感じたことがないほど澄みきっていた。とても言葉では言い表わせない気持ちだ。巡礼をして本当に良かった。」

と穏やかな笑顔で話してくれました。退職後、晴耕雨説の日々を送るムッシュは、日頃からもの静かで柔和な表情ですが、それが一層深まった印象を受けました。イランの組織化された巡礼団が、メッカで大騒乱をひき起したとニュースで知った時、突差にムッシュのこの顔が思い出されました。彼はどんな気持ちでこのニュースに接したのか、と想像すると心が痛みます。

巡礼から帰って後、彼は金曜日モスクへ小さな帽子をかぶって行くようになりました。レース糸できっちり編まれたもので、白いお腕型のものや、背と二糸使いのトルコ帽の形をしたものもあります。これは巡礼の修業を終えたムスリムのみ許されるもので、これをかぶった人は敬虔なムスリムとして尊敬されるのです。ムスリムならぬ夫は、ムッシュが記念にくれた白い帽子をかぶり、思い出にと買い求めた礼拝用の衣を着て時々外出しましたが、きつと周



メッカ巡礼後のムッシュの礼拝姿



民族衣装の筆者夫婦

のない年輩の男性達も出身地のティジュズから来ており、やはり頭に白い帽子をのせていました。客は全部で二百人近く。広いテラスに設けられた席で、シヨルバ・クスクス・デザートという伝統的な料理のコースをひとつとおり終えると、次の人と入れ替わっていました。ティジュズに

りの人達には珍妙に見えたことでしょう。
メッカ
巡礼はムスリムにとって一生の大事ですから、帰国後も盛大なパーティーを催します。
今まで会ったこと

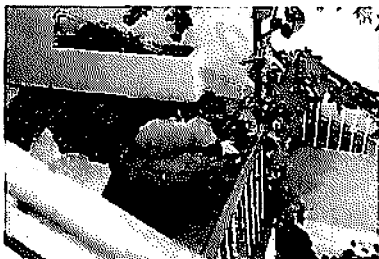
住むムッシュの姉妹が何日も泊っていたのは料理などの準備の為でもあったのです。料理を出したり下げたり、限られた数の皿を洗って拭いて、と総動員された子供達や従兄妹達はてんでこ舞いでした。マダム達既婚の女性達は、料理を作ったら家の中に入ってしまふのです。水が止った後は、皿洗い用に我が家の貯め水も提供しました。

ムッシュのメッカ巡礼にはおまげがあります。メッカには巡礼客向けにたくさんのお店が並び、日本製品なども安く売っているそうです。国内では外国製品が手に入りやすいアルジェリア人の巡礼者は、いきおいどっさりお土産を買って入ったのです。ムッシュも例外ではなく、大荷物の中にはラジオやカーステレオなど家族へのお土産が入っていたのです。また、政府の団体巡礼には、メッカのあとヨーロッパ各地もコースに組まれており、第二大戦中フランス軍に加ってドイツに行ったムッシュにとっては、この点でも感無量の旅だったようです。修業の旅は、ここでも現実的な楽しみと表裏一体のものとなっていたのです。メッカ巡礼の儀式が終わるイスラム暦第十二月十一日から二日間、イスラム最大の祭りである犠牲祭が行われ、各家庭で羊が神に捧げられます。「ムトン祭り」と私達が呼んでいたこの祭は、断食明けの祭りと併せて二大祭と呼ばれます。前者が大祭、後者が小祭です。

犠牲祭のいわれは紀元前三千年に遡ります。最初のムスリムと言われる予言者アブラハムが、息子に恵まれなかったのに神に祈りましたところ、願いは叶い息子を授かりました。息子がかなり成長した頃、彼は夢の中で「息子を返せ」との神の声を聞き、翌朝息子を伴って山へ登ったのです。事情を知り神に召されることを承諾した息子の喉にナイフを当てようとした時、天使が神から与えられた頭の黒い羊をアブラハムの前に置き、その羊は息子の身代りとして神に捧げられました。それ以来、ムスリムは毎年イスラム暦第十二月十二日に羊を生にえとするようになった、というのがムッシュの説明でした。聞き覚えのある話だと思っただけのも当然、これは旧約聖書に登場するアブラハムの話と全く一致しています。ただ場所がメッカに変わって、カーバ神殿は後にアブラハムとその息子によって建設されたことになったのです。

アクシッシュ家では、八三年、八四年はアパート暮らしで場所がない親族も含めて三頭、八五年は一頭生にえとしました。羊は二日程前に買いガレージの車の中に入れていました。当日はムッシュ達家長がモスケに特別の礼拝をしに行き、十時頃から羊が私達の寝室の横のテラスに引き出されてきます。羊を横倒しにし頭をメッカの方へ向けると、喉元に鋭いナイフを当てます。太い血管から鮮血がふき出

手が込んでいて、胃壁を十センチ角に切り、半分に折って



回転する羊

その晩は頭部、足、内臓などだけの特別料理が作られます。内臓の料理はとても



羊の喉元にナイフを入れる

し羊のまわりに血の海を形成する間、羊は微動だにしません。二分近く経つと、次第にけいれんを始め脚をばたつかせだします。その足のけりで血糊の中の羊が一回転すると、神に喜んでもらえたことになり、見守る大人・子供の表情がほころびます。けいれんが止まると、首と膝下がまず切断され、マダムによってコンロであぶられます。胴体は逆さにつるし、皮を剥ぎ、内臓を出します。これもすぐマダムの手にゆだねられます。十分血の抜けた胴体は一晩地下室につるされて、

三分割します。カビリの習慣では長男は姉妹一人ひとりにをもを一本ずつ与えることになっていて、ムッシュには三人姉妹がいるので残るは一本のももと胴体になります。その半分が喜捨になるのです。現レートで六万円もする羊が



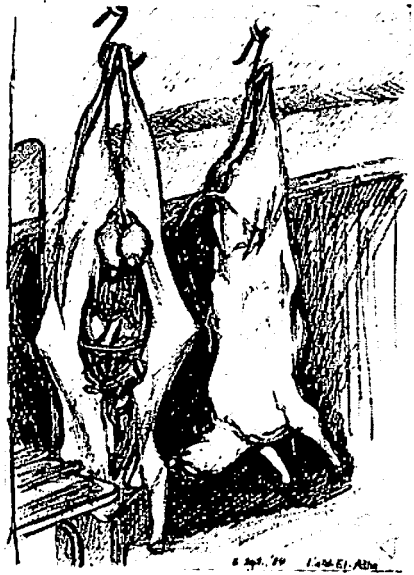
皮の剥ぎ終り

先に食し、肉の死後硬直が解けるのを待つという合理的な習慣でもあります。翌朝肉を自家用、親戚用、貧しい人への喜捨用と



皮の剥ぎ始め

糸で縫い袋を作ります。その中に内臓の断片、米、ナッツをませたものを詰め、よく煮て糸を抜き食卓にのせます。頭や足はホルモン料理のようです。晩のうちに天使が羊の周りを回って初めて、神に捧げ物が受け取られたことになるのだそうですが、傷み易い部分を



一晩つるされる羊

殆んど人手に渡るといふ、経済的に余裕のある家でしかできない儀式ですが、その為にアクシッシュ家では平素大変簡単な生活をしているのです。カビリではまた、母親が嫁いだ娘達にももを配ったり、二男・三男も自主的に姉妹に配ることもあり、ももが集まりすぎると近くの貧しい人達に分けてあげるとか。七・八人の子供が当り前のカビリで、この時期羊のももがあちこち行き交うのかと想像すると、やはりイスラムの相互扶助の精神の深さを感じさせられます。

肉食はしても身近に屠殺場面を目にすることが無く、殺

生を残酷なものともみならず文化に育った私達日本人には、いささかショックな祭りではありますが、その意味を前もってムッシュに教えてもらった私にはあまり抵抗はありませんでした。ただ、いくら血をきれいに洗い流していても、テラスに面した寢室の窓はその後半月程は開ける気にはなれませんでした。

三 受難のイスラム

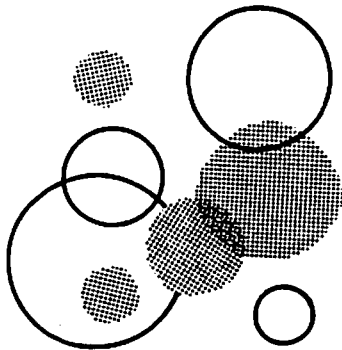
若い国アルジェリアは年々の変化目覚ましいものがありますが、帰国後二年足らずの間にもその外見・生活は変わってきているようです。

高速道路網の整備、ダム増設による断水時間の短縮などにより、生活が改善されたとか、国内生産の増加で卵や鶏肉、生鮮野菜などの供給が質量共に向上しているとか風の便りに聞かれます。ラマダン中にも卵などが姿を消すこともなく、一ヶ月も前から買い貯めをする必要も無くなったそうです。今ラマダンは四月下旬頃に繰り上ってきていますので新任の先生達にとって、また受入れ準備をする方にとっても気苦労がひとつ減ったといえます。

国産品の流通の改善に比べ、逆に輸入品は厳しい統制を受け激減しています。石油価格の暴落は八六年以降アルジェリアの貿易収支を著しく悪化させ、再び家電製品、食糧品、

嗜好品などの輸入を圧迫しています。政府は国民に節約を呼びかけ、浪費を非難していますが、イスラム行事も決して、「聖域」ではなく、攻撃の矢面に立たされています。八六年、最大の祭りである「犠牲祭」を前に控えて、イスラム最高協議会は、各戸で羊を神に捧げる儀式を「全くコーランの教えにも劣る」行為であるとして非難したそうです。この日だけで全国の羊の五割以上にあたる百万頭が屠殺され、これが日常の羊肉供給不足に拍車をかけていることも非難の理由のひとつだそうです。

数字の上では理解はできませんが、この祭りがアブラハム以来のムスリムの信仰を象徴するもので、人々に親しまれているものだけに割り切れない気持ちが残ります。それだけ経済情勢が逼迫しているということなのでしょう。今後アルジェリアの国際収支がどのように推移していくのか、それにつれて宗教行事を始め国民の生活はどう変化していくのか見守っていききたいと思います。



インドという国について

インド・カルカタ日本人学校
岡山・高松中学校 西崎 正明



国旗
上から順に橙、白、緑の横縞模様の三色旗で中央に国章とされているアショーク王石柱頭の法輪の紋様が青で染めぬかれている

国歌
ラビンドラナート・タゴール（ノーベル文学賞受賞）作詩・作曲の「ジャナ・ガナ・マナ」の一番が国歌とされている。

〈位置〉

インドは南の国で暑いと云われていますが地図を見ますと、国境線の北は北緯三十四度から三十七度で岡山県の新

見市附近と同じになります。

南は北緯五度あたりですので赤道からわずかに北になります。北の国境地帯は世界の屋根といわれているヒマラヤ山脈ですので、高度もありますが氷点下になります。東は東経八十八度、西は六十八度位になります。インドの標準時間はグリニッチ標準時より五時間三十分早くなっています。

したがって日本より三時間三十分遅く日本の正午は午前八時三十分となります。

日本から直行便の飛行機に乗りますと、カルカタには約十一時間、首都デリーには十二時間、西部アラビア海岸にある商都ボンベイには、十二時間三十分～十四時間で到着します。

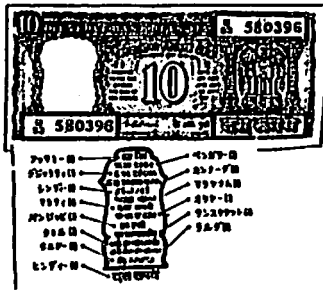
およその位置

	日本約	インド約
北端	45°	34°
南端	20°	5°
東端	153°	88°
西端	122°	68°

〈面積〉

面積は約三百三十万㎞²です。ソビエトを除くヨーロッパ全体が約四百三十万㎞²ありそのうちスカジナビア半島が約百万㎞²ですから、この半島を除くとヨーロッパとインドがほとんど同じ面積になります。そしてこの面積に含まれるヨーロッパの国々は十八ヶ国ですので、インドの国と十八ヶ国が同じことになります。

〈気候〉



じ言語を話している人達や歴史的に重要な言葉、その他を考慮して、十五の言語を「特に発展・普及させるべき言語」と規定し憲法の中にうたっています。したがって、インド語というものはありません。又英国が統治していた関係で英語はインドのほとんどの地域で通用しますので、前述の十五の言語と英語が公用語となっています。十五の言語のうち十三の言語は、それぞれの言語を千万人以上の人達が使用しているといわれています。インド人同志でも生活をしているところが違うと話ができないようです。したがって、インド人達が日常生活で使う紙幣の裏面には十四の公用語と英語でその紙幣の値が書いてあるし、鉄道の駅の名前がローマ字とヒンディー語そしてその駅のある地方の言葉で書かれています。

一〜八まではインドリアーリヤ系統の言語
九〜十二はドラヴィタ系統の言語
以上十二の言語はすべて話される領域が決まっているのでそれぞれが州になっています。十三〜十五は一定の領域を持たないがインドリアーリヤ系

15 の 言 語

1	ヒンディー語	話者人口が最も多い ウッタールニブランデーシ州 ハリヤナ州 ヒマチャルニブランデーシ州 マディヤニブランデーシ州 マラージャスターン州 ビハール州
2	カシヤール語	地方 カシヤール州
3	ベンガル語	地方 ベンガル州
4	マラーティ語	マラーティ州
5	マラーティ語	マラーティ州
6	アッサム語	アッサム地方
7	アッサム語	アッサム地方
8	オリッサ語	オリッサ州
9	アンドラ語	アンドラニブランデーシ州
10	カタル語	カタルニブランデーシ州
11	ミズラム語	ミズラム州
12	ラジャスタン語	ラジャスタン州
13	マニプル語	マニプル州
14	ウーリヤ語	ウーリヤ州
15	サンスクリット語	古典文学の発 展に寄与した



の言語です。
字が書いてあって
も読めないと駄目
すから、小学校から
英語・ヒンディー語
とその学校のあると

この言葉が教えられています。

〈宗教〉

インドの長い歴史のなかで（約五千年の歴史をもっています）、その時その時代に治めていた人達によって色々な宗教が盛え衰え現在では、次の七つの宗教がみられます。

一	ヒンドウ教	人口の	八十四%
二	イスラム教	"	十一%
三	キリスト教	"	二%
四	シーク教	"	一・七%
五	仏教	"	〇・七四%
六	ジャイナ教	"	〇・四六%
七	パーシ教	"	〇・一四%

貴方の宗教は何んですかと聞かれると私達日本人は、すぐには返事ができず考える人が多いと思いますが、インドでは、すぐに〇〇ですと答えがかえってきます。そのように、宗教はインドの人達の生活の中に定着し、その宗教の教えによって日常生活が規定されているようです。例えば

ヒンドウ教

牛はヒンドウ教の神であるシヴァ神の乗り物として神聖

視されるため、牛肉は食べない。又人間の一生は死んで終るものでなく、何らかの形で次の別の一生に生まれ変わると信じられているので、死者は火葬にしてその灰を川に流すと天にかえり次の時代に生まれるから墓は作らない。又カーストという階級制度があります。（後述）

イスラム教

イスラム教徒は、豚は穢（けが）れた存在だから豚肉は食べない。死者は土葬にしてお墓を作り一日五回礼拝をおこなうことになっています。

シーク教

シーク教徒は頭にターバンを巻き、ヒゲを剃らず、体格が良く勇敢なので、武人として、スポーツマンとして頭角を現わしています。階級制度がなくあらゆる職業で活躍しています。主にパンジャブ州に住んでいる人達で、インド人はターバンを巻いていると思っていたらこのシーク教徒だけでした。

仏教

ヒンドウ教とよく似ているが、ヒンドウ教のカースト制度を容認せず、人間は人種・地位職業などと関係なく、皆平等という教えで紀元前三〜四世紀頃インドで発祥した。しかし現在インドではほとんど消滅し、スリランカ・タイのルートとチベット・中国・朝鮮・日本のルートの二つに分れて普及し、前者が小乗仏教、後者が大乘仏教となっています。

ジャイナ教

仏教の考え方によく似ていますが、生きているものは絶対に殺さないし、傷もつけないことを強調していますので菜食主義者（ベジタリアン）になっています。

パーシ教

死者の遺体を鳥についばませるといふ習慣があります。以上のようにインドでは宗教が自分達の生活の支えとなっているようです。

〈カースト制度〉

インド人の大部分がヒンドウ教徒ですので、この教えの中にあるカースト制度がインドの人達の中で育てられたようです。

しかし、第二次大戦後インドが独立したときにつくられた憲法でカースト制度の廃止が決められています。それでも、

長い間に培かれたこの制度は、例え憲法で廃止されてもヒンドウ教徒の中に根づよく残っています。

カースト制度の基本となるものは、アーリヤ系の人達がヨーロッパからインドに侵入してインドの人達と生活をしてゆくなかで、侵入者と原住民との区別をする必要があったので生まれたようです。最初は、アーリヤ民族の肌の色（白）と原住民の肌の色（有色）との違いによる二つの区別でした。インドに侵入しそこで生活をしている間に、アーリヤ民族の内部にも、バラモン教を司る僧侶、戦いや政治をする王族・戦士・経済活動や生産活動に必要な商・工・農に従事する庶民の三つの区別が必要となり、それ以外に労働をする奴隷階級（原住民）が位置づけられ、次の四つの階級ができあがりました。

バラモン……………	(僧侶・祭官)	}	アーリヤ族(白)
クシャトリヤ……………	(武士・貴族)		
ヴァイシャ……………	(商 人)	}	原住民(黒)
シンドラ……………	(労働者・奴隷)		

最初は色による二つの区分であったものが、四つの区分になり、これをヴァルナ(身分)といつて、上下関係のある社会制度ができあがってきました。そして、ヒンドウ教徒の人達の日常生活のなかには、親の職業と子供の職業が同じというように、生まれたときから自分の職業が決まっている制度もできこれを「ジャーティ」「生まれ」といいインドの社会の中には、二千も三千もあると言われています。そして四つの区分の中にそれぞれこのジャーティがあると言われこれをサブカーストとも呼んでいます。

この「ジャーティ」集団はその同じ集団同士でなければ結婚ができないとか、浄・不浄により上下関係があると言われています。

更にこの四つの区分にも所属させてもらえない人達がいいます。アウトカーストの人達でアンタチャブルとか不可触財民とか言われ、人間扱いをされないみじめな生活をしてきたようです。当然これらの問題を解決させる為にならば

っている人達もいます。

同じ人間なのに、皮ふの色によって、又職業によって、生いたちによって、差別され、上下関係があるということは、私達と同じ人間であるのにまことに残念なことです。はやくそのような制度が解消されることが望まれます。

〈インド大陸の小史〉

紀元前二千三百五〇年〜千七百五〇年頃インダス文明が、もっとも栄えた様子がモエンジョ・ダエロ遺跡(現在はパキスタン)にみられ、当時すでに区画された市街地・排水設備などの都市的文明があったようです。その後紀元前千八百年を過ぎる頃から洪水とか地震の隆起など色々な理由でその文明が衰え、地方的な文化へと変わっていきました。

紀元前千五百年頃、遊牧の民であったアーリヤ民族がパンジャブ(北西部)地方から進出し農耕民であった原住民との共存がおこなわれました。そして、ガンジス河流域に定着をしたアーリヤ民族はバラモン教を宗教とし、カースト制度の原型を作ったと言われています。

その後、紀元前四世紀頃から十世紀頃まで北・西インドで色々な勢力が起り、栄え、滅亡しながら、仏教や、ヒンドウ教などの寺院や石窟などに見られるような、すばらしい文化がつくられました。一方南インドでも九世紀頃から十三世紀にかけてドラヴィタ民族による伝統的文化が栄

えました。

十一世紀から十六世紀にかけて、ムスリム（イスラム教徒）の勢力が侵入しインド各地に及ぶ、ムスリム時代となりました。この時代は、タージ・マハルを代表する数々の美しい建築や美しい細密画が描かれています。

十七世紀になってヨーロッパ人がインドの産物である香料や綿布をヨーロッパに運ぶため商業の目的で進出が始まりました。

しかし、十八世紀頃になって、インド国内の王侯がそれぞれの地方で覇権を求めて争い、それにイギリス・フランスが加わるようになりました。十九世紀になってその争いが一段落したときには、イギリスがインドの植民地化に成功しました。

第一次世界大戦後、インドには独立の機運がみなぎり、ガンディーが不服従・無抵抗などの運動でインド人を指導し、第二次世界大戦後の一九四七年八月十五日に独立を達成しました。

その際イスラム教を信じる人達が、西パキスタン（現パキスタン）東パキスタン（現バングラディシュ）として分離独立をしました。

（カルカタでの生活から）（S五十六年～S五十九年）

私が三年間生活をしたカルカタは、インドの東部にあり、

十七世紀末イギリスの東インド会社が進出した事で発展し、一時はインドの首都にもなりました。現在は人口五百万とも六百万とも言われていますが、バングラディシュからの難民や、地方からの出稼ぎ人等が多く、生粋のカルカタ子は、三分の一と言われています。

ニューデリー・ボンベイ・マドラスはカルカタと共にインドを代表する大都市ですが、いずれも街並みはヨーロッパ化しているのに比べ、カルカタは、交通信号も少なく、美・醜・滑・濁が混在し、インド全体がかかえる現実と常に直面していて、明日のインドの発展のために、もがき、苦しみ、努力しながら、一生懸命に生き続けている街です。

例えば、停電は一日平均八～十時間あり、テレビは白黒があります。一日に夕方二～三時間の放映でごく一部の上層階級の人達だけのものです。大部分の人達は日本の生活に比べると貧しく、その貧しさにも随分差があります。二～四階位の家というより部屋に住んでいる人達はまだ良い方で、拾い集めた布やビニール状のもので屋根の壁を作

って生活をしている路上生活者があちこちで見られます。マザー・テレサがノーベル賞を受賞したとき、カルカタは

世界最悪の居住環境と言っていたが、「家」に関係のない人が多いのに納得させられます。そして、車の内外を問わず人が乗っているバス、電車、自動車それに人力車、牛車、

馬車、自転車、スクーターなどあらゆる車に加えて、牛、山羊の群れ、その間にあふれている人人……、ルールがあるようでないような状態で混然と機能している街、コレラ、赤痢、マラリヤ、肝炎、チフスなどの病気が絶えず発生し、その中で生活をしていると、下痢や発熱には驚かなくなつてきます。

裸足で歩き、半裸か、破れたサリーやシャツで生活をし、溜池や歩道に約百㎝毎に吹き出ている引き水（英国統治時代に道路清掃用としてガンジス川の支流から引いた濁った水）で、洗面、炊事、洗濯、身体洗いをし、そのうえ牛の水浴まで一緒にして平然としている人々をみると過酷な条件下で生き生きと生活をする生命力の強さに感心させられます。

厳しい自然の中で、多くの問題をかかえながら、年中咲きほこる色とりどりの木や花のごとく、実に明るく、逞ましく働き、助け合つて生きているインド人の社会から「豊かさ」と心の貧しさ」がみられる日本に帰つて、「貧しくとも明るく生きる」彼等を思うとき、どちらが幸せなのかと考へてしまいます。

又悠久の歴史と文化を持ち、宗教に支えられた。他種他様な人達が他人にへつらうことなく生活をしている強烈な生命力をもったインドを考えると、同一の皮ふで、同一の

言語で、同一の民族がわずか百年ばかりの間に世界をリードする位の文明をつくりだした日本と、どちらが進んだ国か、おくれた国かなどを比べることは無意味で色あせてしまふような気がします。

参考文献

生活の世界歴史五

—インドの顔—

辛島 昇 著
奈良 康 明 著

(河出書房新社)

ブルー・ガイドブックス編
—インド—

(実業之日本社)

Favourite Stories from Asia

インドネシア・ジャカルタ日本人学校

岡山県総合文化センター国際課 井 関 繁 孝

1 THE LADY IN THE MOON

Do you know the story of the Lady in the Moon? Hou I had a very beautiful wife called Chang O. She was quiet and hard working. She loved her husband very much. She always worried about her husband's health because he worked too hard.

One day, one of Hou I's friends told him about the "Pill of Everlasting Life". Hou I at once sent his servant to get it for him from the Queen Mother of the West.

The Queen Mother lived by herself on top of a high mountain. She was not very beautiful. Her teeth were as long and strong as a tiger's. She spent her time making medicine from grass and flowers. At first, she did not want to give the pill to Hou I's servant. When he told her who his master was, she became afraid. She quickly gave it to him.

"Tell your master that the pill is very strong," she said. He must not take it when there's a full moon. If he does, he will fly straight up to the moon." Hou I was very pleased to get the pill. His wife kept it for him in a box in her room.

One night, when she was looking at the full moon, she decided to take the pill. Her body suddenly became lighter and she left the ground. She began to fly up in the sky towards the moon.

When her husband saw her, she was already too far away. In a short time, she landed on the moon. She felt very cold and lonely. She thought of her husband every day and wanted to return to him. But there was no way for her to do so.

Q 1 適当なことばを選んで、○をしなさい。

- (a) The Lady in the Moon was
- 1 Chang O.
 - 2 Hou I.
 - 3 The Queen Mother of the West.
- (b) The Queen Mother of the West lived.
- 1 alone.
 - 2 with a tiger.
 - 3 with her sister.

Q 2 適当な答えを選んで、○をしなさい。

- (a) Did Chang O keep it for him in a box in her room?
- 1 No, she wasn't.
 - 2 Yes, she does.
 - 3 No, she didn't.
 - 4 Yes, she did.
- (b) Where did the Queen Mother live ?
- 1 On the hill.
 - 2 In the moon.
 - 3 On top of the high mountain.
 - 4 Near the lake.
- (c) What did Chang O feel in the moon ?
- 1 She felt hot.
 - 2 She felt hot and lonely.
 - 3 She felt very cold and lonely.
 - 4 She felt very cold and happy.

2 BATHALA AND THE RAINBOW

THE PHILIPPINES

In the beginning there was no rainbow. Bathala was king of the gods and goddesses. He used the rainbow as a bridge to join the earth and sky.

In those days, Bathala and the gods and goddesses used to live on earth. They taught people how to catch animals in the forest, how to grow fruit, and how to make war.

One day, Bathala decided to visit his kingdom in the sky. He got ready his strong fine horse which could jump over mountains and run as fast as the wind. He sat on a gold seat. He rode on his horse. He called out to his servants in the sky and told them to build a bridge so that he could pass over it. All at once, beautiful, many colored ribbon appeared joining the earth to the sky. Bathala rode over this bridge on his horse to the kingdom.

Since that time, a rainbow has been called BAHAGHARI in the Filipino language. It means "way-bridge of the king". Today, when people see a rainbow in the sky, they know that Bathala is again making a trip from earth to the sky on his strong horse.

Q 1 適当なことを選んで、○をしなさい。

- (a) Bathala taught people
- 1 how to make war.
 - 2 how to ride a horse.
 - 3 how to make a rainbow.
- (b) One day, Bathala decided to visit
- 1 his wife in the sky.
 - 2 his kingdom in the sky.
 - 3 the people in the sky.

Q 1 適当な答を選んで、○をしなさい。

(a) Did Bathala live alone on the earth ?

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he wasn't.
- 3 Yes, he did.
- 4 No, he didn't.

(b) Where did Bathala go ?

- 1 He went to the earth.
- 2 He went to the God.
- 3 He went to the mountain.
- 4 He went to the kingdom.

(c) Why did Bathala want to build a rainbow ?

- 1 Because he wanted to make a ribbon.
- 2 Because he wanted to make a gold seat.
- 3 Because he wanted to stop the war.
- 4 Because he wanted to pass over the sea.

3 THE TWO HOLES

JAPAN

There were two good friends, Yamada and Shimada, who liked to tell stories to each other. Yamada asked Shimada "What's the thing that becomes larger the more you take away from it ?"

"I don't know," Shimada answered.

"It's a hole," Yamada told him laughingly.

"All right," Shimada said, "let me tell you a story about a hole."

"A painter kept two cats. One was large and the other was small. One day, his friend noticed there were two holes in the door of his house. One was large and the other was small.

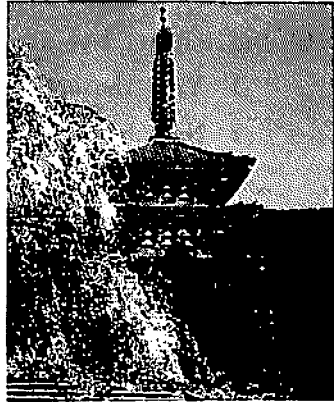
"What are those two holes for ?" he asked the painter "I

keep two cats," the painter answered.

"One's large and the other's small. The large hole is for the large cat and the small hole is for the small cat."

"How foolish!" his friend shouted. "Why can't the small cat use the same hole as the large cat?"

"You're right," said the painter. "I hadn't thought of that."



Q 1 適当なこどばを選んで、○を下さい。

- (a) There were two good friends. They liked to
- 1 tell stories.
 - 2 draw pictures.
 - 3 make holes.
- (b) The painter kept
- 1 two friends.
 - 2 two houses.
 - 3 two cats.

Q 2 適当な答を選んで、○を下さい。

- (a) Were there two large holes in the door?
- 1 Yes, it was.
 - 2 No, they weren't.
 - 3 Yes, there were.
 - 4 No, there weren't.
- (b) How many cats are there in this story?
- 1 There is one.
 - 2 There are two.
 - 3 There are three.
 - 4 There are some.

(c) Why can't the small cat use the same hole as the large cat ?

- 1 The painter said, " It was too large. "
- 2 The painter said, " It was too small. "
- 3 The painter said nothing laughingly.
- 4 The painter said, " I hadn't thought of that. "

昨年 8 月に最終答申された臨教審は、「国際化への対応」を本審議会の主要課題として掲げ、海外子女教育への対応、留学生の受け入れ、高等教育の在り方とともに外国語教育の見直しについて具体的な提言をしている。

英語教育の目的には、コミュニケーションを図るための国際共通語としての側面と諸外国の地域に根ざした歴史・地理をはじめとする風俗・習慣等の理解と研究を進める側面がある。この "Favourite Stories From ASIA" はこうした英語教育のねらいの一環として、アジア地域に派遣された教員の立場から、この地域に残る物語を参考にして編集した。

中学生の L L 教材として作成したものであるが、彼等が英語の運用能力を高めるとともにより一層隣国アジア諸国の理解を深め親しみをもってくれば幸いである。

※各編の New words は New Prince (開隆堂中学生用教科書) の新出単語内にとどめ、文中の※印はそれ以外で 6 語以内にとどめた。

※中 3 の総仕上げの時期に使用する L L 教材としたが、読解用にも使用できる。

※ Leon Comber 作品集 (原本) を参考にし、元ジャカルタ日本人学校英会話講師 Jan さんに協力していただいた。

「昭南島」と呼ばれていた シンガポール

シンガポール・シンガポール

勝央町立植月小学校 乗 峯 憲 悟

東南アジア、マレー半島の先端に浮かぶ小さな島国シンガポール。私達の多くは、シンガポールと聞いて何を思い浮かべるでしょうか。熱帯雨林、マラッカ海峡……。しかしシンガポールから昭南島という言葉を連想する人は少ないでしょう。

今は、多くの日本人観光客が訪れ、現地在住の日本人も二万人弱、進出している日系企業約八〇〇社と非常に緊密な関係になっている日本とシンガポールですが、かつて一時期であるにしても不幸な歴史があったことを知っておく必要があるでしょう。

一、太平洋戦争の始まりとマレー半島上陸

一九四一年（昭和十六年）十二月八日のハワイ真珠湾攻撃はあまりに有名ですが、実はそれより少し早い時刻に日本軍はマレー半島に上陸していたのです。

当時、日本軍はハワイ・マレー・フィリピンと三方に作戦を展開しようとしており、マレー半島では、半島を縦断しシンガポールを占領する計画でした。

そのために、シンガポールを正面（南側）から攻撃せず背後（北側）から攻撃しようとマレー半島のコタバルへと上陸したのです。

二、マレー半島の南下

日本軍はシンガポール占領の日を一九四二年二月十一日と決めていました。この日は今は建国記念の日となっていますが、当時は紀元節と呼ばれており、その日に合わせていたのでしょう。コタバルからシンガポールまで約一千キロメートル、ここを約六〇日で各地を占領しながら突破しようとする強行軍でした。

マレーシアは、天然ゴムの産地として世界的に有名であり、今もどこを歩いても多くのゴム林があります。マレーシアを旅してみるとパームオイルの木とゴム林の続くのどかな農村風景が広がっています。その当時、冬とは言え、熱帯の国です。日本の夏と同じような気候の中、日射病や蚊に悩まされながら、次々と各地で戦闘を繰り返して、占領してマレー半島を南下していったのです。この時、日本軍は、進攻を早めるために自転車を使用しこれが「銀輪部隊」と呼ばれて有名になりました。

シンガポールは山のない、ほぼ平坦な島であり、水利には恵まれておりません。当時もマレー半島最南端のジョホールバルという町から水道管を引き、水資源を確保していま

した。日本軍はこの水源池となっているジョホールバルを
まず占領しようとした。コタバル上陸から約六十日余、
一月三十一日に占領を完了したのでした。

三、シンガポールへの上陸

ジョホールバルを占領した日本軍は、三方から侵攻を開
始したのですが、当時駐留していた英軍の猛反撃を受けて
一週間、釘付けにされていましたが、激烈な砲戦が交わさ
れた後、二月九日にシンガポール島北部に上陸したのです。

シティと呼ばれているシンガポール中心地を目指してま
た各地で激戦が続くのですが、その中でも特にブキテマと
言われている一帯では激烈な戦いがおこなわれました。

ブキテマには小高い丘があります。今は、ハイキングコー
スとなり、頂上には展望台、休憩所が設けられ市民の憩い
の場となっていますが、当時はこの高地をめぐる悲慘な
戦いがあったのです。今もこの一帯には当時の防空壕など
が残っています。

英軍を始めとして、現地の中国人で組織された華僑抗日
義勇軍などの激しい抵抗にあった日本軍は被害も大きく苦
境に陥っていましたが、英軍の損害も激しいものがあり、
シンガポールの水源池の一つであるマクリッチ貯水池を手
に入れたら英軍は、二月十五日降伏し、一応の戦闘が終
了しました。

シンガポール占領までの戦いで、日本軍はジョホールバ
ル陥落までの約二か月で戦死者約一、五〇〇名、負傷者約
二、二〇〇名、シンガポールではわずか七日間で戦死者
一、七〇〇名余り、負傷者三、二〇〇名余りの被害があり
ました。このように大きな被害はあったのですが、シンガ
ポールの人々の受けた被害はもっともっと大きいものだっ
たでしょう。そして、悲劇は日本の占領後も続くのです。

四、シンガポール占領―「昭南島」の時代

シンガポール占領の翌日、二月十六日に「昭南島」と改
称され、日本の敗戦一九四五年（昭和二十年）八月まで約
三年六か月余りの「軍政」がおこなわれました。この間「昭
南特別市」とも呼ばれ、一応の市政が敷かれたのですが事
実は軍政がおこなわれていたのです。

学校では日本語の教育が始まり、昭南神社が建てられ、
日本料亭も作られるなど、シンガポールの人々の心を踏み
にじる施策が次々と行われていきましたが、この中で最大
の悲劇「華僑虐殺事件」が発生するのです。

シンガポールでの戦闘で華僑抗日義勇軍に激しい抵抗に
あった日本軍は、占領後も華僑（中国人）の人達の存在は
不気味なものでした。日本軍に反抗する恐れがあると見ら
れた多くの中国人が次々に、チャンギーポイント、ポンゴ
ーなどの海岸に集められ殺されていったのです。これらの

人達の正確な人数は今だにはっきりしませんが数千人から数万人と言われています。

私はシンガポールに住んでいた三年間、よく車であちこち歩き回りましたが、ポンゴール海岸を訪れた時、ある老人が話しかけてきました。その人は日本軍のところで使われていたこと、その一帯にたくさん中国人の死体があったことを上手な日本語で話してくれました。淡々とした口調で何の怒りも示さずかえって、懐しいことを親しい友人に話しているような態度が印象的でした。

連行された人達の中で運良く生き残った人々が、戦後の戦争犯罪人（戦犯）裁判で証言し、その模様が明らかにになりましたが、少しその証言内容を紹介してみましよう。

「どこへ連れて行かれましたか。」

「タナメラチャンギです。」

「どのくらいですか。」

「私の記憶ではトラック二十台です。一台に二十人から二十五人、従って四〇〇人から五〇〇人くらいだと思います。」

「私たちはトラックからおろされ、軍人が電線をとり出し、八人から十二人の群でしばらくされました。」

「私たちは海の方へ歩くように命令されました。」

「日本人が後ろから機関銃で撃ち始めました。」

「もっと詳しく述べてください。」

「私のグループは一人か二人が撃たれたと思います。彼等が倒れました。」

「機関銃で撃った後どうしましたか。」

「何人かの軍人が私たちに近づき致命傷を負っていない者を恐らく銃剣で突き刺しました。」

「あなたも突かれたのですか。」

「いいえ、私の顔は血でおおわれていたので、私が死んだと思ったのでしょう。」

「あなたを見た海岸の様子を話してください。」

「死体があちこちに散らばり、まるでマーケットの屋台の上の魚のようでした。何人かはうめいたり泣き叫んでいました。何人かはのしっていました。まるでこの世の地獄でした。」

シンガポールは今、建築ラッシュですが、海岸地帯では時折、建設現場からこれらの死体が出る場合があります。

五、日本の降伏

日本は一九四五年（昭和二十年）八月に無条件降伏しましたがシンガポールにいた日本軍も九月に降伏の調印をしました。英軍が再びシンガポールに上陸するまでの約一か月間、日本軍はブキマ山の忠霊塔、マクリッチの昭南神社を爆破し、占領時代の痕跡をなくしていき、収容所となったレンパン島という小さな島へ移動していました。

九月十二日、日本軍の板垣征四郎大将、英軍からのマウ
ンドバッテン大将が降伏文書に署名したのですが、シンガ
ポール市民はその折、市中を歩いた将校たちに対して、次
々と「オイコラ」「バカヤロー」という言葉を投げつけたの
です。

一九四六年一月からは戦犯裁判が始まり、華僑虐殺事件
を初めとしていくつかの容疑で合計一三五名の者が処刑さ
れました。戦犯裁判には問題点もあるのですが、これ
だけの人が処刑されたという事実は日本にとっても、もち
ろんシンガポールの人々にとっても悲しいできごとである
ことに違いはありません。

当時、シンガポールには約六、〇〇〇人の一般日本人が
住んでいましたが、この人達は現地の人の報復を恐れなが
ら島内最西部に移動していききましたが、何も心配されたこ
とはなかったようです。

ここはジュロン地区と呼ばれ、今は工場地帯となり、た
くさんの労働者が働いており、日系の企業も数多く進出し
ています。

シンガポールの小学校六年生で使われている教科書の一
部を紹介してみましょ。

。日本・シンガポールを占領

シンガポールに最初の爆弾が投下されてちょうど七
十日にして、イギリス軍は降伏した。彼らにとってこ
こでシンガポールの戦いは終わった。しかし、何干と
いう現地の人々にとっては、これは日本の占領下にお
ける三年半の苦難の始まりであった。……何干という
中国人男性が彼らの多くは無実だったにもかかわらず、
トラックで連れ去られ、二度と帰ってこなかったのだ
ある。しかしながら、当時シンガポールにいた日本人
が全部が全部残酷だったわけではない。部下の兵士が
現地人をいじめたり不当に扱うのを禁じた者もいた。
。日本の支配の終了

九月十二日（一九四五年）の朝、空は灰色に曇って
いた。しかし、シンガポール住民の心はうき立ってい
た。……シンガポールとマレーの人々にとって、今や
日本の支配は終わったのである。占領はすべての人に
とって大きな苦難であった。しかし、それはある貴重
な教訓をもたらしてくれた。これによって、日本の支
配より西欧の支配の方がまだましだが、自主独立の方
がもっとすばらしいであろうということを彼らは悟っ
たのである。

おわりに

シンガポールの最も有名な観光地としてセントサ島というレジャーアイランドがあります。この一角に「博物館」があります。シンガポールの歴史が、絵、写真などの様々な資料によって一目でわかるようになっていますが、その中に、ろう人形で作られた日本軍占領時代のいくつかの光景があります。

英軍兵士を銃剣で突き刺そうとしている日本兵、英軍に降伏をせまっている日本軍の将校達、戦争犯罪の裁きを受けている日本軍の将校などです。暗がりの中に浮かびあがっているこれらのろう人形は、まるで生きているかのように見えます。

ろう人形のほかに、映画・ビデオ・パネル等で日本軍が攻めていった様子が詳しく展示してあります。

熱帯の太陽がさんさんと照りかがやき、色とりどりの草花が咲きみだれ、日本からの観光客もたくさん訪れるシンガポール。街中ではもうほとんど戦争の傷跡は見ることはできません。シンガポールの人達もとても明るく友好的な態度で我々日本人に接してくれます。

しかし、かつて日本とシンガポールの間にはこのような不幸な歴史があったことを忘れてはならないのです。

セントサ島のろう人形を見ていた時の私の気持ちは複雑なものでした。

今、日本人の多くはヨーロッパ・アメリカの国々に目がいっていますが、もっともっと東南アジアの国々のことに関心を持ってもらいたいと思うこのごろです。

「つるとかに」

スリランカ・コロンボ日本人学校
岡山市立平福小学校 沼本泰知

きょうは、スリランカに伝わる「つるとかに」のお話を
しましょう。

どこの国にもよく似た話があるものですね。
日本に伝わる何の話に似ているか、考えながら読んでみ
ましょう。



つるとかに

つるとかに

これはつ
ると魚たち
それに、か
にについて
のお話しで
す。
最初の絵
を見てくだ
さい。

つるは池のそばで何かを考えながら立っています。何に
ついて考えているかですって。

「暑いし、乾そうしているし、なのにこの池にはこんな
よっとしか水がないや。池はあさいし……ずい分たくさん
魚がいるのが見えるなあ。ああ！ これらの丸々しておい
しそうなこと。ぼく、おなががすいたよ。どうやってあの
魚たちを食べようか。」

つるはこう考えたのです。

魚たちは池のまわりをぐるぐる泳ぎまわっています。大
さいのやら小さいのやら……

一びきの魚が友だちにこう言いました。

「ルーラ、あのつる、ぼくたちのことずっと見てるよ。ち
ょっと話しかけてみようよ。」

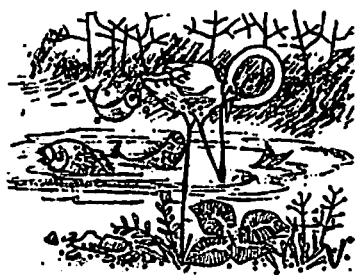
「うん、ゴダヤ、話しかけてみようよ。」
もう一びきが返事しました。

ルーラとゴダヤがつるのところへ近づいて行って、

「ねえ、コカ何をそんなに考えこんでいるの？ 何でぼくだ
ちの方ばかり見ているの？」

コカ 「アイヨーアイヨー！ ぼくは悲しくてしかたがないん
だ。ぼくの目を見て！ なみだだらけだろう。」

「何で悲しいの、コカ？ どうしてないているの？」



ルーラとゴダヤが聞きまし
た。

「雨は降らないし、木の葉っ
ばはみんなちゃや色、地面はかわ
ききっているし、ちゃや色。池
の水はどろだらけのまっっちゃ
色。池はあさいし、水はほん
のちよっとしかない。どうや
って生活しろっていうんだ。」

ルーラは、
「その通りだよ、コカ。池にはもうほんのちよっとしか水
がないね。ぼくたちもあまり長いこと生きられないね。ど
うすればいいのだろうか？」
といました。

「ちよっとぼくのいうことを聞いて。ぼくは強いし、飛ぶ
こともできるんだ。君たちをぼくのくちばしで運ぶことも
できるよ。ぼく君たちをぼくのくちばしですばらしいとこ
ろへ運んでやるよ！ここからそんなに遠くはないから。そ
の池にはもも色の水れんがいっぱいさいているよ。君たち
はそのすきとった水色の池で泳げるんだ。そこには大きな
木があって池にかけを作っているよ！君たちはそこで長生
きをするんだ！百年ぐらいは生きられるよ！

ぼくに君たちを運ばせておくれ。」



コカはこう提案しまし
た。ルーラとゴダヤはあ
まりかしこくありません
でした。彼らにはつるの
ずるい悪だくみが見ぬけ
なかったのです。

ゴダヤ 「コカ、君は何
て親切なんだ、よしその
池に行こう、コカ、その
池に連れて行ってくれ。」

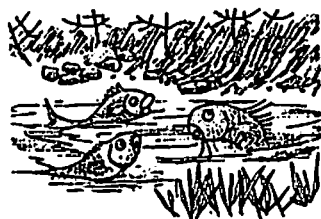
下の絵を見てください。

ルーラとゴダヤはとても幸せそう
です。彼らは池の中を泳ぎまわり
ながらさげんでいます。

「ルシルン、ぼくたちはこの
どろだらけの池から出ていくんだ。
ぼくたちはラッキーな魚だ！」

ナキヤがそれを聞いて思いました。
彼は年とった魚です。

「ルーラとゴダヤはばかな小魚だ、



コカは悪者さ、彼はゴダヤとルーラを食べてしまおうだろう。あのバカなルーラとゴダヤにはそれが見ぬけないんだ」
ナキヤ 「お前達は魚だよ、飛べないじゃないか。その池に行けるのかい？」

ゴダヤとルーラ 「コカが飛べるもの、彼がぼくたちをくちばしで運んでくれるんだ。」

コカ 「そうです。そうです。ぼくは彼らを運べますよ。ナキヤ、あなたも一しよに運べますよ。ぼくはあなたをその池に運んで、また連れもどせますよ。そしたら、あなたの友だちに、その美しい池について話せるでしょう。どうぞ信じてください。ぼくはあなたの友だちです。ぼくはうそなどついていませんよ。」

ナキヤ 「わかったよ、コカ。君を信じよう。私もその池に連れていってください。そして、また連れもどしてください。」

次の絵を見てください。

コカがナキヤをくちばしにくわえて例の美しい池に運んでいます。

そこには、ピンク色をした水れんがさき乱れていました。水は、まっ青で、すきとおっていました。そして大きな木が池のそばにあり、すずしそうな木かげをつくっていました。



コカ 「ここがそうですよ。水れんと木を見てください。このまっ青な水を見てください。少しもちゃ色くて、どろどろなことはないでしょう。ぼくは、うそつきじゃありません。さあ、ぼくを信じてくれますね。」

ナキヤ 「ええ、信じますよ。私を連れて帰ってください。この池のことをルーラとゴダヤに言わなければ。」

ナキヤは、前の池に帰ってきて、友だちに話しています。「みんな、コカの言うことは正しかったよ。それはそれはきれいな池がここからほんの少し先にあるんだ。水はまっ青。それでも色の水れんがたくさんさいているんだ。大きな木があって、池にかげをつくっているよ。みんな、そこに行こう。コカ、私をそこまで連れて行ってください。」

コカはナキヤをくちばしにくわえて、空のはるか下の方を飛んでいます。いま、コカは着地するためにどんどん降りてきました。

けれど、見てください！コカはナキヤを池の方に運んでいたのではなかったのです。彼は木に向かって飛

んでいたのです。

「私をどこに連れていっているのだ。コカ、池はあちらの方じゃないのか？きみはあの木に向かって飛んでいるんじゃないか！私をどこへ連れていってるんだ？」

「私のよき友だちよ！ぼくはおなががすいているんだ。今は、昼ごはん時だね。」

当然あなたは、コカのたくらみを想像することができずでしよう。下の絵の中のコカを見てください。彼は気の毒のナキヤを食べてしまったのです。

「クワークワークワー」コカは前の池に向かって飛んで帰りました。

こんどもコカは一びきの魚をくちばしにくわえています。ルーラです。ルーラの最後を想像できますか？もちろんでさるでしょう。むつかしいことはありませんものね。コカはルーラも食べてしまったのです。コカは池の中のかな魚を全部食べてしまうことでしょう。

もう魚は一びきも池の中いません。どこにいつてしまったのでしょうか。もちろんコカのいぶくろの中に、はいってしまっただけです。もう一びきの魚も池の中になくなくなってしまいました。けれど一びきのかしこいかにが池に残

っていました。欲深のコカはかにに話しかけています。

「かにさん、かにさん、あなたの友達はみんな新しい池に移りましたよ。みんなとても幸せです。水はまっ青、みんなも色の水れんの下を泳ぎ回っていますよ。みんな愉快ですばらしい時を楽しんでいますよ。あなたも行きますか？」

「私は行けませんよ。私は飛べませんからね」

「ぼくがくちばしにくわえて連れて行ってあげますよ」

「いやいや、私はこわいんですよ。あなたは、私をくちばしにくわえられませんかよ。きっと私を落っことして骨を折ることになりますからね。私のはさみで、あなたの首にぶらさがらせてください。」

「わかりました。いいですよ。かにさん、はさみで首にぶらさがってください。」



コカは空へ飛びたちました。かにには、はさみでコカの首にしがみついています。かに「あつ池が見えますよ。あそこです。あれ、あなた、どこへ行くんですか？あの木は池じゃありませんよ。私は木に住むか

にじゃありません！池に連れて行ってください。」

コカ 「おお、おじさん、あなたを池に連れていけだって！ぼくはあなたを運ぼうと思ってるんですがね、ぼくは馬じゃないんです。あなたはあの池に行くんじゃないありませんよ。ぼくの「いぶくろ」へと向かっているんですよ。あの骨を見てごらんさない。あれはみんなあなたのぼかな友達のものですよ。今、昼食時でねー、おじさん。」

かに 「私は君のおじだろ？ねえ、かわいいわいよ、私を池に連れてっておくれ。さもなくて君の、のどを切ってしまうよ。君の首は、ぼくのはさみの中だからね。私はぼかじゃないんだ。私は、年とったかしこいかにさ。運にたよるな」は、私の好きなことわざでね。さあ、のどを切ろうか、早くしたまえ。私を池に連れて行きなさい。」



コカは池に向かって飛び出しました。彼はとてもこわがっていました。

「かにさん、かにさん、ぼくを殺さないでください。ほら、ぼくは、あなたを池へ運んでいますよ。あなたの友達たちは、みんな池の中で、楽しそうに泳いでいます。ぼくは、うそはついて



でコカの首をしめつけ、のどを切ったのでした。

「クワッー！クワッー！クワッー！」

欲深のコカの首は、まっ二つにさけてしまったのでした！かに 「コカ、死んでしまったんだな、もう二度と魚を食べる事などできやしない。私は無事だったというわけだ。この美しい池で、これから、ずっとくらしていきけるというわけさ。」

これで、欲深の、つるとばかな魚達、それとかしこいかにのお話はおわりです。

(スリランカ民話より…)

いません。」
彼らは池まで来ました。コカは長い首を折りまげ、かにを首から降ろしはじめました。
「悪者のコカめ、お前など死に値するやつだ。」
かにには、はさみ

孫悟空の中国

中国・北京日本人学校

岡山市立加茂小学校 黒田忠男

(1) 西遊記

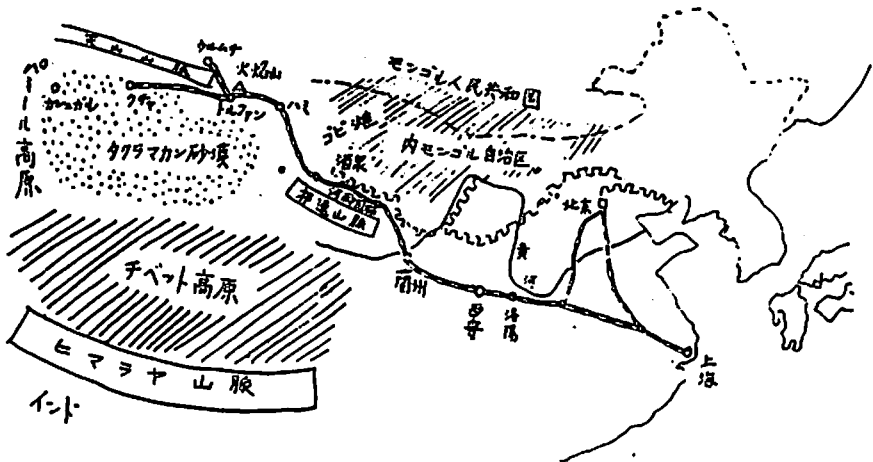
皆さんがテレビのアニメやドラマでよく知っている孫悟空の話は、中国の「西遊記」という本に書かれています。

石の山から生れた一匹の猿が、お釈迦様のいっつけで三蔵法師のお供をして仏様のお経を受け取りに、天竺（インド）まで旅をしていく途中、いろいろな困難とたたかい苦労したり大活躍したりする物語ですね。

これは玄奘三蔵という中国の高僧が、今から千二百年ほど昔に、長安の都から西へ向かってインドまで旅をしたことをもとにして、作られたおもしろい物語で、誰でも一度は見たたり読んだりしたことがあるでしょう。

(2) 長安（西安）の都

長安は西暦六〇〇年代の唐の国の都でした。今は西安といっています。唐といえば、日本の奈良時代に遣唐使たちが、小さな木造の船に乗って荒波とたたかいたながら



渡っていった昔の中国でしたね。有名な阿部仲麻呂や、岡山出身の吉備真備も遣唐使として長安へ行きました。今では西安市にこの人たちの記念碑が建てられています。

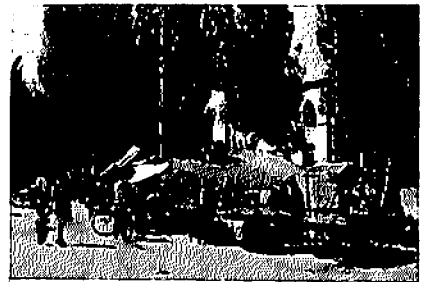
その長安へやってきたのは日本人だけではありません。モンゴル・ソ連・インド・トルコ・イラン・イラク・アフガニスタン・パキスタン・ベトナム・カンボジア遠くはるかヨーロッパの国々からも、あらゆる国の人々が長安へやってきて唐の皇帝に会いました。長安はその

時代のはなやかな国際都市でした。

唐の皇帝の豪華な宮殿や都市の跡は今でも残っていて、西安の市内には高い城壁があり、市内の中心にある鐘楼を中心にして広い道路が四方へ伸びています。

(3) 天竺への路

三蔵法師は長安の都から西へ向かって出発しました。天竺とはインドのことです。中国とインドとの間には世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈がそびえていて、これを越えていくことはできません。だから三蔵法師は西へ西へと進んで玉門関を過ぎ、



タクラマカン砂漠の北に連なっている万年雪の天山山脈の南側を通って行きました。そして険しいパミール高原を越えて現在のソ連領に入りタシケント、サマルカンドを通過して、それから南に進んで、アフガニスタンのバルフ、バミヤン、さらに西パキスタン領からインドに到るといって、とても大回りの道すじを通らなければならなかったのです。もちろん婦りもだいたい同じようなコースでした。三蔵法師が長安を出て帰ってくるまでにインドでの滞在を含めて十七年間もかかりました。

このコースはシルクロードと呼ばれていて、もっと昔から、中国の絹織物を買うために、西の方の国々から商人達がラクダの隊商をつくって通った道でした。東洋の美しい絹は、ヨーロッパ方面の人々にとっては憧れのまじりだつたようです。絹を手に入れるためにはどんな苦労もいとわなかつたのでしょう。その情熱が東西の文化交流を進める力になったのです。

(4) 西域の民族

では、三蔵法師の歩いた道を地図の上でたどってみましょう。今では、北京や上海からの鉄道が、西安（長安）を通過して西へ伸びています。

西安→蘭州→張掖→酒泉→安西→ハミ→トルファン→ウルムチ→クチャ→カシュガル

途中からカタカナ書きになりましたね。このあたりは新疆ウイグル自治区といって、中国の中でもウイグル族という少数民族がもともと住んでいた地域だからです。西域とも言います。このウイグル族はウイグル語を話しますが、西遊記の中にはいろいろな妖怪や化けものが出てきますが昔の中国人にとっては、言葉や習慣のちがうウイグル族やカザフ族は、きつと気味の悪い恐ろしい種族だったからでしょう。ほんとうは音楽や踊りの好きなやさしい人々なのです。

このあたりはまた、水の多い中国の中部や東部に比べて、ゴビ灘と呼ばれる砂と石ころがごろごろした荒れ果てた砂漠が広がる不毛の地域で、文明からとり残された地域でもありました。果てしない砂漠の中のオアシスにできたこれらの町がウイグルの人々の生活のよりどころなのでした。

(5) 黄土層と黄河

三蔵法師がインドまで行ってお経を持ち帰った実話をもとにして、後になって、吳承恩という人が「西遊記」を書きました。その中で、孫悟空は天帝が大切にしている桃を盗んで食べ、大あばれした罰として、お釈迦様によって石の山に閉じ込められたまま、三蔵法師が通りかかるのを五百年間待って、やっと助け出されます。そこは蘭州の近くの河州衛という所で、吐蕃（トバン）の国との国境の両界山という山でした。三蔵法師のおかげでやっと助け出された孫悟空は、お供をして西に向かって旅に出ます。

その蘭州は、西安から五〇〇キロほど西で、黄河のほとりの町です。このあたりの土地は黄土層で出来ています。黄河が濁っているのは黄土が流れこんでいるからです。「百年河清を待つ」という言葉がありますが、いくら待ってみても黄河が澄むことはありません。西風が吹くと黄土層の土はほこりとなって舞い上がり、東の方の北京にも黄土が降りかかります。そのため北京の街は黄色っぽい霧がたちこめたようになり、視界が下がります。黄土のほこりはさらに海を越えて日本にもやって来ます。黄土層に住む中国の人々は地面を掘って穴ぐらを作り、その中を住居にしています。穴ぐらの中は夏は涼しく冬は暖かくて、とても住みやすいそうです。中国革命を指



導した毛沢東も、日中戦争が続いていたころ、延安という地で穴ぐら住居に住んで中国共産党を指導していました。

(6) ハミ瓜

蘭州の町を出発して西へ向かえば河西回廊です。今は祁連(チーリエン)山脈にそってその北側を鉄道が西へ伸びています。蘭州から武威、張掖、酒泉、玉門と続くこの河西回廊は一、〇〇〇キロも続く長い峠道で、これを過ぎると、いよいよタリム盆地のタクラマカン砂漠に出てきます。三蔵法師はこの道を通って哈密(ハミ)国に入ります。現在も砂漠の中にハミという町があります。

ハミといえばどうしても「ハミ瓜」のことに触れずにはいられません。ハミ瓜は中国西部にできるとても甘くて美味しい果物で、大きさと形はちょうどラグビーのボールによく似ています。切って食べると、まるでメロン

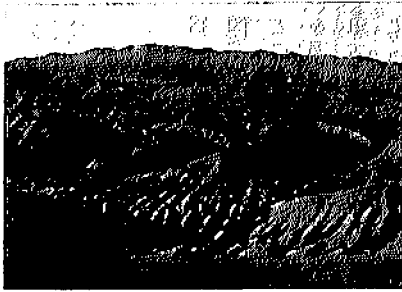
のような香りと甘い味で、思わず声をあげるほどです。ハミ瓜はこのあたりではバザールなどでゴロゴロころがして売っています。値段が安くて、誰でも買って食べるができます。スイカもとても美味しいのが取れます。「西瓜」と書きますから中国西部が原産地にちがいません。ハミ瓜も西瓜も砂地に適した植物なので、砂漠のオアシスでよくできるのです。果物好きな孫悟空ですから三蔵法師といっしょに食べて渴いたのをうるおしたことでしょう。

(7) 砂漠の河

西遊記では、烏斯蔵(ウスツァン)国(今のチベット)との国境あたりで豚の化け物の八戒に出会い、これも家来になってお供をします。さらに行くところ流沙河という激流さかまく大河にさしかかります。実際にはこれは河ではなく、大砂漠のことです。ゴビ灘という砂漠が果てもなく続いています。北京からウルムチ行きの飛行機から見ると、砂の起伏が次から次へと続いて、まるで押し寄せる大波のようです。砂の波から大きな河を連想して流沙河という河があることにしたのでしょう。その流沙河の中から出たり入ったりする怪物の沙悟浄と闘って、これも家来になり、三蔵法師は三人のお供をつれて旅を続けます。

(8) 火焰山

こうして一行は火焰山までやって来ます。火の山が燃えていて、どんなものでもとがしてしまおうという山です。しかし西へ行くにはどうしてもこの山の下を通り過ぎなければなりません。孫悟空は、鉄扇公主という女の仙人と争ったり、うまくだましたりして、やっと芭蕉扇という扇を手に入れました。それでバサバサとあおぐと、火焰山の炎はやっと消えて、涼しい風が吹きだし小雨が降りだし、さらに四十九回あおぐと火焰山の火は消えてしまったということ。この火焰山という山はトルファンの近くにある山で高さは八〇〇メートルほどですが、



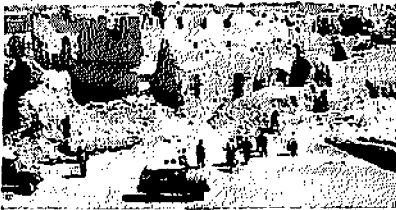
真赤な色をしていて草も木も生えていません。表面には無数の深いしわのような谷がさざみこまれています。鉄分が多くて赤い色をしているそうです。まだ誰も登ったことがないと聞きましたが本当でしょうか。砂漠の中に浮かぶ真赤な山なみは、

天山山脈の支脈で、長さ

(9) 古城

一〇〇キロにわたって連なっています。ウイグル語で「クズロダゴ」と呼びます。「赤い山」という意味だそうです。小石まじりの砂の原には日をさえぎるものは何もなくて、ゆらゆらとかげろうが立ち、赤い山肌のしわが、まるで火が燃えているように見えます。

火焰山のふもとの近くには古い城の廃きよがあります。「高昌古城」といって、その昔の高昌国の王宮の跡です。縦横が一・五キロメートルの広い範囲にくずれた建物の跡がたくさん残っています。三蔵法師はこの高昌国では大歓迎を受けしばらく滞在したようです。しかしこのあ



たりの建物は日干しレンガを積み重ねて作ったもので、火で焼いて固めたレンガではないので、かたさが不十分なため、いくら雨が少ない砂漠と古はいえ、長い年月の間には風化されてこわれてしまします。高昌りっぱだった高昌城も千年を

越える年月のあいだには崩れてゴロゴロになってしまいました。その上、異教徒の侵略

を受けて、たぐさんのりっぱな仏像も手当りしだいにこわされてしまいました。今では修理するかいもないほど痛んでいます。それでも側へ近づいて見ると、昔の高昌国の様子がしのべれます。

火焰山の近くにはアスターナ古墳という昔の墓地があり、地下に入る入口がいくつもあります。せまいゆるやかなスロープを歩いて古墳の中に入ってみると中はまっくらで、懐中電灯の光に照らされて、古い壁画やミイラが浮かび上がって見えます。ミイラといっても怪奇映画に出てくるような包帯をぐるぐる巻いたミイラではありません。死んだ時のそのままの姿で横たわっています。骨と皮だけになったミイラでもありません。肉もついているし頭の毛も残っています。砂漠の乾燥した空気の中ではミイラが保存されやすいようです。このミイラは生きていたころ三蔵法師に会ったことがある人かも知れません。

10 ウィグル民族

火焰山の近くにある「トルファン」という町はウィグル民族の多い町で、ロバや馬に引かせた車に乗って市内を走る人々をたくさん見かけます。きれいな色の民族衣装の女の人たちは、みんな頭にスカーフをかけています。ほこりを避けるためでしょう。男の人は四角な白いウィ

グル帽をちょこんと頭にのせています。近くの農園でとれた果物や野菜を積んで、町の中のバザール（市場）へ売りに行くのでしょう。

トルファンにはウィグル族が多いといっても、今では漢民族が増え、北京や上海などの人々が着ているのと同じズボンや帽子姿もたくさん見られます。しかしトルファンの町には、やはりウィグルのスタイルがよく合っているような気がします。とくに女の人のスカートや長袖のブラウスなどはカラフルな柄で、見る人の目を楽しませてくれます。

私が泊まったホテルは、ホテルといっても実際は簡単な宿泊施設でしたが、ぶどうなどの木がいろいろ植えてあって緑の豊かな敷地の中にありました。夜になると特



ウィグル族

設のテント張りのステージで、ウィグル民族歌舞団の音楽と踊りを見せてくれました。使っている楽器は中国楽器でもなく西洋楽器でもない、民族楽器でウィグル独特のものでした。マンドリンの柄を一メートルぐらい長く伸ばしたようなめ



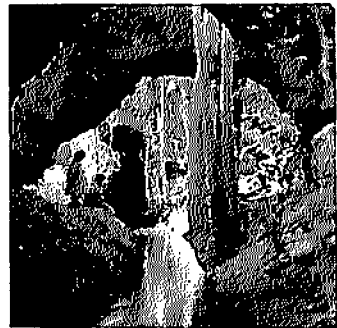
トルファン市内

ずらしい形の弦楽器や、タンバリンの直径を二倍か三倍にしたほどの大きな手打ちの打楽器などを使って、美しいメロディーを奏でます。踊り子たちの手や足の動きは軽やかでしなやかでした。ウィグルの女性には美人が多く、ヨーロッパの人かと思われるような顔の人めめずらしくありません。シルクロードによっていろいろな民族の血が交流したためだろうと思われれます。

(11) トルファンの町

トルファンの町の中には、道の両側に緑の樹がぎっしり植えてある通りがあります。とても涼しい感じですよ。火焰山の近くでゴビ灘の中の町なのにどうしてこんなに

青々と茂っているのでしょうか。それは遠くの天山山脈から雪どけ水を引いているからです。天山山脈は真白な万年雪をいたたく大山脈で、砂漠のかなたにどこまでも果てしなく連なっています。砂と小石の大平原のかなたに、青空の中にきらき



もり土が盛り上がっているのが見えます。これは地面からトンネルに穴をあけている所です。ここから水を汲み上げることでもできるようになっています。こうして引いてきた水は冷たくて澄みきっています。トルファンの町の道ばたにはカレーズから引いてきた水が流れていて、これが砂漠の中の町かと思うほどです。

トルファンは、中国の中でも有名な葡萄の産地です。緑色でマスカットのような甘味のある美味しい葡萄がでありますが、消費地の大都市まで遠いので、干し葡萄にして送っています。葡萄谷という村には干し葡萄を作るための乾燥小屋がたくさん並んでいます。小屋と言っても日干しレンガで作った大きなもので、レンガを隙間がでるように並べて壁を作り、風通しよくしてあります。

らと傾く降々。そんな遠くから地下トンネルを掘って水を引き、砂漠の中でも農業ができるようになっていきます。このトンネルのことを「カレーズ」と呼びます。

北京の春節（お正月）

中国・北京日本人学校

岡山・芳泉中学校教頭 熊代剛士

もういくつ寝ると お正月

お正月には凧あげて

これは日本の子供達が正月を指おり教えて待つ歌ですが、中国の子供達もこんな歌をうたっています。

春節快來

お正月早くこい

快点兒來

早くこい

多快好省

道草しないで

大躍進

やってこい

中国では今でも旧正月を盛大に祝います。旧暦の十二月二十三日に行われる送瘟（かまどの神を送る祭）からだんだん正月らしい雰囲気になってきます。気温はマイナス十度ぐらいの日が続きます。街角には花壇が飾られ、家々の門には「恭賀新春」とか「歡度春節」と赤い紙に書かれた

對聯が貼られます。

町のいたるところに糖葫蘆が売られています。糖葫蘆というのは、サンザシの赤い実をクシにさして、煮た砂糖の中につけ、凍らせたものです。

いよいよ大晦日になります。夕方になると街の人出はぐっと減り、やがてどこかで「パン、パン、パン」と爆竹が鳴りはじめます。

家々では、餃子（ギョウザ）づくりが始まります。お母さんだけでなく、お父さんも子供達も家族全員で作ります。練った小麦粉を長くのばして切る、それを面棒で丸く平たくのぼし、中に餡（あん）を入れ、まことに上手に包み込みます。中国の北の地方の人は、男も女も誰でも餃子づくりの名人です。餡は豚のミンチと白菜が使われます。

真夜中の十二時になりました。突然「ヒュール、パン、ヒュール、パン」と町中で大きな音がはじめました。外に出て見ると北京市内全部が花火の海です。紅、緑、黄の花火が北京の空を交又して舞い上がっています。

天安門の広場のあたりと工人体育館（労働者体育館）のあたりが特に盛大です。爆竹も鳴っています。

日本の花火大会もきれいですが、あれは街の一部分です

ね、ところが北京の正月の花火は、人口一千万の人々が全員で打ち上げるのですから、まさに壮観です。

北京の人々が一か月の給料を全部花火代にするのですから大変な量です。毎日の生活は、質素ですがいざ春節となると大変な散財をします。

春節の朝になりました。人々は出会う度毎に「新年好」とあいさつを交わします。新しい年がよい年でありますようにと願うのは日本も中国も同じだと思います。

北京には天安門を中心に四つの大きな公園があります。真南に天壇公園、真北に地壇公園、真東に月壇公園、真西が日壇公園です。

春節は三日休みですが、その三日間、天安門のある後宮も四つの公園も、たくさんある寺院も人また人でごったがえします。北京にはこんなにも人がいたのかと驚くほどです。

特ににぎやかなのが地壇公園です。色とりどりの天幕が張られています。中に入ると見ると曲芸をやっています。次のテントでは相声（慢才）をやっている。広場では風車を売っていました。一つ一つ手作りでそれを竹のワクにいくつもさし込んでいきます。風が吹くと「ヒュル、ヒュル」

と美しい音がします。大人も子供もそれを手にしてよろこんでいます。

次の広場では、コマをまわしています。青年達が集まって、直径十五センチぐらいのコマを器用にまわします。コマから「ヒュー」という音が出て楽しいものです。

北京の春節は、色と音の競演です。街中大変なそうぞうしさです。

音のしない遊びは、天安門広場の凧上げです。この広場は電柱などまったくない数万人の人々が集まれる所で、西には、中国の政治の中核である。人民大会堂が、東には歴史博物館が、でんと建っています。

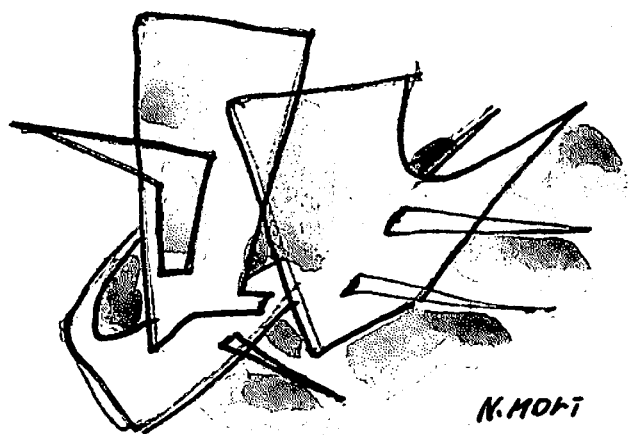
中国の凧は鳥の形をしたものが多いようです。それを何十個もつないで揚げるのです。北京は風が強いので、そんな長い長い凧が高く高く上がります。人々はそれを仰いで拍手を送ります。

春節が過ぎると十五日の小正月がやって来ます。中国ではこの日を元宵節と呼びます。この日には元宵を喰べます。元宵というのは、丸い団子です。甘い甘い団子です。

次の日からは元の質素な北京にかえります。子供達は寒い冬、毎日、北海や頤和園の昆明湖でアイススケートに興じます。夏に、舟を浮かんだ広い湖が歩いて渡れます。氷の厚さは三十センチメートルぐらいになります。昼間も

マイナス十度ですから、子供達はたくさんの下着を重ね着
して丸々と太って見えます。

おわり



N. MORI

香 港

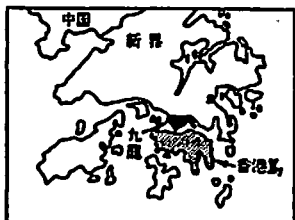
英領・香港日本人学校

自叙・下津井西小学校 村 瀬 俊 一

(第一部)

香港の位置と気候

アジア大陸の東側が出ている地図をひろげてみましょう。香港は、中国大陸の南東のはしにあり、太平洋に面しています。日本は、ここから東北の方向で、東京へはおおよそ三千キロメートルほどはなれています。面積は約千四十六平方キロメートルで、東京都の広さのおよそ二分の一にあたります。



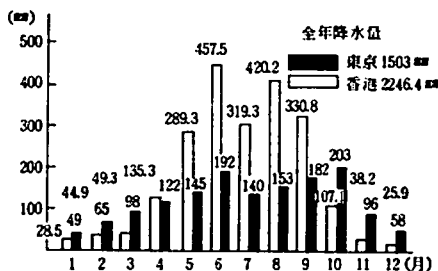
香港は、大きく香港島と九龍と新界（ニューテリトリー）の三つの地域に分けられます。

日本のはるか南にある香港は、日本に比べると、一年中あたたかく、雨もたいへん多く降るところです。平均気温は一月でも東京の

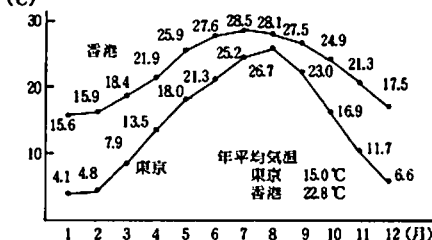
五月ごろのあたたかさで、パイナップル、鳳凰木（ほうおうぼく・俗称、火炎樹）、洋紫荆（俗称、香港桜）などの熱帯性植物が育っています。

香港の気候は、日本のように四季の区別があまりはっきりしていません。ここでは、雨の多く降る雨季と、ほとん

東京と香港の月平均降水量（1979）



東京と香港の月平均気温（1979）



ど降らない乾季の二つにわけられます。

四月から九月の間の雨季には、海の方からしめったあた
たかい風がふき、気温が高くむし暑い日がつづきます。平
均気温も三十度近くになったり、雨ふりの日が長く続くこ
ともあります。

またこのころは、赤道ふきんの海で発生した台風におそ
われ、大きな被害を受けることがあります。そのため、台
風にそなえて、人々は天文台（日本の気象台）がだす台風
シグナルに注意しています。水上生活者や港にとまってい
る船は、いちはやく防波堤のある台風シェルター（避難所）
などにひなんできるようになっています。

十一月から三月にかけては、乾気にあたります。大陸の
方から乾そうした風がふき、この期間は、湿度も低く、快
晴の日々がつづきます。香港ではいちばんすこししやすい季
節です。

香港の土地のようす

香港は、香港島、九龍、新界、そのまわりの二百三十あ
まりの島々からなっています。これらの海岸は、たいへん
複雑に入りくんでいます。新界の北は、深圳河があり、そ
のむこうに中国大陸が広がっています。

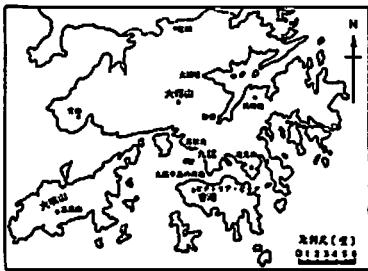
半島の中央部には、大帽山、ライオンロック、カオルン

ピーク（飛鵝山）、馬鞍山などの山々がつらなっています。

大帽山は、海拔九七二メートルの香港でいちばん高い山で
す。この山の頂上からは、香港ぜんたいや、遠くの広々と
した中国大陸の山々を見ることが出来ます。

大帽山を中心とする山地の北側には、国境との間に平地
が広がり、元朗、上水、粉嶺などのまちがあります。この
平地は、おもに畑や田になっています。山のふもとなどす
こし高くなったところは、畑と林になっています。

半島の東側は、山が海岸線までせまって、出入りの多い
海岸になっているところが多く、平地はほんの少ししかあ
りません。



半島の南につき出したところ
が尖沙咀です。対岸の香港
島の北側とともに、にぎやか
な市街地になっています。

香港島の北側は、西から東
にかけて、ビルディングがた
ちならぶまちが、帯のように
つづいています。商店や会社
などのほとんどが、このせま
いところに、ぎっしりあつま
っています。

香港島には、ビクトリアピーク、カメロン（金馬倫山）、ニコルソン（力高臣山）などの山々がつづいています。これらの山の中腹にまで道路がきりひらかれ、住宅が建っています。

香港島の南側には、アバディーン（香港仔）、リパルスベイ（浅水湾）などがあり、観光客の行楽の地にもなっています。

香港島と九龍半島のまわりには、無人島をふくめて二百三十あまりの島々があります。面積のいちばん広いランタオ島（大嶼山）、古くから開けた漁村の島・長洲島、ランマ島（南丫島）などです。これらの島の中には、一日になんかいもフェリーの行ききのある島もあれば、けわしい岩の島で、よい船つき場や飲み水がないので人の住んでいない島もあります。

香港の人々

香港に住んでいる人たちは、現在五百万人をこえています。人口密度は、一平方キロメートルあたりおよそ五千人となり、世界でも最も人のこみあっているところですが、しかも、人口のおよそ四分の三は、ビクトリア港をはさんだ香港島の北側と九龍半島の地域にあつまって生活しています。せまいところに多くの人が住むために、香港のまら

はどこにでも高いビルディングが立ちならんでいます。水上生活者は、最近でははだいに減って、約六万人といわれています。

住んでいる人の大部分（およそ九十八％）は中国人です。広東人がいちばん多く、福建、上海、北京系などの人々も

香港の総人口	5,017,000
男	2,611,600
女	2,405,400
	(1979)

います。外国人では、イギリス人、アメリカ人、インド人、日本人などが住んでいます。ことばは、ふだんの生活では広東語を中心とする中国語が使われますが、学校では小学校から英語も必ず学ぶことになっています。中国語（広



香港の街の様子

東語）と英語が、公用語として使われています。はたらいっている人の半分は工場につとめたり、ビルやダムをつくったりしています。次に多い

のは、役所につとめたり、商業や交通の仕事をしている人たちです。農業や漁業ではたらく人の数はわずかです。

香港には、中国のむかしからの風俗習慣や年中行事がのこっていて、色どり豊かなかざりをつくって祝います。

ももの花のおう過年（旧正月）には、春の喜びと恵みをもとめる赤い紙を、家の出入り口などにはります。「恭喜（新年おめでとうございます）」のあいさつがかわされ、しまいも出てにぎわいます。子供たちは、えんぎのいいことばが書いてある赤い袋に入ったお年玉をもらいます。

清明節は、日本の春のお彼岸にあたり、先祖をしのんで墓まいりをします。また、漁民の守り神の天后の祭や、長洲島の鮑山節も盛大に祝います。旧暦五月五日の端午節は、中国の古いお話の主人公・屈原にちなむ祭です。この日には、粽（ちまき）を食べる習慣があり、ドラゴンボートレースも各地で力強く行われます。七夕の日には、天の織女にちなんで、女の子の手先が、きょうになることをいのります。

中秋節は、ちょうちんをかざり、月餅を食べながらの秋のお月見です。旧暦九月九日、重陽節のころは菊の花の盛りです。この日に高い所に登ると災難をよけるといういい伝えがあります。先祖の墓まいりにも出かけます。

一年中で夜のいちばん長い冬至の日を、その年の農作業



お年玉をもらう子供たち

いや店の大そうじをします。旧正月の朝までにぎわう花市で、ももの花や水仙、キンカンの鉢植えなどを買って、新年のしたくをします。大みそかの夜に、家族や親せき、友人と夕食をともにするならわしもあります。

香港の今と昔

むかしの香港島は、岩だらけの島にしかすぎませんでした。そのころは、人口が五千人ぐらいで、人々のくらしといえは、漁業が中心で、農業もわずかにしていました。また、外国船をおそったりする海ぞくもいたそうです。

そのころ、イギリスから中国へたぐさんのアヘンが売られていましたが、それがもとでイギリスと中国のあいだに、

の苦勞をねぎらったり、みのに感謝する日としたいせつにしています。冬至がすぎると、春はもうすぐそこまできています。旧暦の年の暮れには、住ま

戦争がおこりました（一八四〇年）。この戦争はアヘン戦争とよばれ、戦争が終わると、香港島がイギリスへゆずりわたされることになりました。

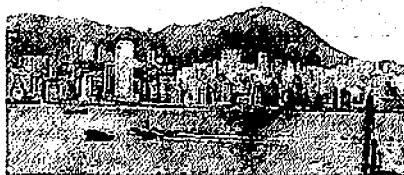
このころから、たくさんの人々が、香港に出入りするようになってきました。

香港へやってきたイギリス人やそのほかの外国人は、おもにいまのハッピーバレーあたりに住み、セントラル地区を中心に、中国人が住むようになりました。

しばらくすると、またイギリスと、中国のあいだに、事件がおこりました。そのあと、九龍とストーンキャッター島が、イギリスへゆずりわたされました（一八六〇年）。



1905年のビクトリア港

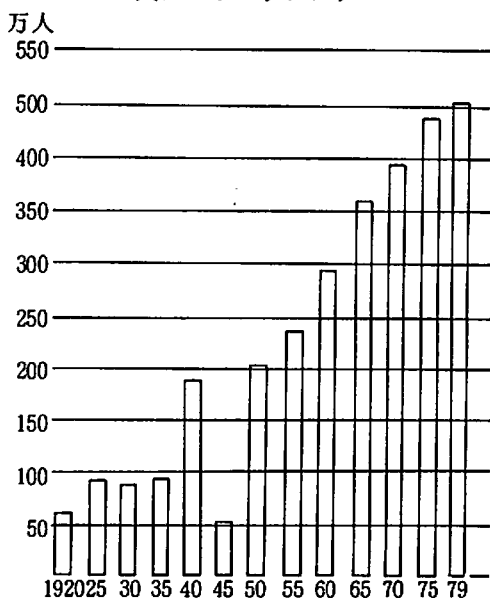


今のビクトリア港

ほかの強い国々も、中国の力が弱まっているのを知ると、中国に對しいろいろなことを言いはじめました。

一八九八

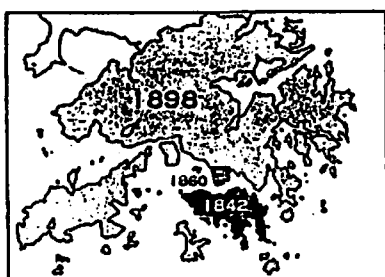
人口のうつりかわり



年には、新界が中国からイギリスへ、九十九年間という約束で、貸し渡されることになりました。このとき、元朗、**錦田**、**大埔**などで激しい反対運動がおこりました。

いま、わたしたちが、香港とよんでいるのは、イギリスへゆずりわたされた香港島、九龍市街と、かしわたされた新界（二百三十あまりの島々も含む）を含めた地域です。その香港をイギリスが、治めるようになりました。この

ような地域を植民地といいます。



香港の三つの地域

貿易がさかんに なる

ビクトリア港は、各国の船の出入りが、たいへんさかんです。このように、船の出入りが、多いのはなぜでしょうか。また、いつごろからでしょうか。

ビクトリア港は、世界

でも指折りのよい港として有名です。それは、香港が、岩だらけの島であるため、海が深く、その上に大きな川がないので土砂がたまることはありません。また、九龍半島と香港島が自然の防波堤となっています。このようなことから、大きな船の出入りには非常に便利だといえましょう。

百三十年ほど前に、イギリスは、この便利な場所を植民地とし東南アジアの各地と貿易をするようになりました。となりは中国大陸があるし、東南アジアにも近いということから、ますます船の出入りがさかんにまりました。こうして、香港は、東南アジアにおける大切な港として発展し

てきました。

香港に入ってくる製品や原料には、税金がかけられませんでしたから、外国の製品や原料が、たくさん入って来ました。そして、安い値段で、簡単に取り引きされるようになりました。香港が自由の港とよばれているのは、このためです。

船で運ばれてきた各国の荷物は、香港で取り引きされ、船につみ込まれたりして他の国へ送られて行きました。このようにして、香港に住む人たちは、おもに漁業や農業でくらしていました。貿易がさかんになるにつれて、貿易会社や船会社、銀行などで仕事をする人も出てきました。

工業がさかになる

わたしたちの身のまわりには、香港や日本その他の国で作られたものがたくさんあります。

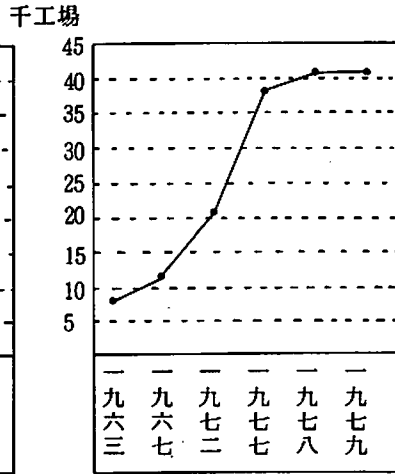
香港でいつごろから製品が作られるようになったか調べてみましょう。

香港は古くから、工業というと、港に関係した船の修理や、造船ぐらいしかありませんでした。それが、今から三十年ほど前から織物を中心とした軽工業がさかんにまりました。

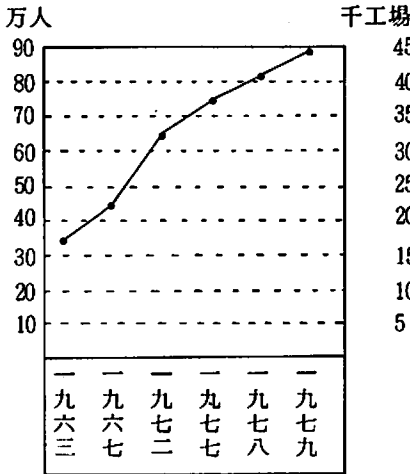
四十年ほど前の第二次世界大戦が始まるころに六十五万

人の人たちが、中国から戦火をのがれて移り住むようになりました。また、大戦が終わってまもなくすると、中国では、内戦がありました。このとき、ふたたび広東省や上海

工場の数のうつりかわり



働く人のうつりかわり



から、たくさんの方が香港へ移ってきました。こうして、はたらく人がたくさん集まり、原料も安く手に入ることから、政府では、工業にも力を入れるようになりしました。

九龍の深水埗や土瓜湾、香港島の筲箕湾などでは、家内工業が行われていましたが、上海や広東省から来た人によって、設備のゆきとどいた紡績工場などが九龍や新界にたてられるようになりました。

その後、くつ、おもちや、プラスチック加工、染色などの軽工業がづきづきとおこり、一九六〇年代になると、トランジスター・ラジオに代表される電子産業もあらわれしました。そして、香港の各地で作られた製品が、どんどん輸出されるようになりました。

現在、香港は、外国の製品をもう一度輸出する中継貿易港から、外国から原料を買って製品にし、輸出する加工貿易港へと、だんだんかわっています。

(第二部)

香港の将来と日本

今日は、香港の将来と、日本とのかかわりについて、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

香港のなりたち

香港は、面積約一〇四六平方キロ、東京都の半分の大きさしかない小さな領土です。そのうち約八六平方キロが英国領の香港島とバウンダリーストリートから南の九龍、残りが租借地のいわゆる新界です。一八四〇年から四二年の阿片戦争の結果、一八四二年の南京条約で、英国は清朝から香港島の割譲を受けました。割譲というのは国際法上の用語で、ある国が、戦争などの結果、よその国に領土の一部を譲り渡すことを言い、第二次大戦後はなくなりましたが、それ以前の世界ではよく見られた現象です。

英国は、一八五六年から六〇年の第二次阿片戦争の結果一八六〇年の北京条約で九龍の割譲を受けます。このころから列強の中国切り取り合戦が激しくなり、中国は祖国の独立の維持と近代化の達成のための苦闘の時期に入っていくのですが、一八九八年には、現在の新界、つまりバウンダリーストリートの北のいわゆる新界と、ランタオ島をはじめとする二三五の島々が英国の租借地になりました。

この租借というのも、国際法上の用語で、現在は全く見られなくなった現象ですが、ある国の領土の一部について、一定期間統治権を借り受けることを言います。

とくに新界の場合は、九九年という長い期限の租借で、

当時の人々から見れば、実質的には割譲とあまり変わらないと考えられていたでしょう。

いずれにしても、現在の香港は、行政制度に多少のちがいがあるとはいえ、割譲地と租借地が完全に一体となって発展しておりますので、これからの私の話は、特に必要がない限り両方をまとめて香港ということで、進めていきます。

香港の発展

英国が香港に目をつけたのは、香港が天然の良港で、又良質の水が出ることから、中国をはじめ極東地域に対する貿易の基地として最適と考えたからです。

事実、香港はそれまで三百年間ヨーロッパの対東方貿易の基地だったマカオにとって代って、急速に発展しました。一八五〇年代に日本が開国し、欧米諸国と貿易を開始した時、長崎や横浜にやって来た欧州の商人のほとんどは香港から来たのです。

世界の歴史の中で、阿片戦争ほど大義名分に乏しい戦争は少ないのではないかと思います。よその国に麻薬を売りつけるためにその国の領土を奪うというのは、古い表現を使えば、天人俱に許さざるところです。

ところが、一九一一年、いわゆる辛亥革命によって清朝

が倒れて以来、一九四九年中華人民共和国の成立まで、民族自立と近代化のための中国革命は大変な苦難の道筋を辿りました。そうして、毛沢東主席に率いられた新生中国は、上海、広東、天津などにあった外国人租界——租界というものは、町の一面をかこい込んで、中国の権力が及ばないようにした、一種のミニ植民地です——この外国人租界はノミでもつぶすようにひねりつぶしたのですが、何故か香港とマカオはそのままだしておいたのです。

香港の将来をめぐる英中交渉の焦点が、どうすれば香港の繁栄を維持していけるかという点にあるのは、少なくとも今日の香港が、中国にとって有益な活動をしていることを中国が認めていることを示しています。

中国への窓口として、またアジアと西欧を結ぶ中継地として発展して来た香港は、第二次大戦後あらたな飛躍を遂げます。

第一に、中華人民共和国の成立と共に、上海などから出て来た資本家を中心になって、香港で繊維産業を、つづいて海運・造船業をおこします。これがきっかけとなって、今日の香港は、時計の生産量が世界一になっているなど、軽工業・精密工業の分野で有力な地位を占めるようになってきました。

このような、香港自身の工業の発展の結果、中継貿易港

香港は、国際貿易センターとしての役割を東アジア地域で果すようになったのです。

第二に、最近数年の間に、香港がロンドン、ニューヨークに次ぐ世界第三の国際金融センターとしての地位を確立したことです。今日の国際経済では、通貨の流れ、つまり国際金融というものが、人間の体でいうと血液の循環のようになり、なくてはならないものになっているようなのです。聞きかじりの数字ですが、最近の世界貿易の総額は二兆ドル程度で、国際金融の方は五〇兆ドルに達するのだそうです。国際金融センターというのは、丁度人間の心臓のように、あちこちから集めたお金を必要どころへ送りこむポンプの役目を果しています。

アジアにおけるシンジケート・ローンの結成状況について、これも聞きかじりですが、九五パーセントは香港、残りの五パーセントがシンガポールという数字があります。香港は、今や東アジア太平洋地域の経済発展の動力源として、大きな役割を果しており、近代化を進める中国にとっても有用性を増しつつあるといえるでしょう。

英中会談

さて、ただ今北京では、香港の将来についての第九回目の英中会談が行われています。この会談は、一昨年九月、

中国を訪れたサッチャー首相と中国主脳との間の合意にも
とついで将来の香港の繁栄と安定を維持する方策について
話し合うことを目的としております。

香港問題に対する中国の立場は、香港九龍の割譲と新界
の租借は不平等条約によって押しつけられたものだから、
不法であり無効だというものです。中国としては、適当な
時期が来れば香港の主権をとりもどし、その後は中国自身
の手で香港の繁栄と安定を維持していくのだと主張してい
ます。

これに対して英国側は、古いもので一四〇年以上前、新
しいものでも八五年前のとりきめが不法だ無効だといわれ
ても困るが、とにかく一九九七年六月には新界の租借期限
が切れるので、それ以後の香港の繁栄と安定をどうして維
持するかについて、中国側と話し合う必要があるとの立場
をとって来ました。

とくに、今や香港、九龍と新界は全く一体化しておりま
すので、中国側と話し合う場合、どうしても香港全体につ
いて話し合いをする必要があったわけです。

他方中国も、主権の問題については妥協の余地はなく、
従って英国と「交渉」はしないとの立場は維持しながらも、
経済社会体制の全く異なる香港をとりもどしたあと、繁栄
と安定を維持するためには、やはり現在の支配者である英

国と「話し合い」を行う必要があることを認識したものと
思われます。

こういういきさつで、英国と中国は、「会談」を行うこと
に合意したのですが、最初の十か月間は、話し合いは入口
のところまで引っかかり、ほとんど進展しなかったようです。
それが昨年の春頃から多少雰囲気が変わり、七月から北京
で、第二ラウンドと称する会談が大体月に一度くらいのペー
スで開かれていることはご存知のとおりです。

話し合いの内容は秘密ということになっており、関係者
の口も固いので、具体的にどのような話しが行われ、どの
程度の進展を見ているのかは、私達にとってもなかなか取
材しにくいのです。

いずれにしても、英中両国は、香港の将来の繁栄と安定
を維持するという点については共通の目標をもっているわ
けですから、部外者であるわれわれとしては、静かに見守
っていくべきで、こういういわば公開の場でとやかく推測
めいたお話をするのは差しひかえたいと思います。

最大の問題

ただ一つ申しあげられることは、香港の将来にとっての
最大の問題は、香港市民が中国への復帰に大きな不安をも
っているということです。

香港の約五五〇万人の市民の九八パーセントは中国系です。私を知る限り、これら中国系市民は、全て自らを中国人と考えています。しかし、われわれ日本人の場合、日本人であれば全て日本国民なのですが、香港市民の場合はそうではありません。

前にもお話したように、香港は長い間英国の支配下にあって、中国本土とは異った文化的・経済的發展を遂げて来ました。また、現在香港の各界で活躍している人々の中には、共產主義体制をさらって本土から逃れて来た人も多いのです。

現在、中国本土が中央集権的な計画経済の体制をとっているのに対し、香港は今日の世界ではほかに例がないほど徹底した自由主義経済です。また、香港の方が中国本土よりも一般的に豊かだということは別にしても、香港市民は、自分たちが本土の人々より大きな自由をもっていると感じています。

さらに、第二次大戦後の香港が比較的順調に発展したのに対し、革命後の中国は大躍進とその失敗、文化大革命、四人組の追放というように、政治的・社会的な変動をくり返して来ました。

中国は、現在香港の将来について、一昨年成立した新憲法三十一条にもとづく行政特別区とし、「港人治港」という

形で広範な自治を与える。また、一九九七年以後五〇年間は香港の経済社会制度を変えない、といった発言を行い、香港市民の不安感を取り除こうとつとめています。

日本の立場

ここで、香港と日本の関係について考えてみたいと思います。

清国が阿片戦争で敗れ、香港を割譲したというニュースは、日本の一部に大きな衝撃を与え、明治維新による日本の近代化への原動力の一つとなりました。

しかし、明治維新後の日本と香港との関係は、もっぱら経済と、のちには文化の方面で発展して来たのです。

既に明治十年、一八七八年には三井物産が香港に店開きし、二年後に日本郵船が進出しました。それから百年経った現在、香港には大小とりまぜて八五〇社の日系企業が進出しています。投資総額一八億米ドルは、香港にとっては米国について第二位、日本から見てもアジアではインドネシアにつき二番目の大きい投資先です。

貿易も年間七〇億米ドルのレベルに達しており、それも日本の大幅な輸出超過になっています。一九八一年の日本の出超額四七億米ドルは、日本にとって対米につぐ二番目に大きな黒字でした。

製造業への投資額は、三億米ドル（これも米国の次）で約二万人の現地人を雇用しておりますし、建設、運輸、百貨店、銀行、証券、保険、食品など、あらゆる分野で香港は日本経済の大切なパートナーになっております。

また、香港に進出している日本企業は、香港の国際貿易・金融センターとしての機能を活用して韓国、台湾、東南アジア諸国などとの取引きを活発に行っておりますし、最近になりますと、中国の経済特区建設や南海油田開発など、中国南部の大規模な経済開発計画に、香港を通して参画する動きがでてきています。

ところで、香港ほど日本文化に親近感をもち、積極的にとり入れているところはありません。五〇を超える日本語塾で一人の若い人々が日本語を勉強していますし、テレビ・映画・音楽・ファッションの分野での日本ブームは、他に例を見ません。

ちょっと話が本題からそれますが、これほどに日本文化ブームの香港で、一昨年あのように激しい反日運動（教科書問題のこと）が盛りあがったこと、つまりこの地域では、第二次大戦中日本がおかしたあやまらがいまだに大きな汚点を残しているということを、アジアの中で生きていく私達は肝に銘じておかなければなりません。

おわりに

このように、日本とのかかわりが非常に深い香港は、現在大きな曲り角にさしかかろうとしています。

百四十年の間、異った制度のもとに発展して来た地域が、祖国に復帰するというのですから、その地域の住民が大きな不安と、場合によっては苦痛を感じるのはやむを得ないといえるかも知れません。しかし、香港の繁栄と安定は、香港の住民ばかりではなく、中国、そして日本など周辺諸国にとっても、非常に大切なことです。

中国と英国が、香港の繁栄と安定が確保できる円満な解決策について合意に達することが心から期待されますが、ここで注意しておかなければならないのは、われわれ日本も、この大きなドラマの単なる傍観者ではなく、同じ舞台に乗っているということです。このドラマの主役は勿論香港の住民であり、中国・英国ですが、日本とか米国とかの関係国は、いわば脇役でして、このドラマを成功させるのは主役にかかっているけれども、脇役が変な動きをするとドラマは失敗してしまいます。

さきほど申しあげたように、日本はアジアの国として、アジアの中で生きていかなければなりません。日本の平和にとってアジアの平和が不可欠であり、またアジアが繁栄

してこそ日本の繁栄が期待できるのです。

香港の問題について、日本にできること、そして日本がやらなければならないことは、おそらく、中国の近代化についてできる範囲でお手伝いしていくことと、国際金融貿易センターとしての香港を引続き盛り立てていくことだと思います。香港の将来の繁栄と安定を維持していくために、われわれ日本も大いに責任があるということをもう一度くり返して、今日の私の話を終りたいと思います。

(あとがき)

子どもたちの世界の国々「香港」はお読みいただいたように(第一部)と(第二部)からなっています。

(第一部)は、小学生むきで香港日本人学校小学部三、四年生が使う社会科副読本から、その一部を抜き出しました。この副読本は、三年社会の「私たちの市」の学習用に、香港日本人学校の教師が作りあげたものです。変化のほげしい香港を正しく伝えるために、三年ごとに改訂しておりますが、そのための手数と費用は大変なものです。ここで用いた副読本「香港」は三訂版で昭和五六年にできあがったものです。

(第二部)は中学生のために香港の将来の問題をとりあげました。この原稿は昭和五九年のはじめ、香港日本人学

校中学部生徒のための講演会の要旨で、講師は香港総領事館の首席領事、青木盛久氏でした。在外公館という立場から見た香港と香港を取りまく国際問題がうかがえ、三年たった現在読んでみてもその正しい見通しに感心しました。しかし、これらの原稿はいずれも数年前のもので必ずしも現在の香港を正確に伝えているとはいえません。特に国際情勢はいつどのような方向に急転するかわからないものです。資料としては古いのですが、参考になれば嬉しいと思います。

ベネズエラ

ベネズエラ・カラカス日本人学校
岡山市教委 赤坂英二

二十一世紀に向けて、まさに国際化時代です。それだけに望ましい国際人の育成が益々叫ばれることでしょう。ここに、ベネズエラを通して「国際理解」について考えてみましょう。

(位置及び気候)

ベネズエラは南アメリカ大陸に属し、ブラジルの北にあり、日本の領土の約二・五倍の面積があります。

首都カラカスは北緯十一度にあり、気候帯でいえば熱帯に属していますが、海拔九百二十メートルの高地にあるため、一年を通じて大体二十度前後の気温で、日本でいえば九月下旬から十月上旬の暑さです。直射日光は真上から照らすため、あつきを感じさせますが、日陰や室内は湿度が低いせいかとでもさわやかです。

このように一年を通じて気温はあまり変化がありません。ただ、変化がみられるのは、四月から十一月ごろが雨期で

十二月から三月ごろまでが乾期になることです。雨期とはいっても日本の梅雨のようにしとしと降るのではなく、一日のある時間、三十分から一時間程度、夕立のように激しく降ってやむといった、いわゆるスコールがくるのです。乾期になるとほとんど雨を見ることはありません。

(歴史)

一四九八年、コロンブスが到着し、その後スペイン人がやってくるようになりました。

この頃は原住民のインディオが多数の部落に分かれて住んでいたのです。



大きなひらぐらいある子どもの手のひら、かたつみり、気候がからかな

彼らはしだいにスペイン人に征服されていき、鉱山での採掘や砂金さがしに使われました。しかし、目ぼしい鉱物も見つからず失望したスペイン人開拓者はカラカス(今の首都)などの町をつくり農業に専念しました。

その後、砂糖きびの栽培をさせるためにアフリカから黒

人が多数送られてきました。

このようなスペイン人の支配に不満をいだき始めた人々は、フランシスコ・ミランダを中心に一八〇六年、新政府をつくろうと立ち上がったのです。

そして、この運動はシモン・ボリバルに引き継がれていきました。

一八一九年、ボリバルはアンデス山脈に位置するボゴタ（現在のコロンビアの首都）を攻め落とし、現在のコロンビア、エクアドル、ベネズエラ、パナマを合わせた大コロンビアの独立を宣言しました。

そして、一八三〇年大コロンビアからベネズエラが独立し、ここに誕生をみたのです。

この国に大きな変化をもたらしたのは、一九一七年、マラカイボで石油が発掘されたことです。この石油発掘はこ



ボリバル記念館

れまでの細々とした農業国から一躍南米諸国の中でも一、二位をあらそう経済国へおし上げたのです。

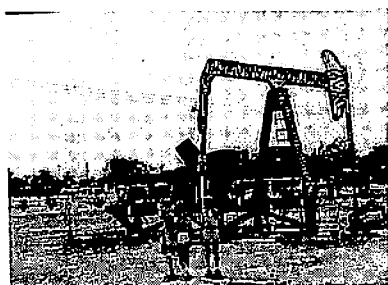
つまり、日本の明治維新以上の大変革をもたらせたので

ひと口で言うならば「馬車から一挙にジェット機時代に突入した国」と言えるでしょう。

こうして、これ以後急速に「近代国家」への道を進むことになったのです。

（貧富の差）

石油がこの国の政治、経済の発展に大きく寄与したことは言うまでもありませんが、その陰で、厳しい貧富の差を生み出すことになったのも事実なのです。



地中の原油をくみあげるポンプ。マラカイボの町の中、いたるところに見られる

例えば、自動小銃を持ったガードマンに守られ、ちょっとした城ほどもある「キンタ」と呼ばれる家に住み、休日には自家用の飛行機をとばしてカリブ海の島々に保養に行く人たちがいるかと思

えば、一方ではカラカスの中心部を見下ろす周囲の山々の斜面にはレンガを積み上げ、屋根はトタンでなんとか雨だけを防ぐことのできる「ランチョ」と呼ばれる小屋に暮らし、その日の食べ物にも不自由している人たち。

ここに、近代化を急ぐあまり、下層部の人々への対策をおこたった政策が、このような貧富の差をもたらせた原因と云えるでしょう。

世界中に目を向けると、このような困々がたくさんあるという事実を私たちは認識してつき合うことが大切です。

(多民族国家と単民族国家)

ベネズエラは原住民(インディオ)とスペイン、ポルトガル、イタリア等のヨーロッパやアフリカ大陸から来た人、それに中国人を主とするアジアの人と、いろいろな人たちが集まって、分担しあってこの国の政治を行なっているのです。

それに対して、日本は島国という地理的条件や、江戸時代の鎖国政策などにより日本民族で国が運営されています。この事が日本人と外国人の交流を妨げ、しいては、日本人に外国人との交際苦手意識をつくりだしたと考えられます。

しかし、時代の流れとともに国際的要請としても、国際理解教育の必要性が重要視されてきている現在において、

もはや日本だけでは生きていくことのできない時代であります。

つまり、「世界の中の日本」であり、「世界とともに生きる日本」であります。それだけに、「外国とつき合うのは苦手だ。」ではすまされない時代でありますし、避けられない状況であります。

さらに、日本人の気質として、気心が知れている者同志のつき合いは上手ですが、初対面の人とのつき合いは決して上手ではありません。

特に風俗、習慣、文化、宗教、言語、皮膚の色等の違う外国人とならざるはです。

ですから、外国を正しく理解するとともに自分の国を見つめ直していこうとする国際理解教育が必要なのです。

そして、外国の理解と自国の見直しの二点を交互に繰り返しながらより正しく、より広く、より深く相互理解がなされていくものです。

人間一人ひとりのつき合いにおいても、外国人であるということとを互いに意識することなく語りあえるようにする教育でもあると思います。

ここに一つの例を挙げてみましょう。

ベネズエラでの出来事だったので、カラカスの街を歩いていますと、オートバイに乗った一人の青年がそばに

寄ってきて、

「〇〇銀行はどこですか。」

と尋ねるのです。

その青年は見るからにベネズエラ人なのです。

この時、私は思ったのです。

「この青年は私を外国人とは思っていないのではないのか。」と。

これを日本にあてはめてみましょう。

日本のある街の中で、日本人が外国人に道を尋ねることがあるでしょうか。

「いや、無い。」

と、だれしも答えるに違いないでしょう。

こう考えると、この青年のたった行動こそが、国際理解教育で求めている姿ではないのかと思えるのです。

(国民性の違い)

外国人が日本へ来て驚く事の一つに「新幹線の発車、到着時刻の正確さ」があげられると言われています。

このように一般的に日本人は「時間や約束をよく守る国民」と言えるでしょう。

ところがベネズエラでは映画の開館時間、上映時間もとより飛行機の出発時間など守られない方が普通なのです。



味のすっぱい ちよっぴり 実のヤシ

また、クリーニングとかフィルムの現像の約束などの期限もまず守られません。その上、遅れたことに對して「すまない。」という気持ちも見受けられません。

と「言うのも、」あなたが、うちの店を必要としたから来たのだろう。」という考えなのですから。

そして、さらに二三日して「もうできているだろう。」と思い、店に行く

「どうしてそんなに急ぐんだ。明日という日があるじゃないか。」

と言われるのがおちなのです。

これは、決してわる気があることではないのです。一年中変わらぬ気候がおおらかな国民性をつくりあげていたのでしょうか。

だからといって、日本人のせかせかせした国民性が悪いのでもありません。

つまり、それぞれの国には、それぞれが歩んできた歴史

や地形、氣候がその国々の習慣、文化、国民性等をつくりあげてきたのです。

このことを互いによく理解しあっておくことも交流をもつ上で大切ではないでしょうか。

このように考えると、時間や期日を守らないからと言って腹を立てている間は、私自身国際理解ができていないと言わざるを得ないでしょう。

(貿易関係)

街を走るオートバイやジープはほとんど日本製です。また、商店街のウインドーに並ぶ電気製品、光学機器、精密機器など日本製品が目につきます。

ベネズエラの工業は、ほとんどが外国の技術に頼っているのが現状ですが、石油の輸出国としては大変有名です。

その石油は残念ながら日本へは輸出されておりません。

その理由としては距離が離れているため運賃が高つくこと。もう一つは、石油の質が油の種類の中でも重く、日本の精製工場の設備に合わないことがあげられます。

それゆえ、日本とベネズエラの貿易関係は日本の大幅黒字という不均衡が生じているのが実情です。

今後、共によりよい関係を維持させていくためには、この貿易不均衡を是正することも考える必要があります。

(国際理解をするための前提条件)

外国へ行く場合、あるいは住む場合、まず不安に思うことはその国の政情であり、治安です。

安心して生活できるかどうかは基本的人権にかかわる重大なことです。それだけに、外国人に被害を及ぼすことは、一歩踏みはずすと国際関係に大きな影響を及ぼすことにもなりかねません。そうなった場合は、もはやその国を理解することはできないでしょう。

国と国とが互いに正しく理解しあい、よき関係にあるための前提条件として国内の安定が必須条件なのです。

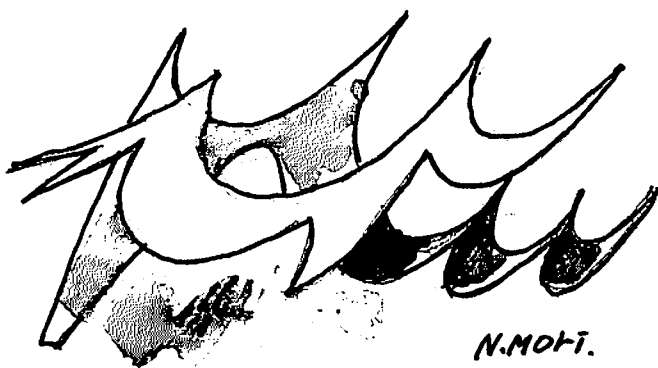


日本人学校のスクールバス

ベネズエラを通して国際理解について書いてきました

でしたが、私たち日本人はまず日本を見つめ直し、将来も正しい道を歩むべく努力をしていかなければなりません。そして、この国民の努力が外国からも信頼されることになるのです。日本も諸外国を正しく理解し信頼し

なければなりません。
お互いの信頼で結ばれ、心と心の触れ合いを大切にした
関係こそ、二十一世紀に向けて望まれるものなのです。



アマゾン河口、ベレーンの人々の暮らし

ブラジル・ベレーン 日本人学校
 榎原町立飯岡小学校 蒔田 治

一、はじめに

みなさんは、アマゾン河と聞くとどんなことを思い起こしますか。

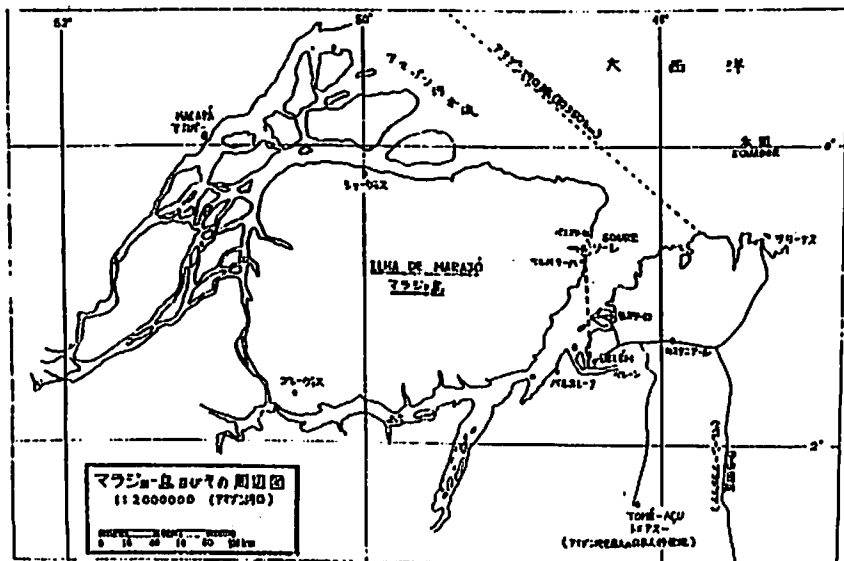
ピラニア？ジャングル？インディオ？

いずれにしても、未知の世界、自然の世界を思い起こす人が多いことでしょう。そのアマゾン河の河口近くに、豊かな自然に囲まれた人口百万人の街ベレーンがあるのです。それでは、ここに住む人々の暮らしを中心に、地球の裏側のようすを紹介したいと思います。

二、ベレーン

南緯一度二十七分、西経四十八度二十九分。ちょうど、山口県と広島県の県境に付近の地球の裏側のほぼ赤道に近いところにベレーン市があります。

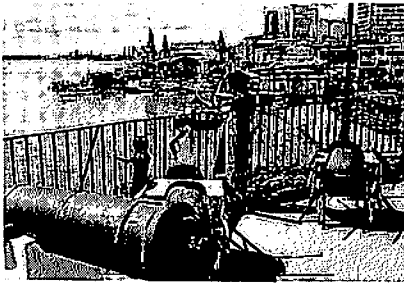
海拔十メートル、面積七三六平方キロメートル（岡山市



と倉敷市を合わせたものより、やや小さい)。アマゾン河口より約百五十キロメートル上流に位置します。

一九一六年一月十二日、ポルトガル人、フランシスコ・カルディライルカステロブランコによって発見されました。当時、ここは、アマゾン河の玄関口として、軍事上大切な役割を果たしました。現在カステロ要塞としてその名ごりをとどめています。ベレーンの街は、ここを中心として発展していきました。

ベレーン市は、パラ州(面積は日本の三・三倍)の首都で、その人口は、百万とも百二十万ともいわれるブラジル北部最大の地方都市です。



要塞よ 地をのぞむ 地産を発 地産をのぞむ 地産を発

三、自然と風土

日本からはなれること約二万キロメートル。地球の裏側の国ブラジルは、日本の約二十三倍の面積をもつ、南半球で最大の、世界でも五番目に大きな国で、天然地下資源に恵まれています。

その北部にあるアマゾン川は、世界最大の流域面積と、広大なジャングルを有し、動植物の宝庫となっています。気候は、典型的な熱帯雨林気候で、ベレーンにおいては、年中、気温二十五℃〜三十五℃、湿度八十パーセント以上と高温多湿です。

それでも木陰に入れば、涼しく感じます。また、現地の人々の間では、夏と冬と言われている乾季と雨季があります。

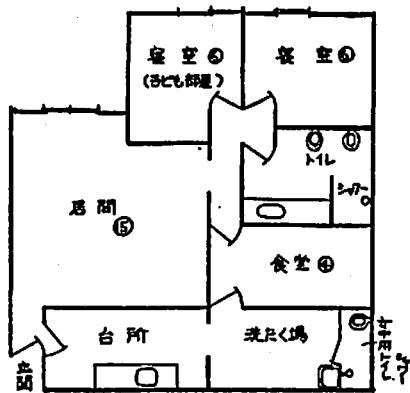
熱帯雨林気候ですから、年中、風と雷を伴ったスコールが降るのですが、特に乾季になりますと、一ヶ月以上も雨が降らないということがあります。

また、雨季には、河の水位が増し、地下水に影響を与え、水道の水が塩かくなる場合があります。

四、住居

ベレーンの中心部では、高層アパートが建ち並んでいます。地上二十階前後あり、地下駐車場、子どもの遊び場、集会室、ところによっては、プールのついているものもあります。

一つのアパートが、一つの自治組織をつくり、アパートの管理人、警備員の採用や給料を決めたり、維持費を決めたりしています。



私たちが住んでいたアパートの間取り、○内数字は、だいたいの畳数

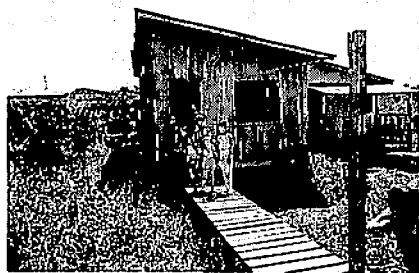


市中のアパート群 筆者のアパートより写す

また、二階建て程度の個人住宅もあります。ゆったりした敷地に、広々とした間取りの住宅です。

しかし、盗難のことを考えて、新しく住む場合は、アパートを選ぶ人が多いようです。

中心部をはずれ、郊外に出ると、舗装して



郊外の湿地帯にある家

いない道路と、板べいの質素な建物が多くなりま
す。これがいわゆる庶民
の家です。

雨季になると、家の下
には、水がたまるので床
が上がっています。

五、衣料

一年を通じて、高温多
湿で変化がなかったため、衣

料も変化がありません。

半ズボンにTシャツ一枚。ほとんどの少年たちの服装で
す。

色は、原色に近いものの組み合わせで、たいへんカラフ
ルです。

製品は、化学せんいのため、肌ざわりは、日本のものと
比べあまりよいとはいえません。

六、交通事情

ベレーン市内の主な交通機関は、バス、タクシー、自家
用車です。鉄道は、現在ありません。

市内バスは、たいへん多く、何台も続いて走り、時には、二台、三台のバスが追い抜きをしながら走っています。

日本のバスとちがい、後ろから乗り、車輛中央部にある仕切を通る際料金を払い、前から降ります。

たいへんスピードを出して走り、しかも、カーブをあまり速度を落とさず走るため、バス同士の事故が多発しています。また、人が乗ったかどうかをあまり確認もせず走り出すため、利用する客の方で十分な注意をする必要があります。

タクシーはバス同様、ベレーンに住む人の足となっています。

全体に小型の車（代表的なものは、フォルクスワーゲンIIビートル）で、自動ドアはありません。助手席から乗り降りし、ドアをしめるときは、ドアについたひもを運転手が引っぱってしめます。

また、他の都市との交通としては、バス、飛行機、船が主要なものとなっています。

市内には、長距離バスの発着場（テルミナウ）があります。

また、飛行機は、中心部から十キロメートルほどのところに、「ベレーン国際空港」があり、ジェット旅客機が発着しています。

表1 ベレーンより各都市への所要時間
(単位：時間)

都 市 名	飛行機	バ ス
ブ ラ ジ リ ア	2	36
リオ・デ・ジャネイロ	3	60
サ ン パ ウ ロ	4	60
マ ナ オ ス	2	—
フ ォ ル タ レ ー ザ	2	30
サルバドール	6	—

ブラジルには、ヴァリグ、クルゼイロ、バスピ、トランスブラジルの四社があり、ブラジル国内各都市をはじめ、フランス領ギアナ、マイアミなども結ばれています。

大型飛行機だけでなく、小さな町とは、エア・タクシールとよばれる軽飛行機によって行き来が行われています。

とくに、アマゾン流域では金鉱が豊富で、ガリンペイロと呼ばれる金掘り人が、このエア・タクシールをチャーターして、各地の金鉱に出ています。

もう一つ、アマゾン流域で忘れてはならないものは、船

の輸送です。

ベレーンは、アマゾンの玄関口としてその拠点となっています。ベレーンには、アマゾンの玄関口としてその拠点となっています。

旅客用としては、マナオス（アマゾン河中流域の都市。河口より千五百キロメートル。ベレーンとの時差一時間）との間に、定期船が通っています。観光を兼ねて、マナオスまでの船旅は、片道五日とアマゾンを満喫できるようなっています。

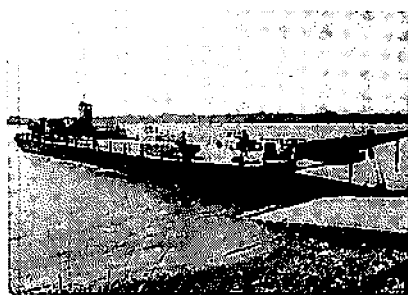
この船の場合、いわゆる船室のベッドで旅をする人は、お金持ちで、一般の人たちは、ヘッジ（ハンモック）を船室にぶらさげて旅をします。

そのほか、ベレーン港には、小さなカヌーや漁船から五万トンクラスの貨物船と多種多様なものが入り出しています。

アマゾン河流域には大小の河川が無数にあり、川幅二、三キロメートルのものも数多くあります。しかし、それらの川には橋がかかっていません。そこで、その川を渡るためにパウサ（フェリー）があります。

これは、タグボートが、鉄の箱をひっぱるだけのもので、日本のフェリーを想像してもいけません。

各交通機関の料金は、日本に比べて安く、多くの人たちは、バスを利用し、長距離を時間をかけても安くあがるは



パウサ 数多くの川になければならない交通機関

うがいいというわけですから。

七、スポーツ

フラメンコ、バスコ、フルミネンセ、サントス。サッカーファンなら一度は聞いたことがあるのではないだろうか。

サッカー王国ブラジルには、プロのサッカーチームが二百二十あります。日本のプロ野球のチーム十二と比べれば、その人気の高さにおどろくことでしょう。

普通は、各州のチームでリーグ戦をしています。人気、実力ともにあるのは、南部のサンパウロ州やリオ・デ・ジャネイロ州のチームです。

ベレーンにもチームがあり、パラ州全体の八チームで試合をしています。

日曜・祭日になると、道路や公園では、サッカーをしている子供たちでいっぱいになります。郊外には、いたるところにサッカー場があり、男も女もサッカーをしています。

そのほか、バレエボールやビーチバレエもさかんです。どちらかといえば、スポーツ好きな国民といえるでしょう。

八、カーナバル（カーニバル）

カーナバルと聞けば、すぐにリオのカーナバルを思い起こす人がいるでしょう。

ここベレーンでもカーナバルは行われているのです。

毎年、開催される日はちがいますが、だいたい二月から三月上旬にかけての四日間カーナバルは続きます。

広い道路を会場にして、コンテストは行われます。

夜八時、サイレンの合図とともに、最初のグループがスタートします。制限時間

三十分。この間に五〇〇メートルほどの会場のスタートからゴールまでを踊り歩きます。

二、三十人の家族的雰囲気を持つグループC（これは百人まで）から始まり、百人、千人のグループB、千人以上のグループA、そして、三千人近



ベレーンのカーナバル

い規模を持つサンバ学校のグループ（制限時間一時間）が順次出場します。

次第にはなやかになり、朝四時ごろになると、グラビアで見るとはなやかな衣装をつけたグループが出てきます。また、山車も大がかりなものへと移っていきます。

私は、六時半ごろまで見ていましたが、ねむさに負け、家へもどりました。その日は、十時に終了したそうです。

カーナバルは、その期間だけがカーナバルではなく、年を越すと始まると言っているようです。

初めは、小さな食堂のようなところに集まって楽器の練習をし、一月の終わりの土、日になると公園に集まり、音楽に合わせて踊りの練習をします。特に日曜日は、街頭を進行しながら各グループごとに練習します。この時、日本のように警察に届けをしてからするわけではありませんから、交通整理などはありません。車の通行などお構いなしですから渋滞があちこちで起こります。そのために町じゅう楽器の音とクラクションの音とでにぎやかになり、耳なれないものにとっては、まるで騒音地獄です。

コンテストの行われる会場以外でも、あちこちにあるクラブでも踊られています。ちょうど体育館のようなところでしています。

九、アマゾン河の自然

アマゾン河は、長さこそ世界一ではありませんが、やはり世界の川の中の王様といつてさしつかえないでしょう。流域面積は、六百五十万平方キロメートルにおよび、世界一の流量をもっています。

もともと、アマゾン河は、北のギアナ高地と南のブラジル高原にはさまれた海だったといわれ、南北アメリカ大陸が、大陸移動で東に進むうちに、今のアンデス山脈が隆起したために、河になったといわれています。

アマゾン河は、河口から四千キロメートル上流にさかのぼっても、標高百メートルにも満たず、さらに、川底の深さが河口附近で六十メートルあり、大型船が河口から三千二百キロメートルのところまではいることができません。

流域には、世界の十の木の樹木が生え、そこから出す酸素の量は、世界の五分の四になるといわれています。

アマゾン河は、また、動植物の宝庫です。

世界最大の淡水魚ピラルクーや狂暴な魚の代名詞といわれるピラニアが住んでいます。アマゾン・カワイルカやペイシ・ボイ（海牛）などの珍しい物がいっぱいいます。

人をショックで気絶させるほどの電気ウナギや世界最大のねずみの仲間カピバラやへびのアナコンダ。空中で静止

できるハチ鳥。口ばしの大きくきれいなトゥッカーノ（大はし）。

数え上げればきりがありません。

植物についても、ランの原生種が町の並木に寄生しています。

それら珍しい動植物は、ベレーン市内のムゼウ（直訳すれば博物館だが、どちらかといえば動物園）にいけば見ることが出来ます。

また、モルフオ蝶といって青色の大型の蝶も住んでいます。

ここで、ピラニアについてももう少し詳しくわしくふれてみましょう。

一口にピラニアといっても三十数種あり、腹の部分が、赤色や黄色のものがあり、大きさもまちまちです。

中でも狂暴で動物をおそうのは六種類ほどだと聞きました。

するどい歯をもち、群れをなして泳いでいます。だいたいいにおいて、アマゾン河の水の色は茶色くにごっていますから、その泳いでいる姿は見えませんが、釣りをすれば、ちよっとの場所のちがいがいから、釣れ方がちがうということからもわかります。

一度、私がピラニア釣りをしたとき、その近くでブラジ

ル人の子どもが泳いでいましたが、その子どもたちは、ピラニアにおそわれないのだろうかとか心配になったことがあります。

十、ベレーン近郊の産業

ベレーン近郊では、主に農業と漁業がさかんです。

農業は、日系移民の人たちによって大規模に行われるようになり、ピメンタ(こしょう)、デンデヤシ、パイナップル、さとうきび、マンジョーカ(いもの一種)、とうもろこし、マモン(パイヤ)を栽培しています。特にピメンタは、外貨獲得の中心的作物となっています。

ただ、ブラジルの農作物で有名なコーヒーは、気候条件から、南部の方でしかできません。また酪農も南部が中心となっています。

果物は、豊富で値段も安くどこの家の食卓をもにぎわしています。

漁業では、なまず類を中心としたものの水上げが多く、規模は小さく行われています。

ただ、大西洋まで出ると、エビ漁が行われ、港にあげられたあと冷凍加工して、日本に輸出されています。

そのほか、最近では、ベレーンから三十キロメートルほど離れたバルカレーナにアルミ工場ができました。日本と

ブラジルの半々の出資で、安い電力と豊富な資源ボーキサイトを使ってアルミニウムを作っています。

ブラジルは、地下資源が豊富で、前にも紹介しました金をはじめ銀、鉄、ボーキサイト、石油、それにダイヤモンドなどの宝石類が産出されています。

そこで、ブラジルは、二十一世紀の国ともいわれています。

十一、マラジョ島

アマゾン河の河口にあるマラジョ島は、面積が五万平方キロメートルあり、河川にある島では世界最大で、日本の九州の広さに匹敵します。この島は、アマゾン河の流れを北と南に分け、海への河水の流出を妨げているような格好になっています。

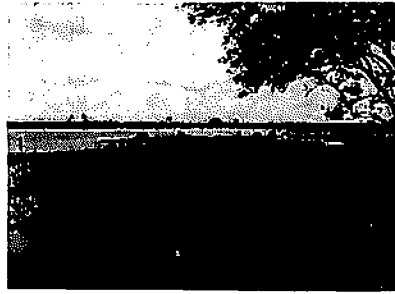
この島の住民は、原住民の「ヌアルアケ」族とポルトガル人によってアフリカより連れてこられた奴隷との混血からなっています。

この島独特の住民の人口は、二十二万人を越えず、牧畜に従事しています。広大な天然の牧草地では、百万頭以上の牛と十万頭の水牛と三十万頭の豚が飼育されています。

島最大の町ソレは、人口二万人で島の玄関口となっています。ベレーンからここまでは、エアタクシーで約二十

分。船だと五時間のところですよ。

また、サルバテールでは、パイナップルを栽培しており、ベレーンに出まわるものほとんどがここでとれます。



マラジヨ島にて

とです。

また、アマゾン河流域では、焼き畑農業をしているため、森林を燃やし次々と環境破壊が行われているということです。

もう一つ、外国からの借金がふえ、国内では、年に物価が三倍以上にもなるインフレになっていて、ますます貧しい人々の生活が苦しくなっているということです。

これらのむずかしい問題をこれからどうやって解決して

十二、かかえている

問題

ブラジルでは、「五％の人が九十五％の富を持っている。」といわれています。これは、大金持ちもいれば、貧乏な人がたくさんいるということです。たいへん貧富の差が大きいブラジルというこ

いがかが、「二十一世紀の国ブラジル」になる鍵だと思いませんか。

十三、おわりに

みなさん、地球の裏側の国について少しはわかっていただけましたか。

どうがんばっても、日本からは一日以上かけないと行けない国ブラジル。

その中でも、聞いたことのないようなベレーンを中心に話をすすめてきました。わかったようなわからないようなことがたくさん出てきたと思います。

どうか、これを機会に、ブラジルについてもっとくわしく調べてみるようお願いしたいと思います。

ブラジルコーヒーと テラロッシュ

ブラジル・リオデジャネイロ日本人学校
津山教育事務所 高橋典男

面積が日本の約二十三倍近いブラジルは、世界有数のコーヒー生産国である。国土全体で栽培されている程度の理解しかなかったが、聞くところによると、産地は全体的にみると一部の地域であり、その地域も年代を追って少しずつ移動しているとのことである。

以前は亜熱帯の気候に属するところがその中心であったものが、現在はサンパウロ州の南西部やその南に位置するパラナ州であり、気候的に見ると温帯気候に属する地域である。一年中温暖な気候の地域から、冬季には何年に一度は霜が降りる地帯がコーヒー生産の中心になっているのである。

この産地の過去から現在に至るまでを地図上に色づけすると、地域全体に広がるのではなく、かなり巾をもつ帯状につながる。

栽培に最も適する地域から、万一霜でもあれば大被害を

受ける地域へ向けて年代とともになぜ移動したかの理由を、中学校時代の社会科学学習の中で勉強した記憶がなかった。というよりも、身につけてなかったのである。

「テラロッシュ」とは、ポルトガル語で、「赤紫色の土」または「バラ色をした大地」を意味している。ブラジルのテラロッシュの大半は、輝緑岩が風化してラテライト化し形成された厚い土壌層で、腐植物を含み、肥沃度が良く、長年にわたって無肥料の農耕にたえるすばらしい土壌のことだそうである。実際にこの土は、そのような色をしており、何か特有のにおいがある。

ブラジルにおけるコーヒー栽培をはじめとする大規模農業は、この肥沃な土におうところが大きいと聞いている。数百ヘクタールから数千ヘクタールもの農場を経営するとき、肥えた大地は何ものにもかえがたい価値がある。農場経営者の話では、十数年間は化学肥料等は全く施さなくてもよいそうである。

栽培を継続すると次第に土はやせていく。収穫量が減少すると新しく肥えた地域へと移る。このことが栽培地域の移動へつながっていたのである。

肥沃な土も、開拓されてむき出しになると作物による養分の吸収だけでなく、特に雨による流出が大きな問題となる。その防止策として、コーヒーは規則正しく等高線にそ

って植えつけられ、ところどころに表土の流失を防ぐために大きな穴が掘ってある。

日本の面積とはほ等しいサンパウロ州も、今では原始林はほとんど残っていない。入植者により次々と開拓され、農場や町へ変ぼうしている。肥えた土地も疎放的な農業で次第に作物の十分育たない自然牧草地へとかわり、コーヒー産地も移り変わっている。

気候と密接な関係をもつコーヒーの将来はどうなるのであろうか。

子どものためのメキシコ物語

メキシコ・メキシコ日本人学校
倉敷・新田中学校 寺脇 政富

「太陽とサボテンの国」みなさんは、メキシコについてどんなイメージを持っていますか。メキシコは、古い歴史を持ち、中南米諸国の中でも工業国として発展してきた国です。東京の次にオリンピックが開かれた国でもあり、これを見ても、中南米で国力があり、最も安定した国であることがわかるでしょう。

また、日本とのつながりは意外に古く、深い国でもあります。では、メキシコについて、もう少し詳しく紹介しましょう。

一、メキシコの国土と気候

メキシコは、日本の五・三倍の国土を持っています。ラテンアメリカに位置し、中南米諸国では、ブラジル、アルゼンチンに次ぐ広さです。

地理的には赤道に近い国ですが、高地もあるため、各地方によって非常に特徴のある気候をしています。四十五℃

を越す熱帯の低湿地域から気温が氷点下にまで下がる高地まで変化に富んでいます。首都メキシコシティは、海拔二、二〇〇メートルに位置しており、年中日本の秋にも似たすこしやすい気候となっています。一日の中に四季があるともいわれています。

二、国旗の由来

メキシコの国旗は、中央に、湖の中の島が描かれ、サボテンにヘビをくわえたワシがとまっている図柄が描かれています。これには次のような伝説があるのです。

メキシコには、多くの種族が住んでいました。彼らは、他の種族と戦い、より住みよい収穫の多い土地を求めて移動していました。アステカ族はこのような種族の一つであり、好戦的な種族でしたので、周辺の種族と戦いながら、アステカ帝国を築いてきました。湖のある土地に着いたある夜、彼らの神に仕える神官の夢に太陽の神「ウイチロポチトリ神」が現われて、「これこそ、お前達に約束した土地である」と告げた。翌日、夢でお告げのあった場所に行ってみると、滑らかな水が湧き出ている美しい泉があり、水中の岩の上にサボテンが生えていて、蛇をくわえた美しい鷲が一羽止まっていた。それで、ここをお告げどおりに、アステカ族の安住の地と決めたわけです。それは、一三四五

年のことでした。この湖の都の名をテノチティトランとい
い、現在のメキシコシティーです。のちに「メキシコのペ
ニス」と呼ぶほど美しい都に発展したテノチティトランを中
心にアステカ帝国は栄えました。

三、北方の小民族であるアステカ族が栄えた のはどうしてでしょうか

アステカ族の社会は、一〇〇〇年程の間に皇帝を中心とする
中央集権的な国家に発達してきました。皇帝の権威は高
まり、絶対的な支配者であり、なかば神のような存在とな
りました。アステカ帝国の繁栄は征服した諸民族からとり
たてる貢物によって支えられていました、アステカ族の最
高神ウイチロポトトリは、多くのいけにえを要求しました。
そこで皇帝は周辺の部族と戦い捕虜をとらえ、いけにえと
して神にささげたのです。ピラミッドは、血なまぐさい
いけにえの儀式の場だったのです。テノチトランの大きな
広場の中では、人々が歌い踊り、七万人や八万人の人々が
いつも屋外マーケットに来ていました。ほとんど毎日、い
けにえを彼らの神にささげていました。それらのことは、
スペイン人にとって、神秘的で恐ろしいことであったと本国
に報告しています。ヨーロッパのどんな町よりもはるかに
大きかったティチトランの町は、一五二一年コルテス軍に



いけにえの図

よって破壊されてしま
いました。

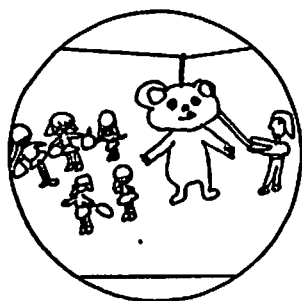
三、メキシコシテ イーでの生活

メキシコの首都メキ
シコシティー（現地
はスペイン語なので、
メヒコ

とよびます）は、海拔
二、二〇〇メートルの
高地いしかえると富士山の六合目とほぼ同じ高さにある大
都市です。ここで生活を始める人は、次のことについてた
いていおどろかされることでしょう。

日本を離れる時、ボールだのポテトチップスの袋だのを
バッグに入れて持って行きます。シティーに着いてからバ
ッグを開けると、それらはまるで今にも破裂しそうなぐら
いパンパンにふくらんでいます。これは、気圧が低いいた
めにおきる現象です。また、せつかに階段を駆け登るうも
のなら、体中が心臓かと思われる程ドキンドキンと早鐘を
うちます。リンゴの皮をむいてもほとんど淡茶色に変化し
ません。これらは空気がうすいせいでおきる現象です。

メキシコシティーは、東京よりもっと大都会でしょう。高層ビルの谷間は、車の洪水です。そして、短い信号待ちの車に群がる物売りの少年少女、火吹き男、頼みもしないのに、どこからか疾風の如く現われて、自動車のプロントガラスを洗う少年、大道芸をして生活費を稼ぐ青年、市内をドライブしていると必ず見られる光景です。シティーのあちらこちらには、あまり手入れのされていない芝生のはえた広々とした公園があります。人々は日曜日ともなれば、家族で、バーベキューパーティーを開きます。メキシコの人々はパーティーが大好きで、ちょっとした飲物とチップスぐらいを用意し、はずむ楽しい会話が何よりのごちそうなのです。軽快な音楽をかけ、ダンスや歌を楽しみます。大人も子供も一緒になってサッカを楽しんだり、ごろんとねころんでいます。あまりお金を使わずに楽しむ方法を知っているのです。それでは、バーベキューのにおいにつられて、誕生パーティーをのぞいてみましょう。木と木の間には、みんなでふくらませた色とりどりの風船がひもにつり下げられています。飲み物は大人はビール、子供はコーラなどの清涼飲料水です。おや、ピニャータ割りが始まりましたよ。ピニャータ割りは、誕生パーティーには欠かせないものです。木と木の間にロープをわたし、ミッキーマウスなどの形をした張りボテ人形がぶら下がっています。



ピニャータ

木のところにいる大人が、ロープを操作してゆらし、円陣を作った子供達は、人形をわろうと、順番に必要に棒でたたくのです。人形の中には、いろいろなおかしや果物、おもちゃがいっぱい入っているのです。人形がわれたら、ソレとばかり手にもっていた袋にあられの如くおちてきたお菓子やおもちゃを拾うのです。ほんとうに楽しいゲームです。大人の場合、なかにお金を入れておくというのはどうでしょうか。一度やってみたいものです。

四、メキシコシティー 郊外での生活

シティーを一步出ると、とたんにそこには、西部劇映画さながらの田園風景が目にとびこんできます。ゴツゴツした岩、緑の山々、ソンプレロ（帽子）をかぶり、ロバにまたがって農業を手伝う少年達、羊や山羊の群れ、のんびりと草を食べている牛や馬。ここでは、牛や馬が田を耕す中心であり、少年達も重要な労働力です。のどがかわけば、

木のように大きく成長したサボテンの葉の先についた（テウナ）を食べます。ほんのり甘い味がのどをうるおしてくれます。速々と続くマゲイ（リュウゼツランの一種、テキーラの原料となる）、年中咲き乱れている色とりどりのプーゲンピリア、ハイビスカスなど花に囲まれた楽園、それがメキシコです。農村では、家は土壁でできており、屋根は、日本のワラぶきそっくりです。庭には、ブタやにわとりを放し飼ひしています。そこには、はだしで歩き回る日焼けした顔の子供達があります。奥さんは何やら板の上で粉をこねています。そして手のひらで、うすくひきのばし、釜どの鉄板にのせました。おもちをやくようなこうばしいにおいがしてきました。これは、トルティジャといって、ともろこしの粉で作ったパン（または、柔らかいせんべい）で、メキシコの人たちの主食なのです。素朴で、土のぬくもりの伝わってくるような食べ物です。幼な児が、ハンモックで昼寝をしています。そばでは、姉さんが、ししゅうをし、人形を作り、街角で売り、生活のたしにしています。

五、死者の日（メキシコの代表的な祭り）

十月に入ると、コスモスが辺り一面咲き乱れます。コスモス街道を西へ約八時間、車で走ったところにハニツオ島という小さな島があります。十一月二日夜、この島は光の

海となります。今日は死者の日なのです。墓地という墓地に明かりがともされ、パックアロ湖の湖面を照らします。

祖先の霊と共に過ごす夜です。日本の「盆」の行事と似ていますが、とても明るく楽しくユーモアたっぷりな行事です。祭壇を作り、そこに砂糖でこしらえた骸骨やシャルコウベをお供えします。畑でとれたトウモロコシやジャガイモなども供えます。メキシコシティのデパートや街のシヨウウインドーには骸骨人形や絵が飾られ、台には、砂糖でこしらえたシャルコウベがにぎやかにかざられています。そして、友達や家族に色とりどりにきれいに色づけされたシャルコウベの砂糖菓子を手紙を添えてプレゼントするので、これは、死とか死霊を郑重に扱うだけでなく、ユーモアを持って迎えようとするからです。シャルコウベを食べることによって、死を恐れることなく受け入れようとするのです。日本人の我々には奇異に写るこの行事もメキシコの人々にとっては楽しい行事というわけです。

みなさん、メキシコの国について、少しはわかっていただけでしょうか。メキシコは古くから文明の栄えていた国なのです。次回は、メキシコの古代のマヤの文明についてお話ししましょう。

スペイン

ペルー・リマ日本人学校

スペイン・マドリッド日本人学校

玉野・田井小学校 南井滋野

一、ヨーロッパの仲間入り

へんに思われるでしょうが、一九八六年スペインはやっとヨーロッパの仲間入りができました。確かに、地理的には端とはいえ、ヨーロッパにありますし、歴史的にも文化的にも、他の国へ大きな影響を及ぼしてきました。それなのに、なぜ今頃になって、ヨーロッパの一員と認められたのか。昔から浮き沈みの激しい国です。その不安定さが、国の力をつけず、民の豊かさにつながらなかったからでしょう。

「わがスペイン領土内では、太陽が没することは無い。」

と、自慢していた時代をすべり落ちてからこの方、

「ピレネー山脈の向こうは、アフリカさ。」

と、スペインの存在すら無視され続けてきました。そして、第二次世界大戦の前哨戦ともいわれるスペインの内戦、国を二分しての戦いは、その後、続く約四十年間もの国際的孤立を存続させました。その間、確かな数さえつかみかね

る程大勢のスペイン人が、南米へ中米へ移住して行きました。その後は、低賃金労働者として、フランス、西ドイツ、スイスへの移住（約三十万人）。一九七八年、新憲法をつくり、ヨーロッパの仲間入り（EC加盟）をめざしていました。一九八一年の総選挙は、約半世紀ぶりにスペインの歩みの方向をかえました。国王をいいただきながら政治的には民主主義をかかげています。やっと仲間入りまでこぎつきましたが、国内問題は難問が山積みです。おそらくスペインで初めての民主的総選挙といわれるもので選ばれた、政治の歩みをねばり強く後押ししたり、引っぱったりしている姿をみていると、心からの声援を送りたくくなります。

若い首相の就任後、初めての憲法記念日、彼は、その演説を全国の子供むけにしました。

「——スペイン憲法は、一九七八年生まれの子供です。」

今は、小さな子供でも、将来、すべての人のため、自由と平和からなるスペイン国家をつくるおとなになります。

みんなが望むスペインをつくり続けていこう。

私たちの努力と実行で、引き継ぐことができるもの、私たちが残していけるもの、今日の子供たちへ、いつの日か、立派なおとなへそだてていくあなたへ。

さあ、受けとっておくれ立派なスペインを。おじいさ

んより引き継いだスペインより、もっとよくなったスペインを。

と、いえるように。

憲法を、平和を、自由を学んで、私たちの子供にひき継ぐ努力をしよう。

もっとよい、もっと繁栄した、もっと正義のある、そしてもっと団結の強いスペインを。——。」

しかし、国中の制度、人は、まだまだ古いものに慣れ親しんでいますから、あちらこちらで大混乱が起っています。国を動かす経済力はまだ低く、まわりのヨーロッパはいうに及ばず、世界の経済変動の激しい荒波を乗り切って行けるかどうか、不安材料の種はつきません。(一九八七年六月末現在、スペイン国内の実労働人口中の失業率は、二〇・二六パーセントにのぼる。)

その上、念願のヨーロッパの仲間入り(EC加盟)も、その波紋の広さ強さがさらに、さまざまな問題を新たに生み出してきました。たとえば最近のスペインの新聞は伝えています。(「エル・パイス」国際版、一九八七年十月二十八日付)

「ボンのスペイン大使館前で、西ドイツ在中のスペイン人移住者達が大きな抗議行動をした。彼らの子弟の教育が、

本国スペインのEC加盟後は、移住先国にまかされ、スペインからの教育行政サービスは打切られることに反対しての抗議行動である。移住スペイン人にとって、EC加盟は、子供の教育面からみる限りでは、ひとつも現状改善につながっていないという。——」

スペイン国外には、「スペイン協会」(CASA DE ESPANZA)という組織があり、ここを中心にして、スペイン本国からの情報、あらゆる分野の行政サービスを受けていたのです。子弟の教育もスペインからここへ派遣されてくる先生を通して学ぶ人も多いのですが、ヨーロッパと一体になるためには、そこでのスペイン人のみの教育は廃止され、出先国のより多くの人々に、スペイン文化紹介、言語活動してもらおうよう、組織機構が、変っていきます。大半は肉体労働者として移住してきたスペイン人の親たちは、このスペイン協会を心のよりどころとしています。しかしその子や孫たちは、もう移住先の国にとけ込み、文化に融合し、言葉は完全に話し、友達ももち、将来も移住先国に託しています。たとえ両親が年金生活のためスペインへ戻ったとしても、彼らの大半はそうはしないでしよう。EC加盟は、彼らスペイン人に移住先国と一体になるか、スペイン人としての自立を強調するかのジレンマに立たせています。

二、ことばの仲間

EC加盟が決定されてから、スペイン国内のくらしぶりにも、大きな変化がみられます。新聞の職業案内欄で目立つのは、勤務先がベルギー、ルクセンブルグ等、国外が多くなったことです。また就職に要求される言語数もふえ、ECの公式語のうち、少なくとも三カ国語は話せなければ、試験さえ受けられないようです。しかし、姉妹のような言語グループ圏にありますから、十年近くかかって、一つの外国語さえものにならない私達日本人より、ふだんから気負いなく習得されているのは、うらやましいことです。

私の友人（スペイン人）は、彼女の友人（フランス人、イタリア人、ポルトガル人）と、互いの自国語でおしゃべりを楽します。

南欧（ギリシャ、イタリア、スペイン、フランス、ポルトガル、ドイツ）の首脳が会議をしているニュースをテレビでみて、驚きました。なんと通訳がついているのは、ドイツのコール首相だけなのです。

「通訳や、同時通訳のイヤーホーンのわずらわしさがなく、会議の進行はスムーズで、深まり……」

と記者団へ話す政府高官がいましたが、私達日本人は、本当に語学力をみがかねばなりません。それも、いろんな国

の言葉を、文法だけでなく、その国々の背景を学ばねばなりません。

私がそれを痛感したのは毎夏開講される「外国人のためのスペイン語講座」(マドリッド大学主催)に出席してからです。夏休み(六月から九月まで)が近づくと各新聞に広告されますが、世界中からスペインへ集まる観光客をうける一方法として、各大学が開放されるのです。文部省へいくと、窓口でもていぬいに説明してくれます。

私が受けた講座は、年令十六才以上のスペイン語を母国語としない人というワクがあるだけでした。入講時に、スペイン語のテストがあり、その結果によって三レベルに分けられました。しかし、このクラス分けも一日、一回の文法講座の時のみ有効で、後は全くどのコースを受けてもよいシステムです。語学講座といっても、日本のそれとは、全く違います。一つの共通語(ここではスペイン語)習得によって、参加者にスペインを知ってもらいたいという意図のもとにまとめられたものです。レベル別の文法時間のほかは、スペイン地理、経済、政治、哲学、文学、歴史、音楽の講座でした。担当教授もこの夏期大学の間だけマドリッド大学教授である人も多く、世界の国々から学生を受け入れ慣れているためか彼らの言語も巾広いものです。また初級レベルでは、スペイン語の一言も話せない学生のため、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ

語、ポルトガル語をませて、説明している教授もいました。

私のクラスの人には、アメリカ（ワシントン、ニューヨーク、ロサンゼルス）、メキシコ、イラン、西ドイツ、ベルギー、フランス、西インド諸島、カナダと、いろんな国の人からなりました。他クラスの人も入れると、あの三週間は、オリンピック競技会にも匹敵するほどの国が、マドリッド大学講内に集まっていたことでしょう。そして、職業、年令はさらに多種多様でした。イランからの亡命学生、新聞記者、看護婦、事務員、弁護士、ダンサー、休暇中の兵士……、十六才から六十五才までの男女が、日ごとに、スペイン語学力をアップさせていきました。テキストもありましたが、文法の講義中も、ほとんどこれを見ることなく進みました。要点のみのべて、学生の質問に応じる。あくまでも話すこと中心の文法講座でした。たえずフリーディスカッションをおこない、語彙数をそれによってふやす工夫もみられました。最初は互の国を紹介しあいました。まだ、ただたどしいスペイン語で、ホメイニ政権の暴虐をなじるイランの亡命学生の話には、みんな身をのり出して聞きました。メキシコ人でしかも父親はスペイン人なのに、スペイン語が話せない青年の家庭内のもどかしさと、多民族国家のくらしにくさをうったえる話は、日本人には、考えさせられるものが多くありました。いつもウイスキー入

りのコーヒーを片手に入ってくるニューヨーカーのヨガ教師は、わざわざ休けい時間をさいて、私に、教会建築にみられる彫刻の聖人と、それにまつわる聖書の中の話をしてくれたものです。スペインの高温、乾燥（夏は四十二、三度に気温が上昇）と、自分の脱毛を結びつけて大まじめに論じた頭のうすいブラジル人の新聞記者の話には、爆笑が続きました。

語学学習は本来楽しいものはずです。また好奇心をよぶものではなかったでしょうか。たいくつな文例暗記や、テスト用の文法学習が続けば、あなた方の語学への関心がうすれるのは当然です。その言語の背景、つまりその生活を知らないで語学上達の方法はないでしょう。

講座のない土曜日は、歴史講座、文学講座主催の遠足がありました。こうした校外講座の受けつけは、窓口ですが、人員点呼から、行く先々の案内は担当教授がします。「ドン・キホーテ」のルートをたずねる遠足の時です。バスの中で熱ぼく、この十七世紀の大作を説明した教授がこうつけくわえました。

「ドン・キホーテは、もちろん架空の人物であるが、外人のみなさんは、それを認めた上で、まことに冷静にかつ正確に十七世紀のスペインを学ぼうとしてくれる。わがスペイン学生は、この頃は説きもしないで、知ったかぶり

をして、ふるくさいものと打ち捨ててしまふ。聖書の次に長く読まれ、翻訳されている(?)わがドン・キホーテは、スペイン人そのものというより、いつの世にも通じる人間像ではないだろうか。」

たしかに、おもしろい本です。みなさんもいつの日かこの大著を読了されるよう望みます。つきに参加したのは、十二世紀の城壁で街中がかこまれる中世都市についての歴史講座バス遠足です。すぐ車にのってしまふ私たちも狭い石畳の道、暗い教会ばかりでは、ひたすら歩くより他に方法がありません。この講座中、いつも感じていたことですが、今の豊かなくらしの中にいる日本のみなさんに、みせたいものは、これに参加している青年達の健康なつましくらしぶりです。この中世都市めぐりバス遠足でもルーマニヤからの女子学生はバス代が高いと欠席して、ローカル線の列車をのりつき、地方行きの路線バスにのりかえて同じ歴史コースをひとりりで学んでまわりました。またバス代をうかせるために、昼食をパンと水だけでがまんしたドイツの青年。新婚旅行を記念するためこの講座をうけにきたフランスからの夫婦、彼らはすでに終った前半期の講座はなんと早朝の個人レッスンでこなして、続いてクラスに入ってくるのです。このバス遠足でも奥さんの方が、手のひらに行く先々の発車時刻をマジックで大書きしてもらっ

て、グループに加わりました。集合場所へ彼女の帰りが遅くなると、旦那様よりみんなの方が捜しまわりました。テスト中、気分がわるくなった学生に、スペインの医者を紹介する仲間、運わるく盗難にあったスエーデンからの学生に、警察への書類のかき方を教える仲間、本当になんでもある繁栄の日本でも、売ってない「暖かい心」は、勤務時間のやりくりでやっと参加していた私の心もなごやかにしてくれました。

講座最終日に、修了証授与。(この講座の出席証明のみが欲しい人は、テストを受けなくてよい。テストは代金を払ってテストを授けた人のみに、スペイン語力証明書がこの式で授与される。)

ひとりひとり舞台上上って、担当教授と握手して終ります。その後は、音楽院のギター科教授によるスペインの代表的作曲家の作品のリサイタル、続いてビュッフエスタイルのさよならパーティです。

あの同級生のそれぞれが、スペイン語をその後の生活に役立てているかどうか知りませんが、たった三週間でもスペイン語を通して語りあった友がいたことを、私はすばらしく思います。

三、教科書から

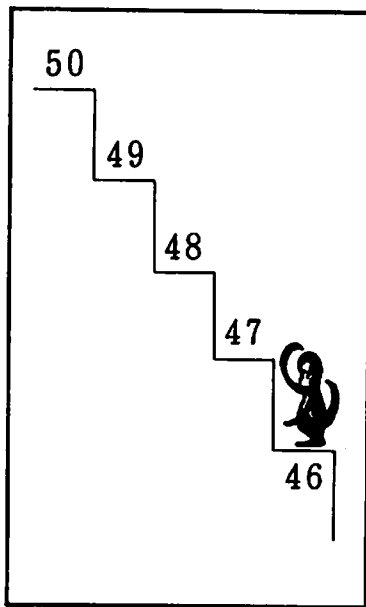
「算数」

ものの長さを計るものさしは、それを使う日時や場所が違っていても、単位が同じなら同じめもりです。ところが、こんなわかりきったことでも、自分達のものとは異なるもの（文化や歴史、生活様式）に出合うと、自分の国のそれとくらべてみたくになります。「自分の国（考え）のものさし」ではかってみようとするのです。こんな、はかれないものに、使いたれたものさしを無理に使おうとしているのです。「日本では、こうだ。日本人ならこうする。」

と日本式ものさしが先に出てきては、相手の様子がよくわかりません。

スペインには二十五ペセタ、二千ペセタという単位のコイン、紙幣があります。（一九八七年十一月十五日現在、百円は八十一・五九ペセタに相当する。ペセタはスペインの通貨単位）。日本ではつかいられない単位ですし、お金の種類が多くてわずらわしいとさえ思います。しかし、これは、おつりを、たし算して出す時には、便利なお金なのです。たとえば二千九百七十五ペセタの買物をして五千ペセタ紙幣を出したとしましょう。私たちは暗算で五千ひく二千九百七十五は、二千二十五とします。ところがスペインの人

は、売り値の二千九百七十五ペセタから支払われた五千ペセタまでの差を、順番にとなえていって出すのです。まず二十五ペセタ貨を出して三千ペセタ、つぎに二千ペセタ紙幣を出して五千ペセタとします。こうしたおつりの計算のしかたを図にあらわした算数の本をみると、こんな絵がいてあります。



さるの立っているところが、売り値を示す数字です。最上段が客が支払った額です。店の主人は、

「はい、四十七、四十八、四十九、五十ペセタ。」といながら小銭を客の前に出していきます。この階段は上りだけで、さるはけっして下ってはいけなくと教えるそうです。

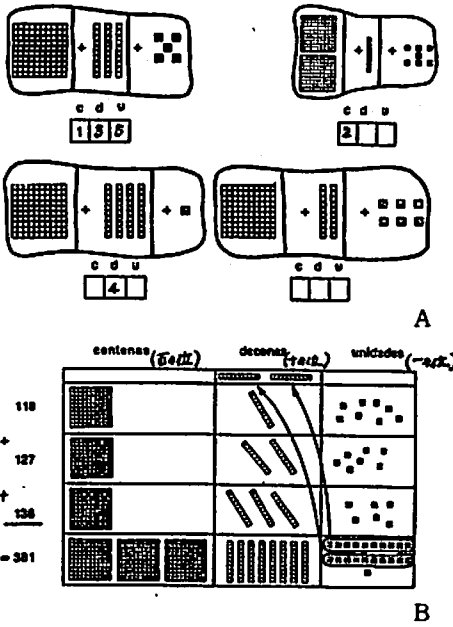
初めて日本の人が外国で買物をした時、おつりを、小銭

から順に出されてとまどうのは、こうした生活習慣があるのを、知らないからです。

小さな店や市場などでは、多くの品物の価格をひたすら筆算している店の主人を見かけることがよくあります。

この筆算重視は大変なもので、初等教育の初級の算教科書は、これにページ数の大半をさいています。

百の位、十の位、一の位を明示して、数字を入れさせる練習がたっぷり続いたあと、B図のような筆算のかき方を、マス目をつかって計算します。数字ごとに十があり、



＝(イコール)の記号もあります。なれてくるにしたがって、日本と同じ筆算のかき方になってきます。

そのほか単位量の十分の一を表すデシ、十倍を表すデカ、百倍をあらわすヘクトも使っています。

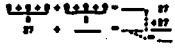
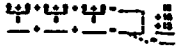
1 m	=	10 dm
1 km	=	10 hm
1 dam	=	10 cm
1 hm	=	100 m
1 dal	=	10 l
1 hl	=	100 l
1 hg	=	100 g
1 dag	=	10 g
1 l	=	100 cl
1 cg	=	0.01 g
1 dg	=	0.1 g
1 dm ²	=	100 cm ²

私たちの日常ではほとんど使わないので、とまどいます。イギリス人の学校へ転校していった子供は、通貨単位だけでなく日常生活の中でよくつかう、貨幣、距離、重さの単位が私たちのものと違ってたいへんまごついたそうです。生活に根ざした単位は「習うより慣れろ」の典型で、その地にくらして、よく理解できるようになります。

品物の数量、価格表示でまちがいがやすいのがコンマと小数点、数字のかき方です。いずれも、初めてスペインの市中銀行で小切手を切った時、銀行員に教えられました。教

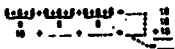
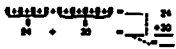
$8 \times 9 = \underline{\quad}$

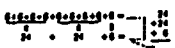
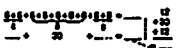
Ve a calcular 8×9 de varias formas

Primera forma  Segunda forma 

Por tanteo $8 \times 9 = \underline{\quad}$ $8 \times 9 = \underline{\quad}$

Vamos a comprobar que $8 \times 9 = 72$ de varias formas

Primera forma  Segunda forma 

Tercera forma  Cuarta forma 

Completa y aprende:

$8 \times 9 = \underline{\quad}$

1805
=千八百五

1805
=1てん八〇五

$1 = 1$

$4 = 4$

$7 = 7$

便利な九九の暗誦法のおかげもあるでしょう。
スペインでは、どんな方法でかけ算、わり算を学んでいるのでしょうか。
かけ算は、たし算のくりかえしで教えていきます。

科書の中でも、数字練習では、こうした書き方を示しています。
私たちが、かけ算、わり算を早く習得できるのは、

しかし、数が多くなると大変です。六九五十四と、唱えればよい私たちのやり方とは違って、ずいぶん念を入れた学習に

$865 \overline{) 5}$

partimos las centenas. Así:

$865 \overline{) 5}$
0

Y se dice:
 $1 \times 5 = 5$
De 5 a 5 que he repartido van 0

partimos ahora las decenas:

$865 \overline{) 5}$
08 11

Y se dice:
 $1 \times 5 = 5$
De 5 a 5 que he repartido van 1

Repartimos ahora las unidades.

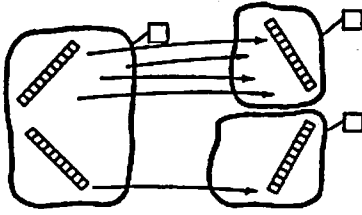
Date cuenta que la decena que nos ha sobrado hay que cambiarla por unidades. Por eso tenemos:

$10 \text{ unidades} + 5 \text{ unidades} = 15 \text{ unidades}$

$865 \overline{) 5}$
08 113

Y decimos:
 $3 \times 5 = 15$
De 15 a 15 repartimos van 0

Luego $26 : 2 = \underline{\quad}$



なりません。
わり算はまずその記号の違いに気づきます。これは二十六わる二の式です。考え方は、いつも十のかたまり、端数のかたまりに数を分けて説明されます。

1.º Separar cifras.	2.º Hacer las multiplicaciones.	3.º Escribir el cociente y calcular el resto.
$\overline{195} \mid 56$	$\begin{array}{r} 56 \quad 56 \quad 56 \quad 56 \quad 56 \\ \times 0 \quad \times 1 \quad \times 2 \quad \times 3 \quad \times 4 \\ \hline 00 \quad 56 \quad 112 \quad 168 \quad 224 \end{array}$	$\begin{array}{r} \overline{195} \mid 56 \\ - 168 \quad 3 \\ \hline 27 \end{array}$

Se baja la cifra siguiente.	2.º Buscamos la cifra del cociente.	3.º Ponemos la cifra en el cociente y averiguamos el resto.
$\begin{array}{r} \overline{487366} \mid 2379 \\ - 4758 \quad 20 \\ \hline 1156 \\ - 0000 \\ \hline 11568 \end{array}$	$\begin{array}{r} 2379 \quad 2379 \quad 2379 \\ \times 0 \quad \times 1 \quad \times 2 \\ \hline 0000 \quad 2379 \quad 4758 \\ 2379 \quad \textcircled{2379} \quad 2379 \\ \times 3 \quad \times 4 \quad \times 5 \\ \hline 7137 \quad 9516 \quad 11895 \end{array}$	$\begin{array}{r} \overline{487366} \mid 2379 \\ - 4758 \quad 204 \\ \hline 1156 \\ - 0000 \\ \hline 11568 \\ - 9516 \\ \hline 2052 \end{array}$

次に出てくるのが、わたし達のわり算（筆算）の記号をさかさまにしたような記号です。これは五六五わる五を示しています。記号の左、つまり被除数の下は、わって差し引いていったあまりの数を示し、除数の下が商です。除数が二けた以上になると、その手順は大変です。商をさがすためのかけ算もその近くに書いて考えます。もっと大きな数になると、被除数下にひき算の筆算もならびます。なれてくると、これらは書かないで計算するようになりますが、商の位がいつも除数とそろうので、私たちは、よくここでつまづきます。日本式のわり算をしてみせましたが、やはり九九の暗誦法がなければ、この方法もスペインのものも似たりよったりだなと思いました。

旧時代（一九七八年以前）の算数学習より、大きくかわったことは、集合がとり入れられたことだそうです。小学一年の第一ページから出てきますし、小学五年では、かなり多く扱います。しかし全般に四則計算重視で、早くから大きな数をつかいます。初等教育の教科書はB5版で、二百ページから三百ページにのぼる部厚い本です。これはノートがわりにもなっていて、算数科では書きこみ、ぬりこみ、切りとりもできるようになっています。

「社会科」
初等教育の一年から五年までは、社会科、理科の教科書

は合冊です。

小学五年でスペインの地理を学びますが、各地方ごとのまとめのページに文学作品(詩が多い)が載せられています。その地方を扱った作品か、その地方出身の作家のものです。昔からすぐれた文学作品をうみ、それを誇りにして、今でも詩の暗誦やコンテストが多いお国柄です。社会科の教科書にまで登場してくるのは、さすがです。

芸術分野でもエル・グレコ、リベラ、ゴヤ、ペラスケス、…と、現代芸術の源を作った人々が輩出した国です。ちょっとしたページの余白さえ、そうした人々の作品でうめられています。新しい教科書から大々的にとりあげられた作家、作曲家、画家は、暗い時代のスペインから亡命したり、無視された人々でもあったわけですから、おとなのスペイン人にとっても、手ごたえのある新鮮な教科書でもあります。その中でも、新生スペインを象徴するものは、ピカソの扱いです。一九八一年には、マドリッドで彼の回顧展も開かれました。スペイン人の心を持って、スペインを愛して、スペインを思っていたのに、ピカソは、二度とスペインへは帰ってきませんでした。スペイン内戦時から、暴力による政治に屈することなく、絵画表現をすることでスペイン人の悲しさを世界に訴え続けました。その代表作「ゲルニカ」もニューヨークから帰ってきました。小学八年生の社会科

のあるページには、ピカソのかく平和の鳩が大きく飛んでいます。一九八二年の世界サッカー大会の開会式団体演技は、やはりピカソの鳩をアレンジしたものでした。

社会科の教科書の後半にはどの学年も、交通についての領域が載っています。道のわたり方、信号のいろいろなどの他に、自分が運転する場合にそなえての注意事項が多くてきます。たおれた大型車車のおこし方というのまであり、車社会の実態が写されています。また高学年になりますと、社会悪とみなされている犯罪についても述べてあり、アルコール中毒、麻薬、などその現場写真も入れて時事解説風になっています。また映画、テレビで有名になった作品のステール写真も多用しており、教科書のイメージから遠いものもあります。

私たちの国、日本はどのように扱われているでしょう。日本の指導要領(先生が教える領域、方法、事項などについての指針を示したもの)に似た、新教育改定指導書を見てみましょう。日本は初等教育社会科、上級の世界の地理の項に出てきます。

目的・日本の経済的な大変容を分析する
学習内容の概要・

。経済的発展のためにとられた政策から、日本の近代化の様子を調べる。

。日本の経済地図を作る。農業、エネルギー資源、工業、商業、人口分布を含める。

わが国の文化、歴史についての記述は、経済にくらべれば少ないようです。しかし、どこから入手したのか、写真も資料も私たちがさえ知らぬものがあつたり、比較的新しいものが載っています。かつてのように、日本、サムライというまちがった古い知識で論じたものはさすが影をひそめています。中国と日本の区別がつかないため資料、写真解説に混乱があるものも出ています。この混乱は、日常目にする印刷物、事物にはまだ大変多く、一般のスペインの人々には、本当の日本の姿を知らせる工夫が必要です。さて、第七学年の日本についてのページを開いてみましょう。

まず日本の概要をつかむための、図版、地図、写真、グラフ類がたくさん載っています。スペインと比較して強調されている地理編では、

「多島、火山国。平野部の少なさ。海岸部に人口密集、モンスーン気候帯、北から南へ変化の多い気候……」

これらの事項をひっくりかえせば、だいたいスペインの地理にあてはまるでしょう。

国土は日本の一・三倍、人口密度一平方キロ当り七十二人、日本の札幌から東京あたりと同じ偉度にありながら降

雨量は年間四〇〇ミリ(マドリッド)、晴天日は約二百日、……ことばの解説欄には、モンスーン気候、水力発電が出ています。勾配のない、水量も少ないスペインの川をみながらいる子供達には水力による発電は理解しにくいかもしれませぬ。工業、貿易などは、アメリカ、ソ連と比較した図表や解説が多くなります。

「——日本の産業の発展は、資源によるものではなく、エネルギー、鉱産資源はほとんどないといってもよいだろう。多くの優れた技術と進取の気性に富む政策によるところが大きいのである。日本は大産業国家に変容した。基幹産業力をもとにして、高度技術産業をおしすすめ、大変活力のある貿易立国である。」しかし、基礎技術はその大半を外国から導入したこと、日本人の勤勉さまじめさが、産業立国をささえていることも忘れずに記述されています。スペインのEC加盟が決まってから、多くの外国の技術、産業がスペインへ売り込みをかけてきました。その中で私には忘れられない広告があります。イタリアの有名なOA機器メーカーが三度ほど出した新聞の大広告です。男性が指で目をつけあげた(狐目)写真の横に、
「私たちは、日本から何も学ぶ必要はない。」
という文が書かれています。

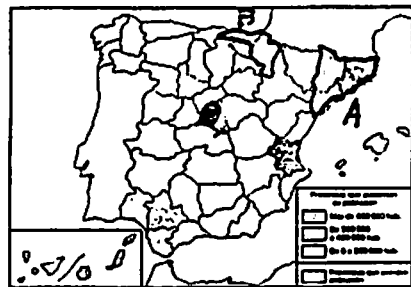
「チーノ、チーノ、(中国人、中国人)」

と、はやしたてるスペインの子どももまだ多いのです。中国人も日本人も区別がつきませんから、日本人もよく「チーノ」と馬鹿にされます。なぜ中国人がこんな扱いをうけるのでしょうか。かつてスペインが新世界発見でわきたっていったころ、南米、中米の開発には、馬や牛より安価な中国人労働者を使いました。その後へ入っていったのが日本人の移住者だったのです。大宗主国であったスペイン人の誇りと、誤まった歴史を信じ続けた結果の狐目のジエスチャーだけが生き続けているのです。アジア人でも、中国人、日本人にむけてよくします。まだ今の中国人の人はスペインにほとんど進出していませんから、この蔑視的なジエスチャーは日本人向けがほとんどです。それにスペイン人から見ると、日本は新興の成金突出国です。経済的には及びつかぬとしても文化、歴史にプライドを持つ人々ですから、こうした広告がうける下地は充分あります。

日本人学校には通学しないで、スペイン人の学校へ通っている日本の子も多くいます。その子らがよく話してくれたことも、心痛むものです。

「学校で盗難があったり、何かこわれたりすると、まず僕ら日本人がやったといわれるんだ。」

「中国の中に、日本はあるのか。だから、こんな目を両方



A—カタルーニャ
B—バスク
○—マドリッド

ともしてゐるのさ。
……」
こうした無知、偏見を正すためにも、ありのままの日本を伝え知らせる機会がふえ、出版物が多くなることを望みます。
「カタルーニャ語、バスク語」

前述のスペイン初等教育指導書の一部には、わざわざカタルーニャ編、バスク編がついています。スペインの地図を見てみましょう。どちらも同じスペイン国内にあります。

カタルーニャ編の国語科(初等教育、初級)第一章はつぎのような条項からなっています。

一、カタルーニャ地方の言語は、カタラン語である。すべての児童にまずカタラン語を学ばせる必要がある。

二、最初の言語が完全に習得されてのち、第二言語は学ばせるのが望ましい

三、第二項はカタルーニャ語か、カステイジャーナ語どちらをえらんでも同様である。

この文中の言語をつぎの様に置き換えてみましょう。カタルーニャ地方を岡山へ、カタラン語を岡山弁へ、カステイジャーナ語（今はスペイン語の本流となっている）を東京弁へ。何だか変ですね。同じ国内で、なぜわざわざこのように一地方の言語のみを強調し、また学ばねばならないのでしょうか。それには、こんな歴史的な事件が関係してきます。

カタルーニャ地方は、スペインでも珍しい気候温和なところで、古くから工業商業が栄え、独特な文化、言語を誇りにしています。中央高地にあるマドリッドを中心にしたカステイジャーナ地方とはたえず対立して、スペインからの独立をねらってさえます。（この地方の中心地は、バルセロナ。一九九二年のオリンピック開催地であるが、オリンピックをスペインの国家行事にすることに反対して、マドリッドの中央政府がオリンピック競技にかかわることに抵抗している。）スペイン内戦の時（一九三六年から一九三九年）には、戦いの一方の拠点となりました。そして戦いが反対派（フランコのひきいる軍部）の勝利になった日から、このカタルーニャ地方は徹底的に差別され続けたのです。それは、一九七七年、地方の自治が認められるまで続いた長い暗黒の日々でした。カタルーニャ語を話すことも、印刷物を出すことも禁じられました。一九八〇年、国の教

育行政権はこれらの地方自治体へ移りました。カタルーニャ教育法は宣言しました。

——スペイン国の教育法の枠組みの中で、私達の学校はカタルーニャの子供たちの要求に答えなければならぬ。私達固有の言語、文化を教えねばならない。彼らがおとなになった時、その生まれた土地を差別したり、異質に想ったりするような子供にしないため、これは、カタルーニャ人であることの証明である。——」

バスクの指導法には、モデルAからDがあります。これはクラスの子供の言語によって、とり入れるプログラムが明示されているのです。（バスク語のみ、カステイジャーナ語のみ、その両方がわかる子）マスターしなければならぬバスク語の単語まで載っています。

カタラン語はカステイジャーナ語の方言ではなく姉妹語のような関係にあります。バスク語は、どこかのヨーロッパの言語とも仲間をもたない不思議な言葉です。フランスとの国境をはさんで、フランス側にもバスク人はいます。スペイン語（カステイジャーナ語）は、世界十九カ国の公用語なのに、同じスペイン国内で話されるカタラン語、バスク語のわからないスペイン人は多いと聞きました。

四、学校

九月が来ると、まず長い夏休みをすごした商店が開き始めます。(たいていの店は、八月いっぱい店を閉めて夏休みに入る。)

学校の教科書を扱う本屋(文具店兼用も多い。)さんは多忙になります。予約をうけていた人に新学年の教科書を販売するシーズンは九月中旬頃からですが、日本の様に同じ友達にまた出会えるとは、かぎりません。学校選択が大変自由なのです。

新生スペイン(一九七八年の新憲法承認)になってから、じょじょに公立学校への政府援助が増えてきましたから、最近では地元の公立校へかよう人も多くなりました。それまでは、先生の質資も学校設備も、公立は私立校には遠く及びませんでした。スペイン全体も他のヨーロッパの国々とくらべてまだ大変貧しく、経済的に苦しい家の子は、公立に集まり、それにさえかえぬ子も多かったようです。今でも文字を読んだり書いたりできないおとなは国民のパーセントを占めるといわれています。

「マドリッドとその周辺の学校案内」という本によりまずと、スペインの首都、マドリッドの学校群と他のヨーロッパ

諸国の学校群の差はまだまだかなり開いており、特に学校設備などの充実がマドリッドの学校はおくれていると報告されています。その中でも運動設備の不足(マドリッド旧市内の学校には日本の学校の様な運動場を持つ学校は、大変少なく小さな中庭でいどの所で遊んでいる。)、校医、看護婦(養護教諭)も、ほとんどの学校にはいないとのこと。

しかし、最近マドリッド中心部は、入学者が減って、教室の空きが目立ち始めています。商業地区のため、これも地価が高騰して、住民が郊外へ移っていくからです。反対に、マドリッド周辺部では、学校建設ラッシュで、特に交通網の整理されているところでは、高度なエリートのための私立学校がふえています。

私立校の中には正規の授業以外に多方面の教育活動をかかげるところも多くなりました。心理学(相談)、音楽活動(この二つがとても多い。柔道、ダンス、バレエ、登山、パントマイム、水泳、スキー、タイプライター、博物館見学、遠足(日本のように定期的行事としての遠足や旅行はない)、演劇、映画鑑賞、チェス等なかなかユニークでにぎやかです。これは日本の学校の授業として組みこまれているクラブ活動とはことなります。別に授業料もいりません。

こうした私立校、公立校の他に、教会附属の学校があります。授業料は無料か半有料ですが、最近マドリッド旧市

授 業 日 数 (初等教育)

	Horas
Lengua castellana スペイン語	4
Euskara エウスカラ	4
Experiencias (social, natural)	4
Matemática	4
Religión	1,5
Ed. Artística (música, plástica)	4
Educación físico-motriz	3
Libre disposición	0,5
Total	25

バスケット

AREA	Horas lectivas semanales
Lenguaje ニュース	7 horas.
Matemáticas 算数	4 horas.
Experiencias 体験	3 y 1/2 horas.
Religión 宗教	1 y 1/2 horas.
Educación Artística 美術	5 horas.
Educación Física 体育	3 horas.
De libre disposición (1) 自由	1 hora.
TOTAL	25 horas.

初 級

Horario	Paralelismo (5 años) (horas)	Ciclo inicial (horas)
Lengua Catalana カタルーニャ	4	4
Lengua Castellana スペイン語	4	4
Experiencias	4	4
Matemáticas	4	4
Expresión y Educación Artística	5	5
Educación Religiosa y Ética	1,5	1,5
Recreo y juego	2,5	2,5
Total	25	25

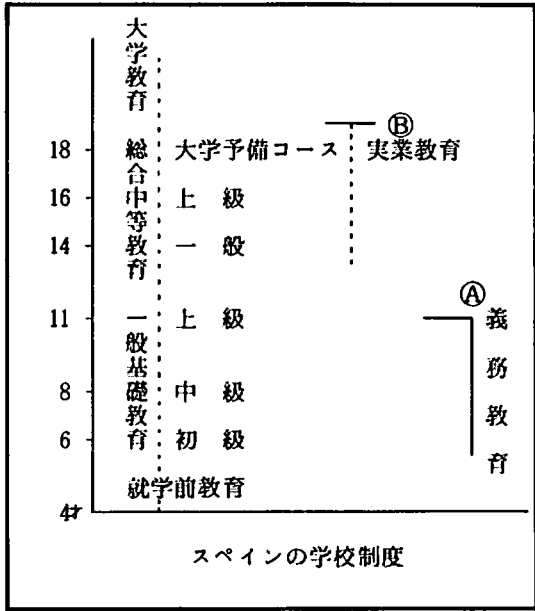
カタルーニャ

AREA	Horas lectivas semanales
Lenguaje	7 horas.
Matemáticas	5 horas.
Ciencias Sociales y Educación Cívica 社会科	2 y 1/2 horas.
Ciencias Físico-naturales 理科	3 horas.
Religión	1 y 1/2 horas.
Educación Artística	2 horas.
Educación Física	3 horas.
De libre disposición (2)	1 hora.
TOTAL	25 horas.

中 級

AREA	Horas lectivas semanales
Lenguaje	6 horas.
Matemáticas	3 y 1/2 horas.
Ciencias Sociales y Educación Cívica	3 horas.
Ciencias Físico-naturales y Tecnología	4 horas.
Religión	1 y 1/2 horas.
Educación Artística	2 horas.
Educación Física 体育	3 horas.
Idioma Moderno 現代語	3 horas.
TOTAL	25 horas.

上 級



内のこうした学校の老朽化が目立ちはじめました。国家権力と結びついてカトリック教会が、スペイン教育界を支配していた時代には、考えも及ばなかったことです。

経費の面からながめてみましょう。

図Aまで公立校は無料です。(ただし後述するように、教科書、食事代、交通費は自分で払う。)ただし一九八七年二月図Bまで無料になりました。また大学入学のための登録料も無料にもらえる制度もできました。(年収七十万ペ

セタ約二百万円以下の家庭)私立の場合は政府の助成金の有無、その割合によって必要経費はかわります。

政府助成金は百パーセント、七十五パーセント、五十パーセント支出の三段階あります。学校からの要請と、通学してくる児童生徒の経済状態によってきめられます。

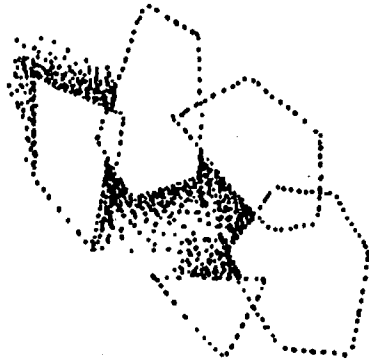
初等教育費でしらべてみましょう。百パーセント助成のある学校なら月額四百二十五ペセタ(約五百十円)、七十五パーセント助成校なら八百から千二百ペセタ(約九百七十五円から千四百六十三円)、五十パーセント助成校なら千二百ペセタから二千百ペセタ(約千四百六十三円から二千五百円)となります。これを月割払いにせずという広告を出している学校もみかけます。この他は、すべて有料です。食費(学校の食堂利用。ただし、昼食は弁当持参でも、家へ食べに帰ってもよい)、スクールバス代、各種クラブ(前述)受講費とかなりかかります。(公立校といえども、校門から外のこと、各家庭にまかされます。登下校時になると、校門附近に自家用車、スクールバスが集まって、日本の集団登校をみなれた目には、活気のある光景です。)

一九七八年まで、これらの経費は凍結されたままでしたが、スペインのすごいインフレのため、P・T・Aとの話し合いのすえ、教育教材費十二パーセント、食費十三パーセント、交通費十五パーセント増額されました。私立校の

案内で目につくのは、学校の宗教について明示してあるところ。大半は、スペインの国教であるカトリック教ですが、特に宗教色なしという学校もふえました。しかし正規の授業には、宗教の時間があり、教科書もあります。

過去の栄光につつまれた時代、国際的弧立した時代を通り過ぎて、現在のスペインは、国も人も、新しい歩みをはじめ、まだ日が浅いのです。制度もくらしも大きくかわろうとしています。

しかし、昔から陽気な、そして暖かな心の人が多いといわれたスペインですから、それらを持ち続けて、変容していくことでしょう。



子供のためのアウトバーン物語

ドイツ連邦・デュセルドルフ日本人学校
岡山・岡北中学校 三宅 正勝

一、ヒットラーの遺産

西ドイツが、世界に誇るものは数多くありますが、アウトバーン (Autobahn) Ⅱ自動車専用道路もその一つです。私は、西ドイツ滞在中に休暇を利用して、ヨーロッパ二十数か国を、車でよく旅行しました。三年間で、十万余キロ以上も各国を走行しましたが、西ドイツ国内ほど快適にドライブできた国は、ほかにありませんでした。スピード制限のないのは西ドイツだけです。通行料はすべて無料というのも大きな魅力です。「西ドイツで高速道路の通行料を徴収したら革命が起こる。」とさえ言われているほどです。それらに加えて、交通標識の完備したインター・チェンジ、優秀な舗装技術による素敵な乗り心地、森の中まで引き込まれた休憩所など、どれをとってみても、申し分のない高速道路です。

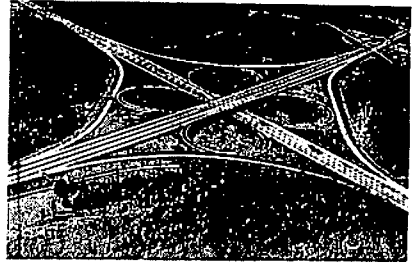
北のデンマーク、南のスイス、西のチェコスロバキア、東のベルギー、オランダなど、どの国境を越えて西ドイツ

に入ってきてても、道路の状況はぐんと良くなります。そして、今までよりよけいにアクセルを踏み込んで、ぶっ飛ばしている車が増えてきます。平均一三〇キロから一五〇キロで走行している車が多いのですが、一四〇キロ位のスピードですと、自分が追い抜く車の数より、抜かれるほうが多いようでした。

ドイツで、「ハンブルクからフランクフルトまで車で行く」と、何時間ぐらいかかりますか」と尋ねると、「あなたの車は何ですか。フォルクスワーゲンなら六時間、ポルシェなら四時間ぐらいかな。ま、運転者の年令にもよりますがね」と言われることがある。と聞いたことがあります。私も、こういう質問をして、車種や馬力を尋ねられ、それなら〇〇時間、などと答えられたことがあります。

西ドイツの高速道路は、悪名高い独裁者ヒットラー(一八八九—一九四五)の遺産として知られています。じっさい、ドイツ人は「ヒットラーの残したもので、後世、役立ったものはアウトバーンと、花文字を廃止したことだけだ」と言っていて、悪いことづくめのヒットラーを元談にはめることがあります。花文字というのは、ドイツ独特の飾り文字のことです。

では、しばらく西ドイツのアウトバーンの歴史を、世界の道路開発の事情と関連させながら調べてみましょう。



ハノーバーのクローバ型インター

二、道路の歴史

「道路」の物語は、人類が車輪を発明した時代までさかのぼります。紀元前三千年ごろすでに高度の文明が開けていたバビロニア時代には、舗装道路が完成されていたという記録があります。しかし、本格的な道路建設は、ローマ時代になって盛んになりました。紀元三〇〇年ごろ、道路建設は最盛期を迎え、その延長キロは約十五万キロメートルにも達していたといえます。そしてそれらのうち八万六千キロは、当時、長距離ハイウェイと呼ばれていました。これらの道路は、今日の道路とは比べるべくもありませんが、ローマ文化を各地に伝える大きな役目を果たしています。「すべての道はローマに通じる」という有名なことばもできました。その後十七世紀に至るまで、道路建設には、みるべきものがありませんでした。

一七二五年、鉄製のローラーが発明され、さらに一八三〇年にスチーム・ローラーが開発されると、イギリスやフ

ランスで道路建設はにわかに活況を呈してきました。そして、一八八五年のダンロップによる空気タイヤの発明と、一八八七年のダイムラーによるガソリン自動車の発明とは、これまでの道路に対する考え方をすっかり変えてしまったのです。産業革命とともに、道路は大量輸送機関として脚光を浴び、より堅ろうで、よりスピードの出せる道路の設計が要求されるようになりました。

しかし、一方では一つの大きな問題が起こりつつあったのです。それは騒音とほこりの問題でした。このことは、駅馬車時代でも問題にされていたのですが、自動車による騒音と砂ぼこりとは、馬車とは格段の差がありました。晴天が続けば砂ぼこりを巻き上げ、雨天だと泥水をはね散らす自動車に、沿道の住民はとてものがまができませんでした。今ならさしずめ「自動車公害」として大騒ぎされることでしょう。

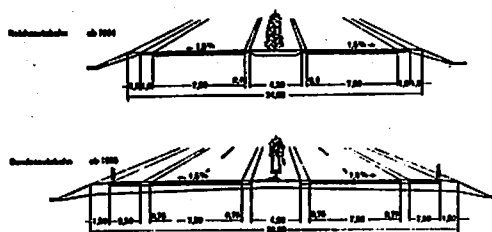
ところが、一人のスイス人がこの難題をみごとに解決したのです。その人はググリール・ミネッティというお医者さんでした。彼は、タールを発明し、ほこりのない道路Dust free road を建設したのです。さらに、アメリカでは一八七六年にアスファルトが実用化されました。

こうして欧米諸国では、自動車産業の伸展と同時に、自動車道路がぐんぐん延びていったのです。エンジンの方もつ

ぎつぎに改良され、騒音も押さえられてきました。欧米に比べると、日本での自動車道路の開発は約五〇年おくれでスタートしています。

さて、西ドイツのアウトバーンは、こうした道路建設の動きのなかで、どのような歩みをしていたのでしょうか。

一九〇九年、自動車道路専用のテスト会社が設立され、一九一三年には、ベルリンに延長十キロメートルの「テスト道路」が建設されました。この道路は、中央にグリーンベルトが設けられた、四車線の「高速自動車道」でした。も



アウトバーンの幅員

ちろん、世界では初めての試みです。この道路上での走行テストは成功し、本格的な高速道路の建設が計画されました。しかし、第一次世界大戦のため、このプランは中止になりました。

その後一九三三年、ヒットラーが首相に就任するや、アウトバーンの建設は急ピッチで進められました。ヒットラーは「ドイツ国内の主要都市間を三時間以内で

走れるような、自動車専用道路を作れ」と命令したのです。この工事は延長三、八六〇キロメートルに達したところでストップしなければなりませんでした。原因は、一九四二年にぱっ発した、第二次世界大戦のためでした。

この大戦に敗れたドイツは、復興に全力を注ぎましたが、一〇年間ほどは、混乱のうちに経過することになりました。そして一九五七年、道路建設第一次四か年計画が立てられ、以後四年ごとに、第二次、第三次と道路計画が発表され、整備されていきました。年次がすすむにつれて、自動車の数が増え、事故も多くなってきましたので、より安全なアウトバーン建設に力が入られるようになりました。

寒冷地の多い西ドイツでは、霜よけや、路面凍結によるスリップ防止の舗装技術がすすんでいます。また、長距離トラックの激増と、それに伴う超重量トン級の大型トラックの走行に、十分耐えうる自動車道が建設されています。さらに、立体交差や、道路橋の建設なども、短期間、低コストで成し遂げる西ドイツの技術は高く評価されており、現在でも各国の注目の的になっています。こうして、当初ヒットラーがもくろんでいた、アウトバーン計画は、一万七千キロメートルには達しなかったものの、今日に至るまで、アウトバーンの網は、その目を増やし続けているのです。

三、事故と罰

西ドイツでは、子どもの飛び出し事故や、登校時の児童の列に車が突っこむなどという事故は少ないかわりに、「霜のアウトバーンで玉突き衝突十台！」とか、「凍結道路でスリップ、乗用車五台炎上！」など大型の事故が目につきます。アウトバーンの緊急電話は二キロおきに敷設されており、交通警察所に直結しています。アウトバーンでの事故処理は極めて早く、通報があると、直ちに救急車、パトロールカー、レッカー車が出動し、大事故の場合にはヘリコプターを飛ばします。ヘリコプターは空から、ラウンドスピーカーでドライバーに事故情報を流し、レッカー車は手際よく事故車を取り除きます。また事故で、車の渋滞が始まると、ヘリコプターが自動車の流れをコントロールし、最寄りのインターチェンジから迂回する処置がとられたり、その区間をいち早く閉鎖したりします。西ドイツのドライバーには、交通事故発生時、負傷者に応急措置をほどこすことが義務づけられています。ですから、すべての車は、救急用品を備えています。自動車免許証の取得試験にも、救急法がよく出題されており、道路地図にも応急手当の仕方が図入りで出ています。また、自動車学校での授業も、機械の構造学習よりも、安全走行や救急対策により多くの時間

がさかれています。アウトバーンでは、常時、一〇〇キロメートルを越すスピードで走っていますので、タイヤの摩耗が意外に早く、うっかりしていますと警察に警告書を発行されます。

四、厳しい交通刑罰

つぎに、交通刑罰について述べることにしましょう。アウトバーンでの適正スピードは一三〇キロぐらいと警告されていますが、速度制限はないので、車の性能とドライバーの腕しだいでいくらでもぶっ飛ばすことができます。スピード制限がないといっても、山道や、凍結道路、雪のおり、



130 kmが適正スピードですよという標識

工事区間などでは八〇キロから一〇〇キロに押さえられています。これらの区間には、レーザー光線とコンピュータ、カメラ等がセットされているところがあり、違反車は自動的にチェックされます。そして何週間か後に、違反事実と罰金支払い

命令書が送られてきます。夏休みなど、三・四週間にもわたる自動車旅行に出る人が多く、走行キロも三千キロ、五千キロにも達します。そこで旅行から帰って、やれやれと玄関を開けたとたん、違反チケットを発見してガックリくる人もいます。一方、罰金のことを、ドイツ語では「ブーゲルト」と言いますが、これは「後悔し、ざんげするお金」という意味ですから、おもしろいです。

一九七三年の「石油ショック」の時には、アウトバーンの最高速度を一〇〇キロに押さえ、日曜ドライブも禁止されました。これに違反したドライバーには、当時の金額で、最高五万マルク（約五百万円）の罰金を科するという、厳しい臨時措置がとられ世界的な話題になったものです。

また、飲酒運転に対する規制は、甘く、アルコールの血中濃度が「〇・八」までは許容されます。ビールかワインなしでは夜も日も明けぬドイツ人にとっては、温情ある措置といえます。血中濃度〇・八というのは、ビール一本またはワイン二〇〇cc程度とされていますので、ガストハウス（飲み屋）などでは「ヌルコンマ、アハト（〇・八）だ、〇・八だ」と言い合って飲んでいる人がいます。テレビ放送でも「〇・八にご注意」という警告スポットがよく放送されています。血中濃度がこの数値を越えようと、飲酒運転とみなされ、直ちに検挙され、アルコールの濃度によっ

て罰金の軽重が決められます。この罰金は何十万円という高額なもので、百万円以上請求された人がいると報道されたこともあります。現在では飲酒運転はご法度です。

五、いづこも同じ駐車難

駐車難は世界的な現象で、西ドイツでも、市街地における駐車はなかなか困難です。しかし、歩道を思いきり広くとっていますので多くの場合、車を片側だけ歩道に乗り上げて駐車させてもよいことになっています。市の中心部では、その方法も禁止されていますが、駐車違反の罰金は比較的安いので罰金覚悟の不法駐車をする人が多いようです。法をよく守る国民ですが、駐車に関する限り、違反の目立つ西ドイツです。悪質な違反車は、パトロール警官の無線連絡で駆けつけたレッカー車に運び去られてしまいます。特に夜間の不法駐車に厳しく、早朝からレッカー車に引かれていく車をよく見かけます。運び去られるはしませんが、レッカー車の運転手に「出動費」五、〇〇〇円ほどを、その場で徴収されることもあります。その領収書にはレッカー車に吊り下げられた車の図が出ており、苦笑させられています。

デパートや大きなスーパーマーケットは、たいてい売り場面積より広い駐車場を備えており、買物客へのサービス

は、こういった点で立派に果たしています。大きなビルも、地下に何階も続いた大駐車場を設けており、新築のアパートも、ガレージやパーキングに専用のスペースを十分用意しています。

またオペラハウスや劇場に、自家用車を使って行く人たちは、入場券を提示するだけで指定された駐車場に車を置くことができ、料金は割引かれたり、無料のところもあります。これは市当局がそれらの駐車場と契約をかわしているからです。

六、ハンザ自由都市

ハンブルクは北ドイツの大都市で、陸・海・空の交通主要地です。八世紀には大教会が建立され、デンマークやスエーデンなど、北国へキリスト教を伝導するための根拠地にされました。また、エルベ河が北海に注ぐところに位置していますので、ハンブルクは古くから港湾都市、商業都市として開け、一三世紀には、自治権を持つ自由都市が成立しました。その後、商業活動がますます盛んになり、ハンザ同盟に加入したハンブルクは、都市国家として独自の歴史を歩み、今日に至っているのです。ハンブルク市内を走っている自動車のナンバープレートの頭は「HH」となっています。これはハンザ自由都市ハンブルクの頭文字を

とったものです。西ドイツの都市におけるナンバープレートは、その都市の頭文字をとっていますので、ベルリンはB、ミュンヘンならMです。ところがハンザ都市ハンブルクと、ブレーメンだけは特別で、ブレーメンもハンザ都市のHマークを付け、「HB」となっています。また、「ルフトハンザドイツ航空」にみられるように、一団を代表する航空会社が、ハンザ同盟の「HANSA」を取り入れて、世界の空を飛んでいるのです。ここでいう「ルフト」というのは、「大空の」というほどの意味です。

ハンブルクは、第二次世界大戦で大打撃をこうむりましたが、現在ではすっかり復興し商業都市として繁栄を誇っています。日本の商社や企業も数多くの店をこの市に進出させており「日本人学校」もあります。商業活動で知られているばかりでなく、ハンブルクは古くから芸術・文化の面でも有名です。ブラームスやメンデルスゾーンはこの市の生まれですし、「ハンブルクオペラ」は一七世紀から花開き、世界的に有名なオーケストラもあります。従来、オペラハウスは、客席を伝統的に、馬蹄型・U字型に設計していましたが、ハンブルクでは第二次世界大戦後、新しいオペラハウスの建設に際して、古いU字タイプを避け、近代的なアイデアを取り入れました。そしてこの歌劇場は、以後ドイツ国内のオペラハウスのモデルにされたばかりで

なく、世界各国の劇場関係者に注目されるところとなりました。

古い建築物にも優れたものが多く、美しいアルスター湖からは、いずれも高さ百メートルを越す教会や市庁舎の尖塔を、五本も六本も眺めることができます。ルネッサンス建築の市庁舎は、荘麗としか表現のしようがないほどの偉容を誇っています。ゴチック風で、一四七メートルの尖塔だけが残っている聖ニコライ教会、バロック建築の粋を称賛されている聖ミカエル教会なども、ハンブルクを代表する歴史的な建造物です。

ハンザ都市ハンブルク繁栄の大きな狙い手であった港に出てみましょう。

タンカー・曳き船・漁船・ヨット、それに豪華客船や巡視艇。あらゆるタイプの船が浮かんでいます。林立するクレーン、吊り上げられるコンテナ。走り回る大小のトラック。ゆっくりと引き込み線にすべりこんで来る貨車の列。ロッテルダムと並んで、ヨーロッパ大陸の重要な港を持つハンブルクは、今日も確かに生き生きと活動しています。

日本からの船便も、ヨーロッパ大陸向けの貨物はほとんどこの港で陸揚げされ、各国へ配られていくのです。ヨー

ロッパ大陸の貨物輸送は、陸路ばかりでなく、エルベ河を利用した水路も昔から発達していました。ハンブルク港を流れるエルベ河は、ライン・ドナウとともに西ドイツの三大河川の一つです。そのエルベ河の底を掘って作った高速道路が最近完成しました。従来、デンマーク方面からの自動車は、ハンブルク市内を通過しなければならず、市内の道路は年中渋滞していましたが、このトンネルはその混雑を一挙に解決することになりました。この海底トンネル（正確には河底トンネル）を抜けて、次のハンザ都市、ブレーメンへ向うことにしましょう。

七、国際道路

ハンブルク、ブレーメン間のアウトバーンには「E3」という道路標識が立てられています。それは、「ヨーロッパ道路三号線」を意味しているのです。国境を越えて走るヨーロッパの道路には、すべて、EUTOPICのEを頭に付した道路番号がつけられています。これらの道路は、いわば「国際道路」ともいふべき存在で、ヨーロッパ大陸とは離れた位置にある島国、イギリスや、海を越えて行く、ノルウェーやフィンランドまで通じているのです。

たとえば、ヨーロッパの大幹線道路の一つ「E3」のルートを紹介しましょう。

「E3」は、ポルトガルのリスボンから、スペイン北部、アルタミラの洞窟付近を走り、フランスに入ってから、ポルドー、パリを通過し、さらにベルギー、オランダを抜けて西ドイツ国内に入ります。西ドイツはルール工業地帯を北上し、ブレーメン、ハンブルクを経由後、デンマークのユトレヒト半島北端の港町フレデリックスヘブンに至ります。

ここからスウェーデンまで海路をたどり、ゲテボルクからスウェーデン国内を横断して首都ストックホルムまで上がります。ストックホルムからは再び、海上を大型フェリーボートで、フィンランドのトゥルク港へ。この長距離カー・フェリーの船体には、E3の文字が緑に白抜きで文字で大きく描かれています。この船は三五〇台の乗用車を収容できるデッキを持ち、船内には各国の通貨を交換できる銀行や、無税の売店があります。カー・フェリーに乗船している間に、時差の調整のため、時計を一時前進めなくてはなりません。

「E3」の総延長キロは、三千キロメートルを上回っているのですから、北海道の北端から沖縄までより、もっと長いこととなります。通過した国境の数も八つを数えました。

ついでに、ヨーロッパ国際道路のうち、最大最長の規模

を誇る「E5」の場合をお話ししましょう。E5はイギリスを出発してドーバー海峡を渡りベルギーに上陸した後、西ドイツ・オーストリア・ハンガリー・ユーゴスラビア・ブルガリア・ギリシャを通過してトルコのイスタンブールに至っているのですから、全く驚いてしまいます。

八、ブレーメンの音楽隊

ヨーロッパ国際道路のお話をしているうちに、車はブレーメンに到着します。グリムの童話「ブレーメンの辻音楽隊」に登場する動物達、ニワトリ・ネコ・イヌ・ロバが重なった像のある市庁舎前の広場に出てみましょう。この記念像は子ども達の人気の的。像をバックに記念撮影をする人がひっきりなしです。この市の庁舎もハンブルク同様堂々たる建築物で、ハンザ都市の威厳を保ち続けています。市庁



ブレーメンの音楽隊の碑の前で

舎の地下
室にある
レストラ
ン「ラー
ツケラー」
は、百万
本ものワ
インを貯

蔵していることで世界に知れ渡っております。なかには一本二万、三万円という銘柄のワインもあり、お金持のアメリカ人観光客などで、いつもにぎわっています。

「ラーツケラー」を出るとすぐ横に、大きな剣とわしのマークがついた盾を持った「ローランの像」が立っているのが目に入ります。

高さ十メートルほどのこの巨像は、紀元一四〇〇年ごろ中世の都市が自治権を獲得したこと、つまりハンザ自由都市として出発したことを記念して建てられたものです。ローランは市民の誇り、平和の守護神といわれており、この像の立てられている場所が、ブレーメン市の中心地になっています。

ところで、ドイツ料理には、私たちの口に合うものはあまりありませんが、ここブレーメンには、おいしい海産物が豊富にあります。かに、にしん、たら、それに新鮮なひらめのバター焼きなどは、なかなかの味覚です。それらの海の幸でおなかをふくらせたら、早速、ベッドにはいることにしましょう。ドライブに寝不足は禁物です。

九、高速ドライブを楽しむ

翌日は再び「E3」に乗って南下します。こんどは、ア

ウトバーン「E71」「E74」でハノーヴァーを経由し、グリュム兄弟が活躍したカッセルまで走ることになります。今日は、日曜日なのでアウトバーン上に、トラックの姿は見られませんが、日曜日には、たくさんマイカーが走るのです。トラックの日曜走行は制限されているのです。こういう措置からも、西ドイツの合理的なものの考え方をうかがうことができます。

高速で走る車の邪魔になる大型トラックがないので、どの車も相当スピードを上げているようです。私も時速百五十キロは出しているのですが、それをスリッと追い抜いて行く車があります。メルセデス・ベンツのMUSTIC・ポルシェカレルラ・BMWのCS……いずれも世界に誇り高きドイツの車です。イタリアの各車アルファロメオ、それにランボルギーニ・エスパイダなど、一度はこのアウトバーンで運転してみたい車の姿も見られます。Sマークのスクエーデン製ボルボ、Fマークのフランス製シトロエン、USAナンバーのキャデラックも思いきり飛ばしています。(ヨーロッパの自動車は、後部にその国の頭文字を表わすマークを貼ることが義務づけられていますので、NならノルウェーBならベルギーなどと国籍が一目でわかります)

十、ヘンデルのお話

やがてハノーヴァー市が見えてきます。ハノーヴァーはイギリス王朝と深い関係にあり、現在のイギリス王室ウィンザー家も、ハノーヴァー朝に端を発しているのです。

一七一四年、イギリス女王アンが死去した後、イギリス王に即位したジョージ一世は、ハノーヴァー侯でした。イギリス王はもちろんロンドンに居住していましたが、ハノーヴァーをも治めており、この状態は一八七三年まで続きました。みなさんは、ドイツで生まれ、イギリスで活躍した大音楽家ヘンデルをよく知っているでしょう。ヘンデルは、一七一〇年からハノーヴァーの宮廷に入って音楽活動をしていましたが、ある日、生まれ故郷ハレの母親に会いに行き、二度と帰って来ませんでした。ヘンデルはイギリスに渡っていたのです。そしてロンドンで彼は大成功を収めていました。ところが前に述べたように、四年ほど経って、元の君主ハノーヴァー侯がイギリスの王様となって現われてきたのです。

ヘンデルはびっくりしたことでしょう。そこで彼は、イギリス王ジョージ一世、実はハノーヴァー侯がテムズ河で催した音楽会で、自作「水上の音楽」を演奏して王のごきげんをうかがったということです。

さて、ハノーヴァーからベルリンへ通じるアウトバーン

「四〇〇」をしばらく走ると、これこそ「ドイツ代表」ともいふべき「フォルクスワーゲンの町」ブラウンシュヴァイクが見えてきます。しかし、「かぶと虫」の名で三〇年も親しまれ、その間モデルチェンジもしなかったフォルクスワーゲン（直訳すると国民車という意味）も、一九七三年から始まった世界的な不況にはいかんともし難く、この工場でもついに「かぶと虫」の生産を中止する破目に落ち入りました。「かぶと虫」の代わりに、フォルクスワーゲン社は、小型自動車「ゴルフ」「シロッコ」「パサート」などを矢継ぎ早に発表し、大衆車市場獲得に懸命です。この背景には、日本の自動車メーカーの世界進出があるといわれています。



少年吹笛のハメルン

が、その日本では「かぶと虫」への人気が妙に高まってきています。これはなかなか皮肉な現象です。

十一、ハメルンの笛

吹き少年

この町には「テイルオイレンシュピーゲル」という伝説上の人物が生ま

れたことになっていきます。彼は幼い時からいたずらが大好きで、成長して職人になってからも、諸国を遍歴し、いたずらの限りをつくしたと語られています。「ティル」のいたずら話は、農民や職人が権力に対抗した話とも受け取ることででき、多くの文学者がこの話を題材にして、物語や長編の詩を残しています。みなさんも「ティルオイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」という曲を聴いたことはありませんか。これは、ドイツの作曲家リヒアルト・シュトラウスが作曲した交響詩の題名なのです。

「ティル」の話を思い出せない人でも、次の話は聞いたことがありますか。

十三世紀の終わりが、ハメルンの町の人たちはねずみの大群に苦しめられていました。食料を食い荒らし、衣類に巣を作り、赤ん坊を食い殺すねずみまで現れました。犬や猫もこのねずみにはとてもかたがたしません。そこへ赤・青・黄色などまだら模様の着物を着たふしぎな若者が現われ、お礼をくれるならねずみを退治しましょう」と申し出ました。町の人たちに異存はありません。

若者が笛を吹いて歩き始めると、町じゅうのねずみが出て来ました。若者はねずみの群をヴェーゼル川に誘いこみ、

一匹残らず退治してしまいます。ところが町の人たちはお礼をしようとしません。ばかりか、若者をいじめる人さえいます。そこでしかたなく若者はどこかへ帰ってしまいます。

町の人たちが教会に行っている、ある静かな日曜日の朝、ハメルンの町にあの若者の笛の音が流れてきます。するとその音に魅せられたかのように、町のすべての子どもたちが家の外に誘い出され、いずこともなく消えて行ってしまい、二度と帰ってはきませんでした……。

これが「ハメルンのふしぎな笛吹き」の物語です。この物語は町の人たちの手によって、現在でも上演されています。そして夏のシーズン中、毎週日曜日、市庁舎前の広場で上演されるこの劇を見るため、世界各地から大勢の観光客が集ってきています。

劇が始まるのは正午ですが、この時間が近づくと、町じゅうの人が、そろそろ市庁舎広場へ向かって行く光景は、あたかも笛の音に呼び寄せられて行くようで、愉快です。

十二、グリム兄弟の話

「鏡よ鏡、魔法の鏡よ、この国で一番美しいのはいったい誰だか教えておくれ」

「あら、おばあちゃん、なんて大きなお耳をしているの」
「お前の言うことが、よおく聞こえるようにね……」

「バカな娘だね」とおばあさんは言いました。「かまの入口は十分に開いているじゃないか、ほら、よく見てみなよ、わたしだって入れるよ」おばあさんはそう言うのと、かまどに首を突っ込んだのでした。

さあ、だれの、なんという物語でしょうか。もちろんみなさんには全部解りますね。そう、三つともグリム兄弟の童話です。初めが「白雪姫」次が「赤ずきんちゃん」そして最後の物語が、オペラ



グリム兄弟と辞典

でも有名な「ヘンゼルとグレーテル」です。グリム兄弟は、このほかにも「いばら姫」や「シンデレラ」「狼と七匹の子やぎ」など数多くの童話を書いています。そして、これらの楽しい童話は、ドイツ国内はもちろん、世界じゅうで、聖書に次

いでよく読まれている、と言われています。

グリム兄弟が生まれたのは、フランクフルトの北方にあるハーナウで、この町の中央広場には、本を開いた弟ヴェルヘルムと、彼を優しく見守る兄ヤーコブの、大きな銅像が立っています。しかし、この町にはグリム兄弟の功績をたたえるような記念館などはなく、グリム兄弟が長く暮らすことになったカッセル市に、記念博物館があります。この博物館には、グリム兄弟に関するあらゆる資料が所狭しと陳列されています。この博物館は、デンマークのオーデッセにあるアンデルセン博物館より、やや規模の小さいものです。アンデルセン博物館同様、世界各国で出版された童話集が集められています。それらの作品が収められた書棚の中にはたくさんの横文字の本に混じって、日本の「グリム童話集」がひときわ目立っていました。

「子どもと家庭の童話」と題された、いわゆる「グリム童話集」は、一八二二年に初版を発行しましたが、これらの話は、アンデルセンの場合と違い、グリム兄弟の創作によるものではなくて、ドイツ各地の民話や伝説などを収集し、後に文学的な味を加えつつ書き直したものです。生まれ年が一年違いの兄弟は、生涯行動を共にし、美しい兄弟愛に結ばれた人として有名ですが、この民話の収集も兄弟が協力して行いました。ですから、それらの話が出版され

た時にも、「ヤーコフ・グリム・ヴィルヘルム・グリム共作」とは書かれておらず、グリム兄弟の収集による「子どもと家庭の童話」と著されているのです。

グリム兄弟はこうして「子どもと家庭の童話」初版発行後も民話の収集を続け、改訂を重ね、一八五七年、最終版を発行するまで、二〇七編もの童話を書き残しています。また、童話ばかりでなく、グリム兄弟はドイツ語のあらゆる単語の意味や、その語源を明らかにした「ドイツ語辞典」の編集にとりかかりました。一八三八年のことです。この辞典は、第一回の配本が開始されたのが一八五二年ですから、編集から第一回の発行までに一四年間も費やされています。ことがわかります。

ところが、精魂を傾けたこの大事業の完成をみることなく、グリム兄弟は二人ともなくなってしまったのです。生来病弱だった弟ヴィルヘルムが一八五九年に、兄ヤーコフは一八六三年に。

その後、「ドイツ語辞典」の編集はドイツの学者たちにより、約百年間にわたって続けられ、全一六巻の完成をみたのは一九六一年のことでした。グリム兄弟はこうして童話や学問の分野で活躍しましたが、政治活動にも活発だった時期があり、兄弟の共通した人類愛をうかがうことができます。

十三、ヒッチハイカーたち

カッセルでグリム博物館を見学した後は、ボンへ向かいましょう。途中ドルトムントやケルンを通過しますが、ケルンは 1936、1955、1971 などが交わっており道路交通主要衝の地です。ケルン市郊外にはいくつもの大インターチェンジが建設され、高架道路、地下トンネルなども発達しており、各方面から来る車を見事にさばっています。

夏の旅行シーズンには、それらのインターチェンジで、大勢のヒッチハイカー（＝通りがかりの自動車に乗せてもらい無銭旅行をする人）が疾走する車に向かって、親指を突き出している姿が見られます。待ちくたびれて寝ころんでいる青年。木陰でギターを爪弾いている女学生、パリ、アムステルダム、フランクフルトなど、自分の行先きを書いたボール紙を見せてドライバリーの注意を引いている者、それらの紙札をぶら下げて、道路の端をスタスタ歩いて行く男――。

こういうヒッチハイカーは、ヨーロッパならではの光景ですが、国境の検問所や、アウトバインの休憩所、ガソリンステーションなどで たむろしている 人たちをよく見かけます。ヨーロッパ諸国では、ヒッチハイクはとても盛んで、長距離トラックや、運転手一人だけの自家用車が、

彼らをよく拾ってやっています。私の教え子で、当時大学生だったKくんが西ドイツの私を訪ねて来たことがありますが。Kくんは、ヒッチハイクでヨーロッパ旅行をしようとして計画していたわけではありませんが、経験のためと経費節約のため、ときどき高速道路のインターチェンジに立ったことがあるそうです。その際、リュックサックに日の丸の旗を張りつけて歩いたり、日の丸の小旗を振ってストップをうながしたりすると効果だと話していました。

テルアビブ空港の乱射事件や、ヨーロッパ各地での日本赤軍の起こす事件があつてからは、国境におけるヒッチハイカーの取り調べが一段と厳しくなっています。Kくんも、オランダと西ドイツの大幹線間の国境で、日本人だとわかると、別室に連れこまれ、ブラックリスト（要注意人物の一覧表）と照合されたと語っていました。そのファイルには危険人物の顔写真がずらりと貼られていたということです。西ドイツという国は、要注意人物や危険人物の入国に対する警戒が非常に厳しく、西ドイツ国内においても、違法行為のあった外国人は、びしびし処罰したり、国外退去を命ずるなど、国の治安と国民の安全のためには、容赦のない措置をとることがしばしばです。

アメリカでは、ヒッチハイカーがドライバートを殺傷したり、その反対の事件もよく起こって、ヒッチハイクを禁止

にしている州が多いのですが、ヨーロッパでは強い規制はしていません。フランス、イタリー、スペインの田舎道を走っていると、荷物も何も持っていない人が、ヒッチのサインを出して止めている光景を見かけます。私も道を尋ねた人に、乗りこまれてこられ、近くの町や村まで乗せたことがたびたびありました。また、止めた車が、日本人の運転するものなので、めんくらっている人もおり愉快でした。とにかくヒッチハイカーの多いヨーロッパ、そして、チヨイ乗りヒッチ、もなかなかポピュラーなヨーロッパの国々でした。

十四、ベートーヴェンの話

「道」のお話をしながら、文字どおり話が横道にそれてしまいました。さあ、いよいよベートーヴェンの町のボンです。 BON は、西ドイツの首都としてより、ベートーヴェンの生まれた町として世界に名が通っており、今日でもこの楽聖の生家と博物館とを訪れる人は、絶えることがありません。

BON の旧市街を歩いていますと、私のような日本人でさえ「ベートーヴェンハウスをご存知ありませんか、」と聞かれることがあるくらいです。ドイツ人はベートーヴェンを「ビートフォーフェン」のように発音しますので、私は最

初、生家を訪ねたおり通じなくて困りました。ドイツ人がベートーヴェンを知らぬはずはないと、いたずらに声を高めてその名を叫んでみましたがダメ。仕方がないので、つづつみせますと、あっそう、ベートフォーヘン」とやられ、道のまん中で何回もベートフォーヴェンを教えこまれ、発音させられたのには閉口しました。こんなところにもドイツ人の律義さがよくでています。

ベートーヴェンの生家は、ボンガッセ二〇番地にありますが、誕生の日は未だにはっきりせず、一七七〇年一二月の一六日とも一七日ともいわれています。生まれた部屋は小さく、天井も屋根の傾斜をそのまま取り入れた、斜め天井です。ベートーヴェンは、父が宮廷歌手をしており、家でもピアノやバイオリンのレッスンをしていましたので、幼い時から音楽の鳴り響く環境で育っていました。しかし、家は貧しく、父は酒飲みでしたので、ベートーヴェンはつらい子供時代を過ごしました。息子の楽才を発見した父は、ベートーヴェンにピアノの猛練習をさせる一方、バイオリンを与えてしごき始めますが、この時ベートーヴェンは四才でした。

そして一七七八年三月二六日、ベートーヴェンはケルンで初めての演奏会を催しました。三月二六日、これは、偶

然にも彼がウィーンで亡くなった月日と一致しています。一七八二年、まだ十一才で彼は貧しい家計を支えるために、オルガニストとして働き始めますが、このころから徐々に作品を発表しています。当時、ヨーロッパの音楽の中心はウィーンでしたから、ベートーヴェンは、一七九二年故郷を離れてウィーンに向かいました。ウィーンでは、ピアノニスト、作曲家として成功を収めました。聴覚がしだいに弱くなり、大変苦しい時を過ごさなければなりません。耳の不自由なベートーヴェンが使用した、さまざまな形の補聴器は、現在ボンの博物館に保存展示されています。それらの展示品は、天才の痛ましい姿をしのばせ、見る人の心を強く打ちます。

病氣と、生活の不安に苦しみ果て、恋にも破れたベートーヴェンは、三十二才の一八〇二年、ウィーン郊外のハイリゲンシュタットで静養していましたが、一〇月一〇日、死を決心して「遺書」をしたためます。けれども、肉体は弱くとも、勇気ある精神で勝とう」をモットーにしていたベートーヴェンは、その不屈の精神と正義感とに支えられ、不滅の名曲を作曲したのです。

ナポレオンに捧げようとした「第三交響曲、英雄」、この曲は、英雄と讃えられる人間の喜び、悲しみ、そして勝利を描いて、ベートーヴェンの理想的な人間像を表現してい

ます。また、激しい力で、あらゆる苦しみと闘い、生きぬく力を表現した「交響曲第五番、運命」、ピアノソナタ「熱情」、ボン時代からこよなく愛した自然、その自然への感謝の念をこめて作曲された「田園交響曲」。ベートーヴェンは「田園にいれば、私の不幸な耳も私をいじめることはない」と書き残しています。

四〇才を過ぎてからは、さらに強い信念と愛情とに燃え、慈善音楽会や傷病兵の慰問演奏会をたびたび開きました。悲しみ、苦しみ、孤独に悩まされ続けたベートーヴェンは、常に幸福と歓喜、愛情と信頼を求め、音楽を通してそれらの人々に分かち与えようと努力したのです。全人類の喜びの音楽、「第九交響曲」を聴けば、このことはよく分かります。自分の利益のみを追い、自分だけの幸福に没り、自分一人の名誉を考える、ベートーヴェンは、こういう人間を強く否定しています。

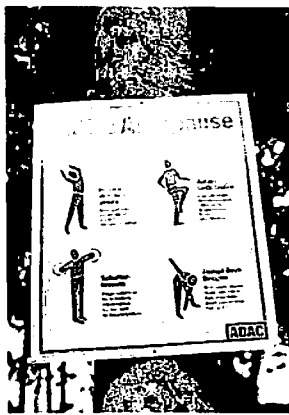
一八二七年三月二六日、ベートーヴェンはウィーンでこの世を去りましたが、この衆聖を惜しんで弾儀に参列した人は、二万人を越えたということです。ベートーヴェンは、現在、ウィーンの中央墓地に、ベートーヴェンと並んで葬られることを強く望んでいた、シュェーベルトと共に眠っています。

また、ボン市内にある古い墓地には、ベートーヴェンの

お母さんのお墓がありますが、同じ敷地内に、シューマンとその妻クララの墓碑が、美しい植え込みに囲まれるようにして建てられています。ボンには、ベートーヴェンを記念してライン河畔に建てられた、近代的なベートーヴェンホールがあり、毎年秋、ベートーヴェン音楽祭が催されています。私たちも、今夜はこのコンサートホールでベートーヴェンを聴き、この町に一泊することにしましょう。

十五、ゲートの話

ベートーヴェンに別れを告げ、次の訪問地フランクフルトに向けて出発しましょう。アウトバーン四〇〇のケルン——フランクフルトは、西ドイツでも最も交通量の多い道路のひとつです。ですから、大部分の区間は、上り下り六車線の、広い、速い道。私たちの車のスピードメーターは百七十キロを



とい体操を体み休を転
う標識

指してい
ます。そ
れでも、
警告燈を
ピカピカ
ッと点滅
させて追

い抜いて行く車があります。メルセデスベンツ四五〇SLC。この車ですと、ボン、フランクフルト間百七十キロメートルを、一時間ほどで走ることができます。

ボンが楽聖の町なら、フランクフルトは、世界一の文豪ゲーテ（一七四九—一八三五）を生んだ町です。フランクフルトは今日、西ドイツで最も近代的な市として発表しており、商業、金融の中心地として、世界の経済を左右するほどの力を持っています。ですから、日本航空をはじめ、世界の航空会社のうちフランクフルトへ旅客機を飛ばしていない会社はないほどです。ところで、フランクフルトという地名は、東ドイツ領にもありますが、そこで、西ドイツ側では、フランクフルト・アム・マイン（マイン川ほとりのフランクフルト）、東では、フランクフルト・アム・オーデル（オデル川ほとりのフランクフルト）と呼んでいます。フランクフルトの市立美術館に入って、展示ホール正面階段を上って行きますと、一枚の大きな絵が目に入ります。これは、カンパーニヤのゲーテ、と題された、ティッシェバインの絵で、イタリア旅行のおり、カンパーニヤで憩うゲーテを描いた、巧みな構図の人物画です。この大作が、最も目に入りやすい、特別な場所に、一枚だけ掲げられているのを見ても、フランクフルトがどんなにゲーテを誇りにしているかがわかります。

ゲーテの生家は、バッハ・ブラームス・ハイネ・ベートーヴェン・シラーや、その他どんな芸術家の生家にも比べものにならないほど立派なものです。彼の生家は、戦災で破壊されましたが、忠実に修復されており、居間や書斎・台所や当時のままの家具・大時計も保存されており、今や世界の名所として有名です。

ゲーテの自伝小説「詩と真実」を読んだ人は、富裕な家で過ごしたゲーテの幼・少年時代を思い浮かべることができるとでしょう。おじいさんはフランクフルト市長、お父さんはお金持ちの法律家、そして、彼の教育は、すべて父を中心とした家庭で行われたのです。ギリシャ語・ラテン語・英・仏・伊語を初め、文学歴史・地理・政治・法律・数学・博物学など、それは徹しい詰め込み主義の教育方法でした。一七六五年、わずか一六才でライプツヒヒ大学に入学し、法律を専門に学びますが、このころから文学にも才能を発揮し始め、後に発表する詩や小説の素地を養いました。人妻との恋に破れた主人公がピストル自殺をとげる有名な小説、「若きウェルテルの悩み」は一七七四年、ゲーテ二五才の時の作品です。

一七七五年、ゲーテはワイマール共和国の宰相として迎えられる、この国のために政治的手腕をふるいます。ことにワイマール国イルメナウの鉱山開発の事業には最大の努力

を借しまず、これが契機で彼は、鉱物学、地質学にこのほか興味を引かれたらしく、ワイマールにある「ゲート博物館」には、彼が収集した鉱石見本が数千種類も保存されています。このころゲートは一人の夫人を愛していました。その人の名はシュタイン夫人。シュタインというのは、ドイツ語では「石」という意味ですから、鉱石に取りつかれていたゲートにふさわしいではありませんか。

一七八六年から二年間ほど、ゲートはイタリアへ旅行しており、このころのゲートを描いたのが前述したティッシュバインの絵です。イタリア旅行で得たものは多く、「エグモント」「イタリア紀行」など、優れた作品を書いています。その後ゲートは、一〇才年下のシラーと知り合い、一八〇五年シラーの死まで、二人は厚い交友関係を保っていました。マイワールにはシラーの博物館もあり、シラーの傑作「ウィリアム・テル」を上演した国民劇場前には二人の銅像が立ち、またこの市の墓に、ゲートとシラーは並んで葬られています。

シラーの死後も、ゲートは約三〇年間も生きていますが、この間に「ゲートの名を知らないものはヨーロッパにはいない」と言われるほどになりました。「ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代」や、「ファウスト」などは、ゲートが晩年に書いた名作です。これらの作品は、現在はワイマール

の博物館にされているゲートの住まいで書かれましたが、死に際して「もっと光を——」と叫んだという部屋、そしてベッド、遺品などは、当時のままの状態に残されています。

お話の中心が、フランクフルトよりワイマールの方にいったしまいましたが、ゲートの業績を語るにはどうしてもワイマールに重点を置かなければならないのです。

さて、フランクフルトには、ゲートのはかに、皆さんにもおなじみのものがあります。フランクフルター・ソーセージです。ドイツ料理は日本人の口に合わないのので、観光客は閉口しています。けれどもこのソーセージ（ヴルストと言います）だけは天下の珍味。炭焼きのヴルストに、あまりからくないからしをつけていただきますと、こたえられない味がします。ジャガイモとソーセージが大好物というドイツ人ですが、この二つだけは、美食家の日本人もよく試し、満足しています。

ソーセージ立食という軽食を済ませたら、今お話ししたばかりのシラーの生まれ故郷、マールバッハへ向けて走りましょう。古城と伝説的な大学の町、ハイデルベルクを見学し、ペンツの本社工場があるシュトゥットガルトへ向かう途中、対向車線の、緊急電話のある避難場所にボンネ

ットを開いて止まっている車があります。オーバーヒートか、それともガス欠かな、そんなことを考えながら走っていますと、警告燈を回しながら走ってくる黄色の自動車とすれ違いました。

これはADAC⇨西ドイツ自動車クラブのサービスカーです。故障車は、二キロごとに設けられている緊急電話（普通インターホン形式で、料金は無料。自動的にサービスステーションにつながります。）で、状況を通報します。するとADAC（ほかにも二つ、全国的な組織があります。）は直ちにサービスカーで駆けつけ、処置してくれます。

西ドイツのドライブは、ほとんどこれらのクラブに属しており、わずかの会費を納めるだけで、事故など特別な場合を除き、無料サービスを受けることができます。なおこの制度はヨーロッパ各国でも普及しており、相互提携していますので、費用は部品代など実費程度しかかかりません。

ADACは、道路上のサービスに限らず、各国の交通情報やホテルの予約、キャンプ場や観光地の紹介、フェリーボートの予約や外国人のための免許取得の世話など、ドライブのために、いたれりつくせりのサービスをしています。

シュトゥットガルト市に入り、シラー広場に立っている

シラー像の前で記念撮影をしたのち、向かいの州立博物館で珍しい時計のコレクションを見ましよう。また、シュトゥットガルト市にはダイムラー・ベンツ社がありますので、工場や自動車博物館も見学できます。

十六、シラーの話

その後は、いよいよ大詩人シラー（一七五九—一八〇五）の生地、マールバッハです。ペートーヴェンの「第九交響曲」の合唱には、「歓喜の歌」が歌われていますが、これはシラーの詩です。シラーの生家は、ペートーヴェンのそれに似て、すべてが狭く、貧しそうに見えます。しかしそれだけに、私たちは、ゲーテの生家とは異なった、強い感動に包まれます。管理人のおばさんも質素で愛想よく、愛情のこもった説明をしてくれます。

この家には、シラーの遺品をはじめ、交遊のあった詩人や小説家の手紙などが保存されています。しかし数多くの資料を展示するには狭すぎるので、町の丘の上に家社な「国立シラー博物館」が建設され、シラーや、ドイツの文学者たちの手紙や、文学作品の生原稿やコピーが展示されています。

この博物館にも世界各国で翻訳発行されたシラーの作品集や研究書などが保存されていますが、館長さんは、わざ

わざ私たちを別室に招いてくれ、最近日本から贈られてきたというシラーの作品集を見せてくれました。私たちがドイツの芸術家の生家や博物館を訪ねてドライブしているのだと言いますと、ぜひカルウにあるヘルマン・ヘッセ記念館を落とさないようにとすすめてくれます。そして、ヘッセ記念館の館長とは親友なので、紹介状を書いてあげようと、大変親切にもてなしてくれました。

シラーは法律、医学などを学んでいましたが、早くからゲーテやシェイクスピアに刺激され詩や劇を書いていました。なかでも二二才の若さで発表した最初の劇、「群盗」は発表の翌年、マンハイムで上演され、彼の名を一躍有名にしました。しかしこの劇は、自由への強い憧れ、古い社会の因習などに反抗している点で、当時の権力者の気をそねることになり、シラーはしばらく文筆活動にストップをかけられることになりました。

シラーがその後も理想的な自由や、権力への強い反抗をみせたのは、「ウィリアム・テル」や、「ドン・カルロス」などの作品で、みなさんもよく理解できることでしょう。

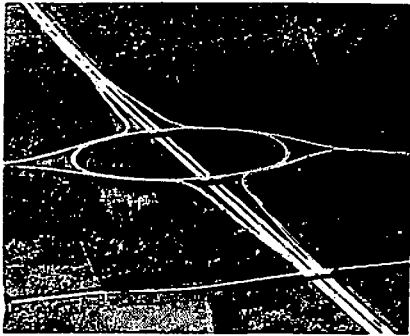
シラーは一七八七年、ゲーテらが住み、当時文壇の中心であったワイマールに出て文学修業を重ねます。一八〇〇年、スコットランドの悲劇の女王を描いた戯曲、「メアリ・スチュアート」を発表し、翌年にはジャンヌ・ダルクに取

材した戯曲、「オルレアンの少女」を書いています。そしてシラーが終生追い求めていたテーマ「自由」を、みごとに実らせた傑作、「ウィリアム・テル」を発表したのは彼の死の直前、一八〇四年のことでした。

これらの戯曲は、今日でも不滅の名作として世界の人々に親しまれているばかりでなく、劇場で常時上演され、オペラで歌われ、ラジオやテレビのプログラムに組み込まれているのです。

博物館に向かって建てられているシラーの像は、美しい、ロマンチックなネッカー川のほとりに点在する静かな町や村のたたずまいを見下ろしています。その姿は絶え間なく訪れるシラーの愛好者を眺めて、物思いにふけっているようでもあります。

シラー像に別れを告げ、私たちはシラー博物館長の紹介状を手にして、一路ヘルマン・ヘッセゆかりの地、カルウへ急ぎます。カルウはシュバルツヴァルト（＝黒い森）地帯の中にある、人口一万三千人ほどの町。シュトゥットガルトから西へ四十キロほど行ったところにあります。アウトバーンから離れても、西ドイツの道路はよく整備されており、最高制限速度は九十キロ。車は少ないし、快適に走れます。どんな片田舎の道路でも立派な案内標識が車を目的地へ誘導してくれます。



珍しい形のインター(オッヘンブルグ)

しかしさすがにシュバルツグアルト地方は曲がりくねった道路が多く、思ったほど走行キロは延びません。途中工事のため回り道をさせられたりしましたので、カルウに到着して、やっとヘッセ記念館を捜し当てた時にはもう閉館した後。しかも明日は閉館日とのこと。そこで町を一巡りした後、ヘッセが学生時代を過ごしたマウルブロンの町へ向かいます。ヘッセは牧師になろうとしてこの町の神学校に進学しましたが、規則ずくめと、古くさい伝統を強制するこの神学校の生活に耐え切れず、半年でここを逃げ出してしまいます。

そのころの体験は、「車輪の下」に描かれています。ヘッセは詩人としても豊かな才能を発揮しており、「ヘッセ詩集」は現在でもよく読まれています。「郷愁」「青春は美し」「デミアン」など次々に名作を発表したヘッセは一九四六年、完全な精神的自由を描いた「ガラス玉演戯」

によって、第二次世界大戦後、初のノーベル文学賞を与えられています。

アウトバーンを利用して、ドイツの音楽家や文学者ゆかりの地を訪ねた私たちの旅もこの辺で終わりです。しかし、ドイツという国は、各分野で実に大勢の世界的な偉人を生んだ国だと改めて感心させられます。このほかにも、バッハ、メンデルスゾーン、トーマス・マン、ハンス・カロツサ、それにマルチン・ルターやマルクスなどの町も訪ねたかったのですが、またの機会にゆずることにいたしました。

文中、アウトバーンの写真およびイラストは、F・シュタトラー社「空中撮影によるドイツのアウトバーン」(一九七一年刊)による。

ドラキュラの正体は？

ルーマニア・ブカレスト日本人学校
津山市立南小学校 友保 正彦

みなさんは、「吸血鬼ドラキュラ」を知っていますね。何で知ったのでしょうか？ そうですね、マンガ、テレビそして映画とあちこちで見かけましたね。

あのおそろしいドラキュラは、イギリス人作家ブラム・ストーカーが「吸血鬼ドラキュラ」という小説に主人公として登場させた怪物がもたっているのです。この小説を読んだことのある人は、思い出してください。ドラキュラのふる里は、どこだったのでしょうか？ 彼の生きていたのはヨーロッパ大陸の奥深い山里、トランシルバニアと呼ばれる地方でしたね。

私は、ドラキュラのふる里の国「ルーマニア」に三年間暮らしました。その間に、彼について多くを聞き、多くを見ました。

ブラム・ストーカーは、ドラキュラを、読む人を「そっ」とさせる怪物に仕立てました。私は、何度かこの地方を旅行して見て、小説の中の風物の描写は大変リアルで正確に

思えました。でも、ストーカーは、一度もルーマニアを訪れたことがないということです。そうするとあの怪物は彼の想像からだけ生まれたものでしょうか？ いや、そうではなかったのです。実は、ドラキュラにはモデルがいたのです。歴史上の人物には、後の時代に時として、意外な驚くべきキャラクターが与えられることがあります。そのような人物の一人に、ルーマニアの「ヴラド・ドラキュラ・ツェペシ王」がいます。彼こそ「吸血鬼ドラキュラ」のモデルなのです。

ヴラド・ドラキュラ・ツェペシ王が、なぜ、あのおそろしい「ドラキュラ」と呼ばれるようになったのかを知るために、歴史をさかのぼって、十五世紀のワラキア（ルーマニアは、当時ワラキア、トランシルバニア、モルダヴィアの三つの地方に分かれていました。）をかいまみることにしましょう。

ヴラド・ドラキュラ・ツェペシ王（一四三〇～一四七六）は、ルーマニアの歴史では、国を救った著名な英雄です。当時、トルコ帝国は勢いが強く、ギリシャ、ブルガリアを征服し、ドナウ川の北の国ワラキアにも攻め込んできました。この時、ワラキアをトルコ軍から守るために戦ったのがドラキュラ王でした。彼の城や砦は、山と高原の国トランシルバニアがワラキア平原に開らけるその出口にあった

のです。勇敢で知謀にも長けていた彼は、トルコ軍のおそるべき敵として知られるようになりました。

当時のルーマニアは、とても混乱していました。国内では、反乱がたびたび起っていたうえに、外からはトルコ軍が侵入してきたのです。そのため、ドラキュラ王は、国の独立とトルコ軍から国を守ることを最大の目標とし、そのために、強力な軍隊の編成を最も重要な課題としたのです。

そして、この目的を達成するためには、彼は規律と秩序をたもち、国民をきびしく統制するよりほかに方法はないと確信していました。ドラキュラ王は、特にトルコ軍との戦いの場合には、うらざり行為が起ったら、それが国にとつては致命的な事態になると考えていました。そのようなことは、なんとしても未然に防がなくてはならないと考えたのです。ですから、彼に対する不服従も、たくらみも少しも許さなかったのです。つねに、国を守ることを念頭において、敵やうらざり者を、それらの身分に関係なく、ためらわず処刑したのです。見せしめのため、ドラキュラ王が好んで採った処刑は「串刺し」という方法でした。それは、先をとがらせた木の杭で敵やうらざり者の体をたてに串刺しにし、それを土に打ち込むというやりかたでした。このような串が丘の上に延々と連なるといわれます。この光景を見た者は、敵でなくてもぞっとしたのはあたりまえ

でしょう。

この処刑の方法が王様の名前にまで影響を与えたのです。というのは、彼は「ヴラド・ドラキュラ・ツェペシ」と呼ばれたのですが、このツェペシという言葉はルーマニア語で「串刺し」を意味しているのです。おもしろいのは、ドラキュラという名は、偶然にもルーマニア語で「悪魔」という意味があるのです。

ブラム・ストーカーによる想像上のドラキュラと実在のドラキュラ王とがどのような関係にあるかを、もう少し明らかにしてみたいと思います。そのために、ドラキュラ王のエピソードをいくつかとりあげてみましょう。

あるとき、ドラキュラ王は、一つの町を占領し、うらざった商人たちをみな串刺しにしてしまいました。そして、彼に対抗して王位をねらうダン公爵の軍勢もみな串刺してしまいました。しかし、ダン公爵には特別な運命を与えました。それは、一人で自分の墓穴を掘らせ、その後、王の前で、公爵のための立派な葬式を行うというものでした。式が終わってからやっと公爵の首が切られました。でも、これだけでは十分でないと思ったドラキュラ王は、うらざりの見せしめに公爵を支持した町の住人たちを皆殺しにしてしまいました。このような残酷で非情な行為は、まだほかにもありました。トルコ軍との戦いで、トルコの軍勢を

打ち破ぶったドラキュラ王は、戦場となった広い原野に二万四千本の「串刺し」を並べましたが、トルコ軍の司令官のためには、敬意を表して特別長い杭を用意させたといわれています。数か月後、トルコの王様みずからが強力な軍隊を率いて攻めてきたとき、彼らが見たものは地獄のような串刺しの林だったので。（トルコ側の記録では、二万ぐらいのトルコ兵が串刺にされていたということです。）

さらに、自分の部下の戦士たちのあつかいも、彼の冷酷、非情なうわさを強くするものでした。というのは、ドラキュラ王は、戦士の中で体の前に負傷したもののだけを勇士とみなし、負傷を背中に受けた者は卑怯者として殺してしまったということです。このような事実から、ドラキュラ王が、敵にはもちろん味方にも冷酷でおそろしい王様として知られてきたことがよくわかると思います。

ところで、ドラキュラ王の伝説には、彼をちがったふうにして述べているものもあります。ある伝説では、ドラキュラ王は、正義や規律を重じ、りこうで必要なときだけ断固とした態度をとる人というように描写されているものもあります。また、別の国に広まった伝説では、トルコ軍との戦いで示したドラキュラ王の勇敢さをほめたり、彼の残酷さをおそれたりしたものもあります。しかし、残酷、非情なエピソードには、本当のものもあれば、うらみをかっった敵

によって作られたものもありましょう。

これらの伝説は、だいたい十六世紀末ごろまでに流布されましたが、その後は忘れられてしまっていたのです。

作家ブラム・ストーカーは、小説の中にドラキュラ王をよみがえらせました。一世紀ほど前のことですが、フランケンシュタインなどの怪物が登場するスリラー小説の広まりつつある時代でした。ストーカーは、ドラキュラ王の伝説をもとにして、恐怖の物語をつくったのです。

実在のドラキュラ王は、冷酷、非情といえる厳しさをもっていました。物語の中の吸血鬼ドラキュラとは大きなへだたりがあります。とはいっても、の彼ら二人の間、つまり、実在のドラキュラ王と吸血鬼ドラキュラとの間に共通点があるとすれば、二人とも人々におそろしい恐怖感を起こさせるということでしょう。

小説の中のドラキュラがどのようにして生まれたかを知るのもおもしろいことだと思えます。

かつて、血で血をあらう戦いの日々であったドラキュラ王のふる里トランシルバニアは、険しい山々と深い渓谷に囲まれた高原がゆるやかにうねるそれはそれは美しい地方です。ブルーネの花咲く春訪れても、粉雪の舞う冬たずねても、そこはいつもおとぎの国です。

子供のためのサハラへの旅

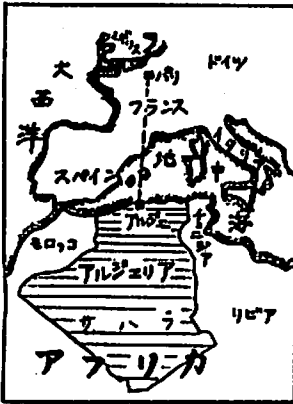
アルジェリア・アルジェ 日本人学校
玉野・荘内中学校 垣見憲治

はじめに

皆さんはサハラ砂漠を知っていますか。アフリカで、いや世界でいちばん広い砂漠です。サハラとはアラビア語で「毛の地」という意味です。

パリを飛び立ったジェット機は、およそ二時間で、アフリカ北端の国アルジェリアの首都アルジェの空港に降り立ちます。

青い地中海のそばの空港は、機外に出ると、ムッとした



パリからアルジェへ

暑さとまぶしい太陽が、取り囲んできます。「アフリカへ来たんだ」という実感がわいてきます。



カスバ

た町」という意味で、むかしトルコが、この国を治めていた時代に作られたものです。

ここは、今でも多くの人が住んでいます。狭い階段や迷路のような細い道で、複雑な形をしており、ゴミだらけで決してきれいではありませんが、人々の生きた生活が目にあたりに見られます。アルジェリア人の心のふるさととも言って良いでしょう。

アルジェ市から、西へ車で三十分、ヨットハーバー、ホテルの並ぶ観光地、シディフレディへ着きます。今から五十年ほど前、フランス軍がこの浜辺に上陸、あつという間に、この国を占領してしまいました。そして、一九六二年に独立するまでの百三十二年間、フランスは主人として、この国にいつづけるのです。アルジェリア人にとって、長く苦しい日々が続くのです。

地中海に沿って

アルジェの港を

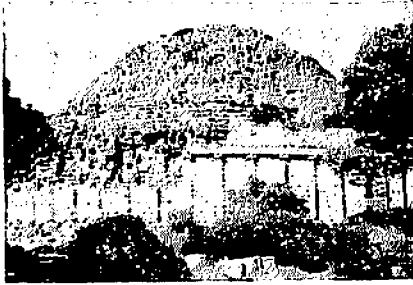
見下ろす丘の上には、

四百年の歴史をもつ「カスバ」が

あります。カスバとは

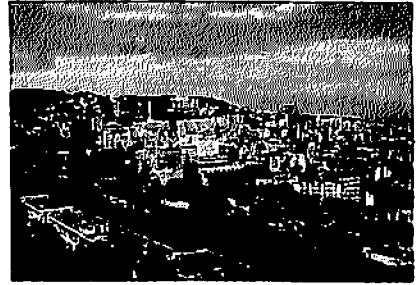
「城壁に囲まれた

この国を治めていた



「クレオパトラの娘」の墓

さらには、海岸ぞいに西へ行くと、丘の斜面に多くのぶどう、オレンジの木が見られます。この辺りは、地中海性気候といひ、暖かく、年間の雨量は岡山の三分の二位です。やがて、丘の上に石造りの遺跡が見えてきます。これが、「クレオパトラの娘の墓」といわれているものですが、正確には、それより前の時代、今から二千年以上前にあった国、古代モリタニアの王の墓であると言われています。この墓を見ると、かつてアフリカ人自身の手によって、すばらしい文明が育ったことが、印象に残ります。車はさらに進み、ティ



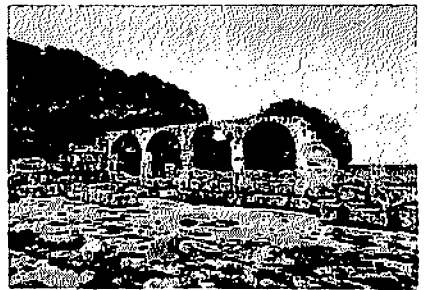
アルジェ市遠望

さらに、海岸ぞいに西へ行くと、丘の斜面に多くのぶどう、オレンジの木が見られます。この辺りは、地中海性気候といひ、暖かく、年間の雨量は岡山の三分の二位です。やがて、丘の上に石造りの遺跡が見えてきます。これが、「クレオパトラの娘の墓」といわれているものですが、正確には、それより前の時代、今から二千年以上前にあった国、古代モリタニアの王の墓であると言われています。この墓を見ると、かつてアフリカ人自身の手によって、すばらしい文明が育ったことが、印象に残ります。車はさらに進み、ティ

海岸アトラス山脈へ

さて、車は地中海と別れて、内陸へ向かいます。丘をこえてゆくと、白い肌のユーカーの林や羊、ろばのいる牧場を通りすぎます。道ばたには、家でとれた野菜、果物、パンを売っている子供達もいます。この国の子供達は、みんなよく家の手伝いをします。

やがて、車はブリダの町へ入ります。道の両側にやしやハイビスカスなどの並ぶ美しい町です。イスラム教の寺院、モスクから、お祈りのコーランが聞こえてきます。イスラ



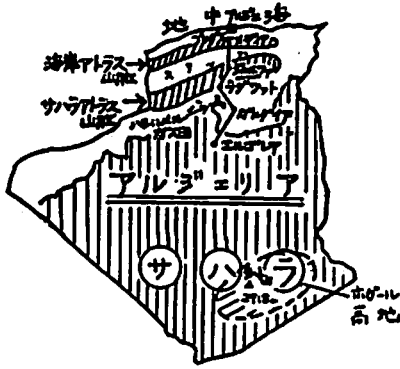
ティパサのローマ遺跡

パサの町に入ります。海のそばに大きな遺跡が、そびえています。水道橋の一部も残っています。千九百年頃から、約三百年間、この国の支配者となったローマ帝国のものです。このようなローマの遺跡は、この国のあちこちに、今も多く残っています。地中海

ム教は、およそ千四百年前に生まれ、北アフリカにも広がったものです。この国の人々は、宗教を大切にし、一日五回のお祈りを欠かしません。モスクは小さな町でも数カ所、大きな町では数十もあります。

いよいよ、車は山道を登ってゆきます。向こうに、千五百メートルのシュレア山が見えます。地中海からたった二十キロメートル入ったばかりのこの山は、冬にはスキー場が開かれ、秋には松林に松たけがたくさんとれる恵みの山なのです。

高度が上がるにつれ、両側の斜面にブドウ畑がたくさん見えてきます。少し先のメディアアの町は、この国でもお



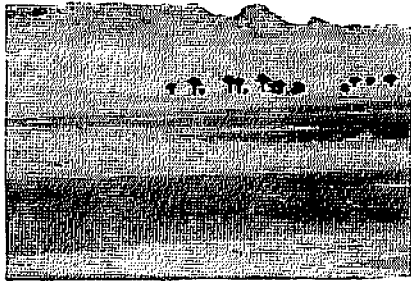
地中海からサハラへ

しいワインを生産する町なのです。やがて、千二百三十メートルの峠にさしかかります。霧が濃くて、二十メートル先もよく見

えません。地中海から吹いてきた水分を含んだ風が、霧を発生させるのだそうです。うまいワインを生む霧かも知れません。

草原（ステップ）の道へ

しばらく走って、山脈の向こう側に出ると、空は晴れ青空が見えてきます。空気も心もち乾燥してきます。高度が下がるにつれて、緑は少なくなり、かれた谷や岩がむき出しになり、殺風景になります。草がわずかに生える、土がむきだし「土漠」になってゆくのです。さらに行くと、雨期だけ現われるという大きな湖に出会います。そのまわ



サハラの湖

りには、草が短かく生えており、羊の大群が移動しながら、食事をしています。この辺をステップと呼んでいます。湖や水たまりの全然ない所でも、羊や山羊の大群に会うこ

とがあります。そこには、大てい深い井戸があり、なみなみと水がわいています。太い地下水脈があるのでしょうか。

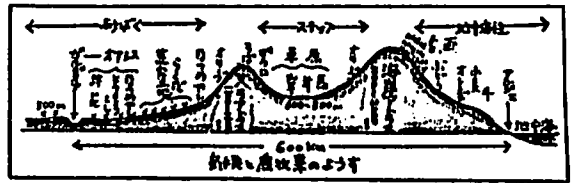
サハラアトラス山脈へ

百キロメートルほど走ると、再び道はあがってゆきます。曲りくねった坂道が、ふえてきます。標高千三百三十八メートルのジェルファの町で、長い間見えかくれしていた線路や汽車とわかるのです。アルジェから三百二キロメートルのこの町が、汽車の終点なのです。ここから先、サハラの果てまで線路はありません。町をぬけると、道は下降し、ザクロやアーモンドの林を、通り過ぎてゆきます。

次のラグアットの町に着く頃には、平坦で木もろくに見られない「不毛の地」に変わっています。しかし、本当の「サハラ」はまだ入口に立ったばかりです。

砂漠地帯に

一直線の道路がいやというほどつづく道の両側には、葉がとげになっていて高さ五十センチばかりの小さなタマリスクが点在しています。時速百三十キロメートルの景色の中で、多くのかれ川が過ぎてゆきます。砂漠の建設資材を山と積み上げた大型トレーラー、窓ガラスもないポロポロの乗り合いタクシー、屋根の上に客の荷をほおり上げた

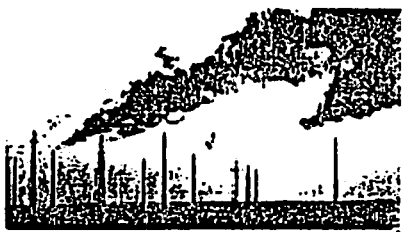


気候と農牧業のうつりかわり

古いバスが、あつという間に後ろに消えてゆきます。途中に、おもしろい交通標識がありました。

一こぶラクダの絵が描いてあります。どうやら「ラクダが道路を横切るから注意せよ」ということらしいのです。他に、羊の絵がついた別の標識もありました。この辺りの道路はほぼ一直線で、まわりに何もないため、ほとんどのくるまは、時速百キロメートル以上出していますから、ぶつかると大事故になりかねません。

地平線に、風車らしいものが、二つ三つ見えてきました。近づくと、どうやら羽根の直径は、五メートル位もあります。風力で、地下水をくみ上げているのです。そんな所には、人家らしい、土でできた窓もろくにない建物が、点々と目につきます。夏は、五、六十℃にもなるサハラですから、窓は「明かりとり」以外には不要です。でも乾燥しているので、中はひんやりとして、気持ちが良いくらいです。近くに電線もないところを見る



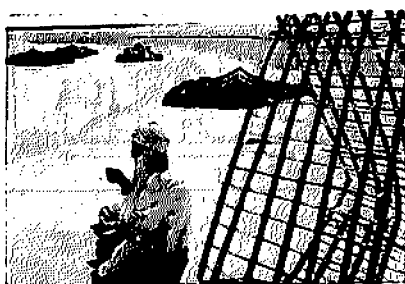
田ガスメルシハ

と、電気も風力発電かも知れません。屋根の上には、何とテレビのアンテナが、立っているではありませんか。いくら走っても、放送局らしいものがないのですから、不思議な話です。

こんな調子で、単調な景色のくり返しの後、地平線の右手前方に、黒い煙のすじが何本も見えてきました。近づくにつれて、それがガス田の煙突の上で燃えつづけているガスの煙とわかるのです。これが、ハッシュルメルガス田でした。アルジェから五百キロメートル以上入ったこんな所にも、日本人が働いていました。ガスや油を掘ったり、パイプラインをひく指導をしているのです。ここから、高い

送電線や地をはうパイプラインが、四方八方に伸びています。このガスも、遠くはスペイン、イタリヤ、フランスまで運ばれているのです。

しばらく走ると、ラクダ十頭位の背中に、荷物をいっぱい積み、一頭のラクダの背に小さな子供をくくりつけた一隊と出会いました。男たちは馬やろばの上に乗り、女たち



生活の牧民遊

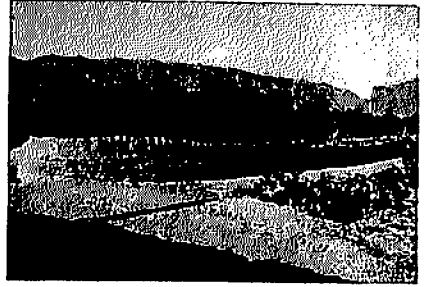
は歩いています。どうやら、草を求めて移動中の遊牧民の様です。車をとめて見ていると、家長らしい男二人がやってきました。ターバンをまき、陽にやけたしわだらけの顔をして、長いマントを着ています。手を出して「タバコをくれ」と言っていますが、ないのでオレンジを二つ出すと、一言いって去ってゆきました。

少し行くと、雑草のわずかに生えた、小高い丘の上に、彼らのテントがありました。もちろん、電気もガスもありませんが、代わりに動物のふんを乾かして、燃料として使っています。まわりには、多くの羊、山羊に混って、らくだ、馬、ろばもいます。工業をすすめているこの国にも、

まだ多くの遊牧民がいるのです。

へ町のアシオア

やがて、車はなつめやしの林に囲まれた、小さなオアシスにさしかかります。やしの葉の下には、小さな干し柿のような実が、ぶどうの房のように、たくさんぶら下がって



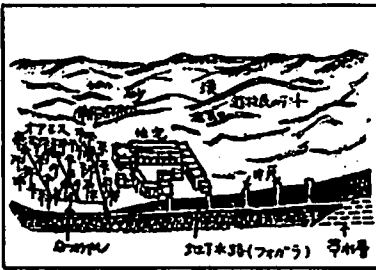
なつめやし林

ます。これがドイツの実
なのです。非常に榮養が
あると言われ、昔の砂漠
を旅する商人達、隊商(キ
ャラバン)の人たちの主
食だったと言われていま
す。

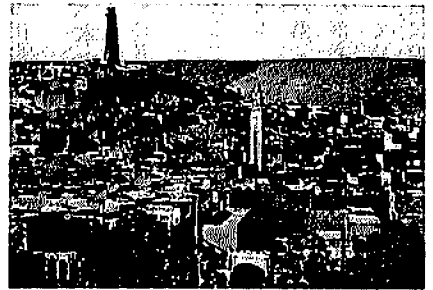
こんな小さなオアシス
をいくつも過ぎて行くと、
やがて丘の向こうに、突
然、視界が急にひらけ、

目の下には巨大なくぼ地が広がっています。久しぶりに見
る大きな町です。なつめやし林が広がり、土の家がくっつ
き合って、丘の上に向かってせり上がっています。そして、
丘の上には、モスクの上がった塔が、白く輝いています。
風のない日は、空は青色というより、紺色に深くすんで
います。それが、まわりのかっ色の土と、白い家々に
とけ合って、すばらしい色彩になっています。

このサハラ最大のオアシスが、ガルダイアです。地中海
岸のアルジェから、ちょうど六百キロメートル、東京―大
阪より少し長い距離です。近くに空港もあり、ヨーロッパ
からの直行便もつく「国際都市」でもあり、さすが外国人、



フォガラとオアシス (帝国書院、
中学生地図帳より)



サハラ最大のオアシス・ガルダイア

特にヨーロッパ人の姿が
目につきます。リュック
をかっいで、ひげをはや
した数人の学生、ウオー
クマンを聞いているショ
トパンツの女子学生、大
きな旅行カバンをころが
している老夫婦、自転車
にテントをくくりつけた
グループもいて、なか
か活気があります。

町の中には、小川らし
いものが流れています。こ
れは川ではありません。
「フォガラ」と言い、遠
くの山の下を流れる地下
水を、人工のトンネルで
何十キロメートルもひい
てきているのです。水を
得るための、このような
苦労は、水豊かな国の日
本人には、決して理解で

きないでしょう。

さて、この町の中心は大きな広場になっていて、又、大きな市場ともなっています。ここに来れば、砂漠の人々の生活のすべてが、分かるような気がします。遠くの方から、羊、山羊の毛皮をろばに積んできた人、奥さんや娘さんの作ったじゅうたんを売りに来た人、砂とうや生活物資を買いだめしにきた遊牧民など、タバコと汗と羊のあぶらの臭いが入りまじって、何とも言えないふんい気を作り上げています。

店には、この地方独特のもようのじゅうたんや羊皮のマット、ガゼルの壁かけなどが、所せましとならんでいます。

なかには、観光客目あて

の「砂漠のバラ」という

鉱物の結晶や大とかげの

はく製、アンモナイトの

化石、はでな色のつばや

かめなどを売る店もあり

ます。おもしろいのは露

店で、こしょうなど何十

種類ものスパイスだけを

売る店の他、いったい誰

が買うのか、古い電池や

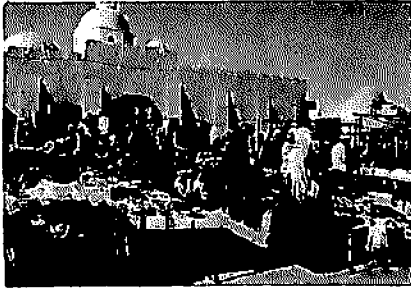
片足しかない靴、こわれたカセットラジオを並べている店もあります。

いくら見ても、見あきないこの町から、車は一路、二百六十キロメートル南のオアシス、エルゴレアに向かいます。車の高度計は五百メートルをさしています。どうやら、アフリカの内部に向かうほど、土地が低くなっている様子です。

国道の両側には、骨だけの自動車の車体やボロボロのタイヤがころがっています。きつと動かなくなり、すてられたものなのでしょう。それほどサハラ旅行は、大変なことなのです。車だけでなく、らくだのミイラ、ろばの白骨にも出会います。

「本当の」砂ばくへ

景色が土色から少しずつ、オレンジ色に変わってゆきます。土から砂の砂漠に入ってきたのです。さめの細かい、まるで砂時計の砂でできた様な砂漠です。色もほんとうにオレンジ色です。手ですくうと、指の間からサラサラと流れ落ちてゆきます。砂丘には、風紋とよばれる美しいもようがあり、太陽の位置によって、美しい陰影が、変化してゆきます。しゃがんでよく見ると、小さな足跡が、無数に走り回っています。これが、あのサソリの足跡です



オアシスのスーク（市場）



サハラ・西砂漠

が、夜行性なので、昼は岩や石の下でじっとしています。はるか向こうに、大きな砂丘が見えてきました。高さ五十メートル以上もあり、登ろうとすると、足元が次々とくずれ、なかなか前へ進みません。こんな大きな砂丘も、風の中で、毎日数メートルも移動するようです。一年後に、再び訪れてみると、砂丘は五キロメートル位移動していました。

砂漠のドライブは、特に注意が必要です。吹きつける風が、砂を道路の上につみ上げたり、ひどい時は前が全然、見えなくなったり、カーブを曲った後、道が消えていたりして大変危険です。いちどタイヤが砂の中に入ろうものなら、トラックにでも引いてもらわない限り、脱出は不可能です。こんな所を、年一回パリから、サハラを越えて、反対側のダカールまで縦断するレースが、通るのでそこから驚きです。トラックが砂ほこりを巻き上げ行ってしまうと、もう何も聞こえません。あまりに広すぎて、また

砂が音を吸収するのでしょう。ただ風の音だけが聞こえています。こんなに吸いこまれる様な静けさは、日本にはないでしょう。

走るのにあきた頃、いきなり目の下にオアシスの緑が、とび出してきました。アルジェから八百五十キロメートルのエルゴレア・オアシスです。長い土色の世界から、緑の世界に入ると、「ホッ」とします。昔の旅人はラクダで、この数十倍の時間をかけて旅行しました。オアシスが見えてきた時の彼らの気持ち、少しだけ分かる様な気がします。

しかしこのオアシスは、今までのとちがって、少々砂っぽい気がします。道路のほとんどは、砂があつくかぶさっています。たぶんこれより南へ行くほど、砂っぽくなるのでしょう。砂漠の旅は、まだまだつづきます。サハラは、やっと三分の一入ったばかりです。今日も、南のオアシスへ、食料品や日用品を積んだトラックが、砂ほこりを立て出発してゆきます。

おわりに

この町で、はだしの子供達から、化石をもらいました。巻き貝やアンモナイトの破片です。このだだっ広いサハラも、太古は海の底だったのです。

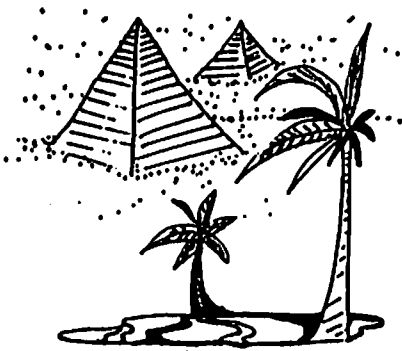
夜、星を見ました。まわりには、当然、ネオンサインひ

とつなく、真っ暗です。その空間に日本で見る何倍もの星
が大きく近くせまってきます。まるで降ってくるようです。
時がたつのも忘れて、見とれていました。

サハラの小さな町で、宇宙や地球の大きさ、時の無限を
知りました。人間は何とちっぽけな存在なのでしょう。日
本は何と小さな国なのでしょう。

皆さんも、機会があれば、サハラを訪れてみてください。
きっと何かを得るはずです。

〈おわり〉



私の見たナイジェリア

ナイジェリア・ラゴス日本人学校
東備養護学校 秋 本 賢 治

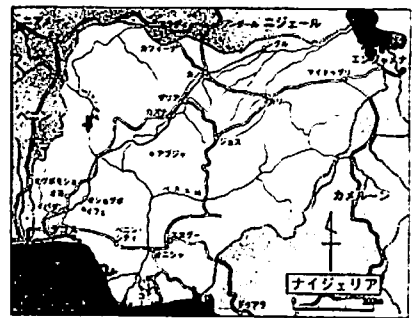
四月十七日、T君お元気ですか。日本では今頃は、ぽかぽかと暖かい頃でしょうね。

四月七日に、新東京国際空港（成田）でお別れしてからもう十日が経ちますね。こちらは、毎日ムンムンするような暑い天氣が続いています。じっとしていても汗が出てきて、胸がべたべたしてきます。



今日の昼休みに理科の先生が湿度計を見せてくれたのですが、なんと九十七%もありました。温度計は三十℃を示していたから、丁度日本の真夏の頃と同じね。

三時間目は、
体育の時間で、



この暑さの中で芝の狭い校庭で跳び箱をしたんですよ。勿論教室にはクーラーが入っているんだけど、校庭にまではないわよ。一年早くこの日本人学校に来た先輩のY子さんなんか平気な顔をして走っているけれど、私はもうたいへん。後から後からの汗、汗……。

ところで、この暑い西アフリカのナイジェリアの首都ラゴスの氣候なんだけれどね。地理の時間に習った熱帯雨林の氣候は、たしか年中高温、多雨、毎日午後のスコール、密林という特徴をもっていたよね。そして、熱帯雨林の北側や南側にサバンナ氣候があって、この氣候の特徴が、雨季と乾季の二つの季節に分かれ、まばらな樹木の草原、象、ライオン、キリンなどの野生動物がすみ、「動物の天国」といわれるところということだったよね。そうでしょうT君。ところが変なのよ。私たちの住むラゴスの町を、車で十分も走れば何十キロメートルと続く密林地帯。でも、午後は雨が降らないし、Y子さんは「今が乾季で五月になれば雨季が始まるよ。」って言

うし、象やライオンもすんでいそうにないし……。そう、熱帯雨林でもサバナでもないことになるのよね。ケッペンによる世界の気候では、ラゴスは熱帯雨林には入っているんだけどね。

そうそう、動物は、サイやチータはいないけれど、この町の中にはすごく大きなリザーがいるのよ。「リザーって何だ。」きっと、動物に興味のあるT君なら聞くはずよね。ハイハイ、教えてしんぜよう。リザーというのはね。頭の先から尾の先までの長さが三十センチ近くありそうなトカゲのことなんですよ。こいつが、街のいたるところにいて、高い壁なんか、あっとい間に登ってしまうのよ。雄は頭部と尾部がオレンジ色で、その外のところは灰色。オレンジは素敵な色なだけどね、慣れない私にはやっぱり気持ちの悪い動物だわ。このリザー、凶々しくて、家の中まですりこめるのよ。だから余計に気味が悪いの。T君の家のようなアルミサッシの家ではこんなこと絶対ないよね。でも、私達が借りている家では、入口のドアの上下に各々五センチ位の隙間があるの。だから、リザーは入りたい放題。ひょっとしたら、リザーは自分達の家だと思っていると違うかな。でも、何と言っても、リザーは毒を持っているからいいわ。Y子さんが言うのには、ここには世界の蛇の中で三番目(?)に猛毒をもつといわれるグリーンズ

ネークがいるんだって。学校の庭にも何度か入って来たそうよ。黄緑色のきれいな色をしているんだそうだけどいつに咬まれたら、もう命は、おしまいだそう。血溜はないし、医者は近所にはいないし。何だか、これから生活していくのがとても恐ろしくなってきたわ。Y子さんたらいいわ。毒蛇はグリーンズネークだけではないというのよ。ブラックバンパーとか言ってる黒色のもすんでいるんだって。後で父が雇っているドライバーに聞いたら、本当の話なんだって。だから、草むらには入らない方がいいって忠告してくれたわ。父の転勤とは言え、大変な困に來てしまったわ。初め父からアフリカ行きのことを聞いた時は、アフリカなんて行けそうもない所へ行けるんだと思ってとっても喜んだのに、来てみれば大変な所。来るんじゃないかと思っててもう遅いか。ウーン。ま、仕方ないわ。人生いたるところに青山ありよね。

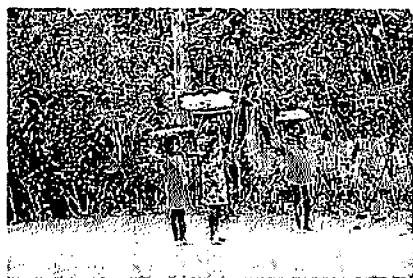
ところで、気分を変えて、リザーもすんでいる私達の家なんだけどね。これがとてつもなく大きい。二階建て、延床面積が約三百平方メートル。多分、T君の家は日本では普通の大きさの家だろうけれど、その二倍半というところかな。ここでは、私達の家だけが大きいのではないのよ。近所の白人や黒人の家は大体みな同じ大きさ。つまり普通の大きさの家ということになるのよ。T君きっと「大きく

ていいなあ。」って言うと思うけど、そんなことは決してなさそうよ。だって言うじゃない。「過ぎたるは及ばざるが如し。」って。広過ぎて使いにくいって母が言っているわ。先進国からウサギ小屋と言われている日本の家は、確かに少し狭過ぎると思うけれど、掃除をするのは便利ね。きれい好きな日本人にはウサギ小屋の方がきれいだ好きなんだ。掃除は、二日前から雇った黒人の、二十一才の女性カンファットが毎日の仕事としてやってくれるから、本当は母も楽なんだけれどね。「カンファット」メイドの名前なの。この人達は女のお手伝いさんをメイド、男のお手伝いさんをスチュワードって呼んでいるのよ。男がスチュワードなら、女はスチュワードスってはずなのに変ね。もともと、スチュワードスは空を飛ぶ女性か。粉らわしいのかもね。カンファットの外に私の家に来ている人は、運転手のフライデュー、そう金曜日さんね。門番、ここではセキュリティ、そう警備員ね。の二人、サンデュー、日曜日さん、アバ。金曜日、日曜日さんは、それぞれ、その曜日に生まれたからそういう名前をつけたんですって。二人のセキュリティが昼夜交代で門番をするのよ。門は大きな鉄の扉になっていて、いつも鍵がかけてあるから、用のある時だけ鍵を開けて扉を開く、その役目がセキュリティという訳。「そんなの変だよ。たかが一軒の家



露天の八百屋さん、ジャガイモ、インゲン、ニンジン、ピーマン、キャベツ、タマネギ等の野菜とパイナップル、オレンジ、ココナツヤシ、タンジャリン(みかん)、グレープフルーツ等の果物を売っている

れないからかしら。それに慣れないからかしら。春の囲か、ムマシーンに乗って丸一日で真夏の囲へ来てしまった



頭の上のフルーツを売り歩く子供達。家のない子が多い。

じゃない。」なんて言わないでね。どこの家もそうしているんだから、勿論泥棒よけのためだそうよ。それもアームドロバーとって武装強盗だそうよ。イヤッ。また恐しくなってきたわ。今日は疲れたわ。もうやめておくれ。暑い困ってとても疲れ易いのかしら。それとも慣

ようなものだから瘦れるのは当然か？では今日はこれだね。バイバイ。

From S

五月十五日、T君、さわやかな五月の、日本の風を吸いながら楽しく通学していることでしょうね。いいなあ。日本の五月って素敵だものね。それに比べてここラゴスは……こちらはY子先輩の言った通り、雨がよく降る季節、つまり雨季に入ったようよ。昨日がそうだったんだけど、この雨ってすごいのよ。集中豪雨っていう感じ。雨雲がパッパと広がったかと思うと、雷鳴がゴロゴロドドドン。まるで打上げ花火よ。すると突然大きな雨滴が、バケツをひっくり返したようにドドッと落ちてくるんだから。もう大変。スコールは午後にあると聞いたんだけど、昨日は朝十時頃だったし、フライデイがいうには、午前午後関係なしに来るっていうから、スコールとは言わないのかなあ。一昨日も雨が降ったんだけど、ほとんど一日シトシトシトシト。そうね、日本の梅雨入りの頃の降り方ね。だからそんなに雨量はなかったんだけどね。昨日のはすごかったわよ。降り始めてから一時間もしないうちに校庭は洪水のようになってしまったから。本当はもっと驚いたこと

があったのよ。洪水を見たその後、一階の床の上。長さ二十五センチぐらい直径一センチはありそうな大ミミズ。こいつらがそこにもここにも。水で流されないようにというわけかしらはい上がってくるんですから。

とにかく二時間も降ったかしら。帰りのスクールバスはゴースローにひっかかって、たった八キロメートルの距離も二時間近くかかってしまったのよ。ゴースローって何かって？。日本語の渋滞のことよ。ゴー、スロー、上手い言葉よね。これが日本人の言うナイジェリアイングリッシュというやつ。「サンキュー」って聞こえないのよ。「タンキュー」なの。「ドンゴー、ドンゴー」はドントゴーのことかと思ったら反対なの。「行け、行け」なの。ドンはD。というわけね。これじゃあ大変ね。だってそうでしょう。味方がエラーした時なんか、仲間が「ドンマイ、ドンマイ」って言うでしょ。あれをここで言ったら大変よ。「気にしろ、気にしろ。」っていうことになるものね。所かわれば何とやらでしょうか。でもよく考えてみると日本でもそうよね。四国の香川県では、お客さんに食べ物を勧めるとき、食べまい、食べまい」って言うそうだから。それを思えば不思議な気もしないわね。

ところで、あれからいろんなことがあったわ。こちらに来てまだ一ヶ月少しなのに、見るもの聞くもの驚くことば

っかり。いいかげんもう驚かなくなるんじゃないかなあ
なんて自分で思ってみるんだけど、だめね。次の瞬間はも
う驚いているんだもの。でも、当たり前のことなのかも知
れないわよね。だって、目に入る物、耳に聞こえてくるも
の、全部といっていい位日本とはまるで違うんだもの。驚
くなって言う方が無理よね、きつと。そこで二日前のお話
なの。ちょうど昼頃、突然私の家の門の前で騒ぎが起こっ
たの。たぐきん人が集まってきたようなので、何か事件で
も起きたのかとセキュリティのアバに聞いたら、「チーフが
つかまった。」と答えるのよ。武装強盗をアームドローバーとい
うって前に書いたわよね。チーフって言うのは、ただの泥棒
で、武器を持っていない人のことだそうなの。そのチーフ
がつかまったっていうんで、例によって恐いもの見たさから、
アバに命じて鉄の扉を開けて隙間をつくってもらい、のぞ
いて見たのよ、すると、二十人位の人垣の真中辺りから、
「Sorry, sorry」という男の太い声と一緒に、「ポカッ、ポ
カッ。」という音。何やらわめく声。人垣をかき分けてのぞ
きに行く程の度胸もないから、状況から想像したんだけれ
ど、policeman が棒か何かでチーフを叩いていたんだと思
ったの。後でアバが見に行つて、わざわざ私に教えてくれ
たのは、私の想像通りのことだったの。チーフはなぐられ
て頭や顔から血を出していてもPolicemanはなぐるのをや

めようとしなかったって、アバは当然な顔をして言うのよ。
こんな場面は人権尊重の日本ではどうてい考えられないこ
とよね。アバの顔は、勿論チーフが悪いのだから仕方がな
いさというふうに見えるし、よく言えば悪を憎む表れと言
えそうだけれど、日本ではどうかしら、きつとまず先に、
泥棒の人権を考えるわ。だから、警官もその上で行動する
のに決まっている。そうよ、それが当然よ。いくら悪いこ
とをしても、人間は、人間だもの。でも、ここでは、悪い
行為は人間として扱ってくれないのよ。少なくとも日本の
ようにはね。アバの表情からすれば、悪の行為者はどのよ
うにされても仕方ないほど許されないとだということに
なる。つまり、罪も憎み、人も憎むというところえ方ね。こ
れは、私達日本人にはピンとこないけれど、でも、いけな
いと言えるかどうかはわからないわ。むずかしい問題よね。
T君はどう思う。参考までに、チーフが盗んだ物は、路上
に駐車中の乗用車の中から日本円で一万円ほどの現金の入
った財布だとアバは教えてくれたわ。もっとも金額などは
問題ではないと思うのだけれどね。T君、私の質問の回答を考える
上で、これから書くこともよく考え合わせてほしいの。お願いね。
ナイジェリアは、T君も知っている通り、発展途上国、
最近の統計（一九八二年）によれば国民所得は日本の約十
二分の一に当たる、六七五億ドル。一人当たり国民所得は、

約九分の一、七八三ドル。数字だけではピンとこないでしょうから、私が見たり聞いたりしてきた庶民の生活を話すと、家のない人がたくさんいるのよ。例えば、父が雇っている四人も全員家を持っていないわ。だから、セキユリティの二人は、私の家の軒下のタイルの上に毛布を敷いて寝る生活よ。家財と言えば、アアそうね、家がないから家財とは言わないか、持っている物と言う方が適当な表現よ。敷き毛布、かけ毛布、帽子、民族用の帽子で種族によって違う形をしていて、お祭りや儀式には欠かせないのだけれどね、民族服、一枚のワンピースのような形の物か上下ツウピースのような物のどちらか、二着ぐらい。食器を少し、持ち物をまとめて入れる用の、粗末な布袋。セキユリティは二人ともハウサ族といって北部の部族で、イスム教を信仰しているのだけれど、毎日五回のお祈りに欠かせない数珠。とこれ位の物よ。例外の運転手だってボーイズコーターに住んでいるのよ。ボーイズコーターって何かって？私達が借りている家が建っている敷地の中に別棟の小屋があるのだけれど、この小屋のことで、六畳間ぐらいの大きさ一室。家賃は、私の父が、家の持ち主に、私達の家賃と一緒に支払うの。つまり、私達が住む家を借りるということは、ボーイズコーターも一緒に借りるといわけね。私の父がフライデューを雇わなくなれば、その次の日から

彼は住む所がなくなるわけね。フライデューは世帯持ちだから、奥さんも子どももみんなどこかの家の軒下に寝るか、空き家でも探して住むかしなければならぬのよ。メイドは、自分の妹が近くで家を借りているので、そこで一緒に住んでいて毎日通ってくるのだけれど、その家も日本ではとうてい家とは言えないようなしる物よ。柱を八本組み合わせ、屋根にトタン板を数枚置いたというようなもの。広さも四畳半位かな。

ところで、四人の黒人の給料だけれど、メイドは一日八時間働いて月給二万四千元位。仕事の内容は家の中の掃除。私達家族の洗濯、食事作りとその後片付け。週休一日。セキユリティは一日十二時間勤務の交替制、門を必要時に開ける仕事で休日なし、月給は二万四千元。運転手は八時間、必要に応じて運転し、週休一・五日制月給三万六千元。T君ならきつと「本当の月給か？物価が安いんだろう？」って言いたいから、お答えします。本当の月給で、物価は世界一高いと言われるラゴスです。パンが一斤百五十円／二百円。日本のパンのように白くもないし、おいしくもないわ。ナイジェリアでは、主食はパンとは限らないのだけれど、日本と比べる上でちょうどよい食物だからあげてみたの。以上だけれど、これらのことも全部考えた上で愚の行為に対しての処置のあり方、つまりここでは人権ということ

になるわね。それを考えてほしいの。私達の周囲では、確
実に飢えている人がとってもたくさんいるの。その人達に
私は何もしてあげられないし、むしろ、搾取しているとい
うことになるのかも知れないし。それだけに、今まで自分
が日本の中にいて、見て聞いて学んできた事をそっくりそ
のままここにあってはめるわけにはいかないんじゃないのか
って気持ちになってくるの。日本から外へ出たことのない
T君にはわかってもらえないかなあ。ううん、私は決して自
慢気に言っているつもりはないのよ。ただ自分が見て来た
こととここで目にするのが、あまりにも違うから、私の
判断基準が今までのままでよいかどうかわからなくなっ
てきたの。そういう私の迷いは、私が初めて異国で生活す
るようになったから起こったことで、日本にあのままいれ
ば起こらずに済んでいた、(それがいいかどうかは別だけれど)
そう思うの。そうだからこそ日本で生活しているT君にわ
かってもらえないと思うの。

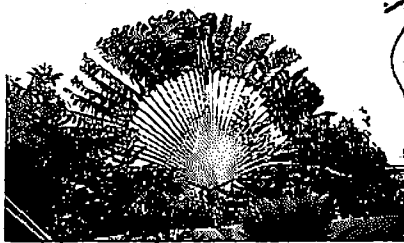
何だかたくさん書き過ぎちゃったわね。最後まで読んで
くれてありがとう。

今日は雨が降らないけれど、どんよりとして蒸し暑い一
日でした。日本は晴れていて気持ちがいいでしょうね。里
心というのかな、日本に帰りたいなくなっちゃった。ナアーン
と言って情ないわね。ではお元気で。

From S



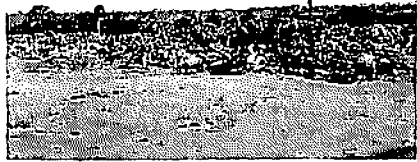
ミシン屋さん、ミシン
を頭の上ののせてご用
聞きに歩き回る。



パショウヤシ、旅人木といわれるヤシ
の一種で旅人が水を飲みたい時、
上の葉柄の下の葉柄の間に水がた
まっているから飲むことができる。
それで旅人の木といわれるわけ。

八月八日、
T君、夏休
みを楽しん
でいますか。
こちら
も今は同じ
夏休みです。
日本はさぞ
暑いでしょ

うね。こちらは快適な涼しさです。皮肉でしょう。八月が一年
のうちで一番涼しくてしのぎやすいんだって先輩も言っていた
通り、ホント涼しいの。北緯七度のラゴスは勿論日本と同じ北



町も広ければゴミ捨場も広い。町ののはずれによく見られる。

レーターの音がしなくて静かなんですもの。ナニナニ、「君の話はわからん単語が多すぎるんだよ。」ですって。そうでしょうね。ジェネレーターなんて言葉、私もつい四ヶ月ほど前には知らなかった言葉ですもの。ジェネレーター、自家発電機のことよ。知っていると思うけど、この国は、OPEC（石油輸出国機構）にも加盟しているアフリカの産油国なのね。一九五八年から生産されていて、この国の輸出額の九十三％は原油なの。すごいでしょう。産油国に変身するまでは、農業国。落花生や天然ゴム、ブラジル産に劣らない綿花、カカオ、油やし等が輸出品だったそうで、これらはもう昔と比べられないほど少量しか生産されていないみたいね。

半球に入るのだから、赤道に近くてもきつと八月が一番暑いはずなんて、日本を出る時考えていたのに、まるっきりブーですよね。とにかくまあ、クーラーを一日中つけていなくていいなんていう生活は快適なんです。だってジェネ

産油国なのね、電気が十分来ないのよ。私達が来てから一日平均五時間位しか送電されてこないの。だから、停電中は、自分の家の庭に置いてあるジェネレーターを動かして電気を起こすの。いつ送電されるのか、停電になるのかは電力会社から一切知らされないのよ。ホント突然停電になるんだもの。すると、近所から次々とジェネレーターのすごい音がし始めるの。私の家もセキユリティが力一杯ハンドルを回わして発動させるの、それを見てメードがスイッチを切り換えると電気がパッとくる仕組みになっているわけなんだけれど、ジェネレーターも機械だし、高温多湿の条件には弱いから、壊れてしまうことが多くて、そんな時は全く電気なしで、一日中暑さを辛抱していなければいけないの。四月十五日から十日間、そういう状態でもとも苦しかったわ。日本でありがたいなあって実感した最初がこの時だったの。T君、ありがたい国なのよ日本で。何から何までゆき届いているし、強盗も少ないし……。

ところで、ありがたいということでも思い出したんだけど、この間大変なことがあったのよ。母はオロオロするばかり、父まで苦しい顔をするし、私もどうしていいのかわからなくて妹を元気づけることしかできなかつたんだけれど、その妹が狂犬病によく似た症状の飼犬に咬まれたの。T君、知っていますか狂犬病の恐ろしさを。正直言うと私

もあんまり知らなかったんだけど、咬まれてから発症するともう全く廃人と同じようになってしまおうよ。ただの廃人だったらまだいいんだけど、口からよだれをダラダラと流し、目は狼のようにつりあがり、誰かれとなく咬みつくんですって。人間がまるで人間でなくなってしまうんだそう。私が他人事のように落着いてこんな風に書けているのは、多分発症はしないだろうと日本人のドクターに診断してもらったからなんだけれど、念の為にドクターは一定期間注射を打ち続けていてくれるのよ。狂犬病ワクチンという薬で、日本からドクターが手荷物もってきてくれたものなの。もう四回ほど注射したんだけど、後三回きまった期間に打たなければいけないそうで、妹の顔を見るのがとても辛い。だってとても痛そうなんだから。狂犬病らしいとわかったのは日本人の元獣医が、咬んだ犬を観察してくれたからで、その犬は、妹を咬んで三日目に狂ったように喘ぎながら死んだんだそうよ。ドクターも言っていたけど、ラゴスでは狂犬病にかかっている犬が確実にいるんですって。強盗よけの為に犬を飼っている人はたくさんいるの。その犬はイギリスを始めとするヨーロッパから輸入しているのが多いんだけど、この国のことで、日本にあるような動物検疫所は全くなくて、ほとんどフリーで入ってくるそうなの。だから、どんな家畜の病気が入っ

て来てもらっても不思議ではないっていうわけ。獣医さんが言うには、日本では検疫がとて厳しいから、狂犬病は約三十年間、日本国内では一件も出ていないそうなの。ただ昭和四十五年頃、ネパールだったから帰国した大学生が、むこうで野犬に咬まれていて、その野犬が狂犬病に罹患していた犬だったそう。発病してすぐ死亡したという例があるそうだけれど、これとても、大学生が発病したために、狂犬病だとわかったのだそう。どんなに恐ろしい病気かも一緒に教えてくれたの。そして、彼が最後に言うのは、「日本は、検疫を厳しくするからこそ日本では安全な生活ができるんだよ。日本はありがたい国だよ。」って。この事件からも日本人の偉大さ、安心して生活できる日本国ということがよくわかったような気がするの。妹はスカートの上から咬まれた後すぐに薬でたんに念に消毒したのだけれども、「この咬まれ方、咬まれた後の処置の仕方がとてもよかったから、まず大丈夫だろう。万一を考え血清を打っているんだよ。多分不幸中の幸いという結果になるだろう。」そう、ドクターも言ってくださったので九十五兆安心していらっしゃるけれど、潜伏期間の例からすると、来年の二月末でないとい〇〇兆安心ということにはならないわ。今は、

一〇〇兆安全を神様に祈るのみです。
ごめんなさいね。また暗い話になったわね。でも、今回

の事件だけは我家の一大事なのだから仕方ないのよね。わかってほしいわ。

暗い話はこれでやめて、楽しい話にかえましょう。その方が私も苦しくなくなるから。

昨日、ラゴスのピクトリア島の大きなホテルへ行つた時、ホテルの中にある本屋さんでヨルバの民話がかつてゐる本を見つけたの。さし絵入りの英語で書かれた本なんだけれど、「うさぎと亀の物語」という題で、どこかで聞いた話だぞと思ひながら、本屋の親父さんには悪いけど立読みしちやつたわ。たくさんわからない単語があつたからわかりそうなどころだけ読んだのよ。T君、知っているよね。いや、日本人なら誰でも知っているよね。「ウサギとカメ」のお話、勿論日本のよ。カメが善玉という結論ね。ところが、ここではカメは悪玉でウサギが善玉になるお話。カメがウサギをだましたのだそうよ。私にもっと英語の力があれば理由やあらずしを説明できるんだけど、とてもザンネン！今日から英語をもっとたくさん勉強するわ。そして、自力で全部読んでみせるわ。そしたら説明してあげるわね。T君、ヨルバというのは部族のことよ。ナイジェリアには、部族の数が二四八とか二五〇とか言われるほどたくさんあるんだそうで、その中で大きな部族が三つあるの。いわゆる三大部族といわれる、北部のヨルバ、東部のイボ、西部のハ

ウサ。宗教は前にも書いたけれど、ハウサ族がイスラム教、ヨルバとイボがキリスト教。各々みな言葉が違ふし、衣装も顔形も違ふていわれているけれど、私にはよくわからない。黒人は誰を見ても同じ顔に見えるの。先生が「もう少し経ったら顔の違いがよくわかるようになるよ。」って教えてくれたけれどね。

こちらでは、日本人の間で部属間の特徴の違いを話題にすることが多いのよ。日本のように単一民族ではない困だからとても興味があつて聞くのだけれども、黒人を雇つてゐる日本人は大体みんな同じことを言うわ。日本人のとらえた三大部属の特徴ということで次に書いてみるわね。

ヨルバ族：私達の住んでいる所がヨルバ地方ということになるんだけど、

① 仕事が遅い

② 計算高い

イボ族：① 頭がよい

② 商才がある

ハウサ族：① 仕事が遅い

② まじめで機転が聞かない

簡単に言うところいうことなんだけれど、こんなこと書いたからといって全部の人がそうなんだって思わないでね。よく私達は国民の特徴を言うでしょう。例えば、日本

人は勤勉、排他的、白人には卑屈なんてね。でも、日本人全員がそうではないのよね。そういうことをよく考えて理解してほしいわ。

ところでね。T君、「ピアフラ戦争」って知っている。今から二十年ほど前に起こったナイジェリアの中の内戦なんだけれどね。先生に勧められて、この間、学校の図書室にある本を読んで私も初めて知ったんだけどね。前に書いたイボ族の石油の利権をめぐる戦いだったのね。相手はヨルバやハウサ族。「ピアフラ共和国」を建てて独立宣言をしたイボ族が他の部族の怒りを買って戦争になったっていうわけ。この時の三年間の戦争で約一五〇万人の人が死亡したっていわれているわ。大きな戦いだったことがわかるでしょう。日本でも、街頭で「ピアフラの子を救おう」というスローガンを掲げた団体が募金運動をしたことがあるって父が言っていたわ。飢えて下腹が膨満した、いたいけな赤ん坊や幼児がどんどん死んでいくのを救済する運動だったというわけね。

今の、「アフリカの難民救済」もそうだけれど、発展途上国って大変なんだなあって思うわ。だってそうでしょう。いつも食糧が不足しているんだもの。幸福なことには、日本ではまずそんなことはないものね。ここでも「ありがたい国日本」っていうことになるわね。日本の中に住んでい

ると、なかなか感じられなくて不満ばかり言うようになるけれどね。いえいえ、T君がそうだというわけじゃありません。ご安心を。私がそうだったって、今猛烈に反省しているの。ということ、なんだかんだと日本の良い所を、どの手紙にも書いてきたようだけれど、この国にもすばらしい所はたくさんありそうよ。これから二年半近く住むことになりそうな国だから、「いやな所だ。早く日本に帰りたい。」なんて思う気持ちができるだけ抑えて、「いい所はないか。いい所はないか。」っていう目を持つようにしたいわ。もっとも、もう見つかっただいい所もあるのよ。それはね。日本人が昔そうだったところ。どんな所だと思う。T君には気がつくかなあ。それはね昔の日本人がそうであったように、お年寄と赤ん坊を、みんなが大切にするといいところ。それは自然なことかも知れないわ。この国では、赤ん坊は三才になるまで半分は死亡すると言われるからだし、お年寄は生活の知恵を持っているからだしで大切にされなければならぬわけよ。私はね、日本人の忘れてしまった大事なものを、この人達はしっかり持っているなあっていう感じで見ているの。T君どうう、そう思わない？まだ外にもあるのよ。それはね、街で出会う人達がやたらじろじろ私達外人を見ないということ。だって思わない？日本人は、外人を見つけると、じろじろもの珍しそうに見



狭い校庭を使つての毎年1月末にある恒例の運動会。3ヶ月余り続いた乾季の間ずっと給水してきたので校庭の芝生もなんとか緑が見えます。後方のブロックべいは毒蛇の侵入防止で作ったものです。

あれから、またいろんなことがあったわ。一番新しい出来事から言うと、五日前の日本人学校、日本人会合同の運動会ね。一月最後の日曜日に校庭で行なわれたのよ。ナイジェリアの邦人は約五〇〇人といわれているけど、

るわよね。あれとても失礼なことじゃないかしら、外人にね。今度もまたまた長い手紙になってしまいました。ごめんなさい。報告することがいっぱいあるんで、あれもこれもとなつてしまふから。Sorry, Sorry.じゃあね。今日はこの辺で。寝冷えなどしないように。夏風邪は治りにくいわよ。

From S

二月一日、T君、お元気？寒がり屋さんの君のことだから、毎日、毎日寒い寒いってふるえていることでしょうね。日本では一番寒い頃だから、それも仕方ないか。こちらは、十月中旬から乾季に入つていて、相変わらず暑いけれど、それでも結構しのぎ易いわ。

その約五分の一の日本人が集まつての運動会は、楽しみが少ない日本人には大受けだったのよ。遠く一〇〇キロも北からこの日のために出て来た邦人もいて、日本にいては感じない同胞意識というのかな、そんなものを感じるから、不思議よね。

日本にいたら……なんてすぐ言うけれど、ほんと、それはいつもそんなふうに思えてきちゃうのよ。運動会だって、一月にやるなんて考えられないことだし、水泳訓練も十一月中旬にあるし、入学式だって、背広を着ている先生の背中なんて汗びっしょり、それもこれもみんなここならではのことだものね。ところで元に話をもどすと、乾季の始まる前からずっと水やりを続けてきた芝生の校庭で、黒人もたくさん見物する運動会は、人数の割にはにぎやかに行なわれたわ。大人も子供も一緒にあって、まさに日本人会運動会といったところね。輸入に厳しい国だけに、日本から教材を取り寄せることができにくいので、日本人会の人々が積極的に協力してくれるのよ。例えば、一時帰国からの帰りに、ゴム風船を手荷物に入れて来てくれたり、イギリスやフランスへ休暇旅行に出た人が、万一のためにと、冷湿布の葉なんかを持って帰ってくれたりね。とにかく、邦人の協力なしには学校行事はできないことが多いのよ。同胞意識を持つ訳がおわかりでしょう。

種目の中で面白かったのはね、黒人のスプーンリレー。T君も前にやったことのある運動会ではポピュラーな出し物よね。黒人ってすごいよ。あの長いコンパスを動かして、それは速い速い。ペン||ジャクソンの速いのがよくわかるわ。日本人なんかとうていかなわないわよね。

風船をお尻でわるケツアツ測定なんかも、観客の歓声を浴びたけれど、黒人の人達には理解できないのかも知れないわ。中には、いやな顔をする人もいたわよ。それがどういう意味かわからなくてね。私帰宅してから考えてみたの。しばらくわからなかったわ。でも、次の日に商社の日本人の人が商用で父を尋ねて来たので、その話をしてみたの。するとね、その人はこう言うの。「多分、この国の多くの人には貧乏だから、物を壊してしまうことに抵抗があるのじゃないかな。風船はふくらませたままにしておけば、みんながしばらくの間楽しめるのに、わっってしまうのだから、楽しみが長く続かないし、なによりもう使えなくしてしまふからだろう。」とね。私考えてしまったわ。日本人がよくやる、何でもない行動にも、異国の、環境の異なる人達には、異和感どころか、反感心をも持って迎えられるということもあるのじゃないかな。そう考えると、何だかとても辛くなってきたわ。日本人なんて、ふつう、風船の一つや二つはどうということないものね。でも、こ

の国の多くの人は違うのよね。一つが、たった一つが貴重だという人がたくさんいるのよね。富める国日本はこれでもいいのかなあ、なんて大袈裟なことまで考えちゃったわ。

また、いやなお話、Sorry。

十一月の水泳訓練のことを話すわね。私達がとっても楽しみにしていた水泳。もともと、この国では一年中泳げるから楽しみにしていたなんていう表現じゃおかしいかな。でもね、事実は小説より奇なりね。泳げるのに、なかなか泳がないのよね。理由があるんだろうって？そうなの。プールはいくつかはあるの。でも、水が汚れているの。それと日本人のように、腰を洗ってプールに入るといふ習慣が実際にはないのよね。そんな訳で泳ぐ人は少ないということになるわ。学校にはプールがないので、近くの会員制クラブのプールを使わせてもらうのだけれど、一年に一辺という約束で随時使用を認めてもらっているプールだそうで、ここは水がきれいな。例外的だわ。まして広くはないけれど、それでもみんな喜んで泳ぐのがわかるでしょう、T君。私も力一杯水泳を楽しんだの。一年中、夏の国でいつも泳げないというのは残念な気もするけど仕方ない話ね。こういう風に、不便だからこそ便利なのがわかるというもね。

さて、今は乾季だと言ったけれど、十二月初めごろから、

だんだん日がたつにつれ、街が霧にかすんだようになってきたの。これはね、遠く一、〇〇〇キロ以上ものサハラ砂漠から風によって砂が飛んで来て、それが太陽を遮るからだということ、日本でも黄砂というのがあるよね。ここでは砂は黄色でなく、ふつうの砂の色だから、街も灰色がかって見えるということ。二月の上旬頃、ふつうはこの現象もなくなるそうよ。名前はバマターンとかハルマタンとか言うのだけれど、「春待たん」と日本人はゴロ合わせをしているのよ。三月の日本は春だし、ゴロが上手いこと合うのよね。もっともこの春は日本の真夏のような気候だけれど。

もうすぐナイジェリアでの一年の生活になるのよね。いろんなことがあって、喜怒哀楽の激しい一年だったけれど、たくさんさんの体験をしたということは私の財産になりそうよ。T君も将来、外国での生活をするかも知れないわね。国が変わり、国民が変わればさまざまな異色体験ができるということね。これからの日本人は海外へ出ていくことが多くなるから、そこでどんなふうに生活していくかは大事なことだよって社会科の先生がおっしゃっていたけれど、そうかも知れないわ。日本人が日本人であることを忘れないで、異国の人と交流していくのはどうすればよいかと考えるおきなさいって校長先生もおっしゃったけれど、大切な

ことだと思うの。だから私も一生懸命考えているのよ。むずかしい問題だけれどもね。T君も一緒に考えてほしいな。では、寒さを、持ち前のフアイトで吹き飛ばして健康な日々を送って下さい。「春待たん」よね。三月日本の春にはあと二年会えないけれど、よろしくね。じゃあお元気で。

「発展途上国への赴任の手引」

スリランカ・コロombo日本人学校

岡山市立平福小学校 沼本泰知

海外派遣教員といっても、その性格や適応は十人十色であり、また、赴任地も一つとして同じようなものはない。その中で手引きを作ろうとすればどうしても抽象的なものになってしまう。筑波大学で特訓を受け、いろいろ現地の様子を聞いても、いざ帰郷して荷物を整えようとすると何一つわからないという経験は派遣者が全員持っているのではあるまいか。

そこで私は在任中ずっと問題点に出会う度にメモしていた。それを集録して、帰国後は次の赴任者に連絡してあげている。

しかし、これはあくまでもスリランカにのみ通用することなので、もしこれが他国への赴任者の参考になる点が少しでもあれば、これにすぎない喜びはない。

この度は、スリランカ：コロombo日本人学校の派遣教員として内定され、心よりよろこび申しあげます。

赴任にあたり、次のような心構えや準備、また注意をす

ることなど、思い出すままにあげてみました。一つでも参考になればしあわせです。

一 赴任の心構え

私共が赴任した時、最初に大使に挨拶に行ったところ、第一声は、「お前達は何しにやって来た！ 無銭旅行に来たのか、ゴルフかマージャンか？ そんな気持ちがあるなら今すぐ帰れ！」とどなられた。もし、心の片すみにもこんな気持ちがあるなら、とんでもない心得違いです。真に教育を愛し、海外で生活する子どものために奉仕する覚悟をかためて出発してください。小規模校、しかも各府県からの見ず知らずの寄り合い世帯の中に、一人でもこのような不心得な教員が入ると教育効果があがらないばかりでなく、日本人の間ではもちろん、現地の人たちの笑い者になり、やっぱり教員はダメとらしく印を押されてしまいます。「先生はいいな。」という内地でもささやかれることばを追放し、「今度来た先生はりっぱだな。」と言われる三年間であることを期待しています。

また、観光ガイドブックなどを見ると、「光り輝く島」、「地球最後の楽園」、「動物と人間の調和した国」、「正統派小乗仏教徒の穏やかな国民性」などの表現が見られるが、皮層的なツーリストガイドであり、そこで生活する者には

通用しない。現実には、われわれは法律、宗教、習慣、言語の違う国際的接点で生活することになる、「この国に住まわせてもらっている。」という気持ちをおぼえてはならない。

二 物資の流通状況

発展途上国の発展には目を見はるものがあり、二、三年前のことは通じないという例も多々ある。ここに記するものも四年前の実態であることをおことわりしておく。

一五〇年間のイギリスの植民地時代が続いた後、独立して日も浅いのだが、すべて物資は、ロンドン経由でないとい入らない。(情報もすべてロンドンからニューデリー経由で入らないとい入らない。少量ではあるが、シンガポール・オーストラリアをはじめ、西ヨーロッパ・EC加盟国の物資は不自由なく入手できる。世界の一流ブランドも売られている。ただし、すべてこの国にとっては輸入品で数は少なく、あくまで「売ってやる。」姿勢であり、保障と信用はないので、よく調べて納得してから支払わないと返品、交換はきかない。食品のうち、日本米・干物・つけもの・つくだに・こうやどうふ・味つけのり・こんぶ・しいたけ・日本茶は入手困難。

調理器具は、プロパンを燃料とするものは数多く売られているがLPガスが不足して使用できない。われわれ外人

はすべて電化製品を使っている。電気調理器(クッカー)一・五キロワットヒーター×4+フィッシュロースター+二キロワットオーブン)・ギザ(貯湯式電気温水器)のついたおふろ・各部屋の天井には大型ファンとそれにディープフリーザー(大型冷凍庫)・洗濯機・炊飯器等も電化されている。TVはバル方式で日本から持ち込んでも使えない。現地でも自由に買える。その他VTR・ラジカセ・ステレオ等も入手できる。しかし、物資が豊かになると比例して物価も高騰し、三年間に十倍近くなったものも枚挙にいとまがない。(宝石・黒たん製品・バス・郵便料金等)

三 赴任荷物

アナカンは、着任と同時に入手できるのではなく、私達の場合一か月を要した。その間に必要なものは両手にきげて持ち込まねばならない。(例:名刺・印鑑・手みやげ・当座の日本米・副食・インスタント食品・果物ナイフ・スプーン・おやつ等)なお、航空貨物は二か月・船便は四か月もかかることがある。(赴任後六か月間はノートブックスで入れるが計画的に)

(1) ぜひ必要と思われるもの

ア 職務上

・ 運転免許証は国際免許に書き替えて行く。(別に五

センチ×五センチの顔写真が十二枚以上

・指導要領(小・中)一般編と教科編・特技・専門に関する資料や図書。

・指導要録用ゴム印(氏名ゴム印・ABC…:○×・123…:等)

・スタンブ台(赤黒)・手動鉛筆けずり・フラットファイル(当地はA列の印刷物も多い)

・辞書(和・漢・英)・ボールペン・スペアインク・ホイフスル・セロテープ・同カッター

・シャープペンシル・ソフトペン(マジック)・カッターナイフ・彫刻刀

イ 生活
・写真アルバム・切手アルバム・手帳

・電化製品は、冷蔵庫等日本に三年間放置すると使えなくなることもあり、また、帰国の際は売却処分するのが常識なので現在使用中の物を持込めばよいが、当地は電源が、二三〇ボルト・五〇サイクルなので、ぜひオートトランスが必要…一次二二〇ボルト…二次一〇〇ボルト用(二二〇ボルトでは十ボルト差があるが支障はない)の一キロワット用×一、五〇〇ワット用×一、それにテレコやラジカセ用の五十〜六十ワット用×一は最低持

参すること(現地には売っていない)

・ラジオ・テレビ修理用工具セット・ユニバーサルテスター・木工用工具セット等の工具。

・クォーツ柱時計があれば便利(電池は〇〇六P以外はボタン電池等も手に入る)

・フィルムはコダック・フジはあるが高価(日本で買って行く時は有効期限の長いものを選ぶ)一度カメラに入れたらその日の内に使ってしまうすぐ現像に出す。(現地の現像はお粗末)フィルムは要冷凍。ハミリフィルムは入手困難。

・タオルケット数枚・タオル・バスタオル・ハンカチ・下着多数。薬・虫さされ(キンカンがよい)

・目薬・トローチ・歯の薬・カットパン・耳かき・消毒薬・征露丸(ラップ印)

・洋服ができるなら二二〇ボルトのミシン・縫ほう道具

・泡立器(電動)・すりばち・おろし金・ぬりばし・わりばし・カバー付はし立て・妻ようじ・タッパー・(大中小多数)・弁当箱(複数)・まほうびん・水筒・ポット・麵棒・食パン焼きケース・ガラスコップ・ウイスキー・ワイングラス・フルーツグラス・和皿(十枚以上多数)・竹・ステンレス串・

汁わん(十以上)・計量カップ・スプーン・はかり・出刃ぼうちょう・菜切ぼうちょう(二丁・三丁)・砥石・しゃもじ・巻ずし用すまき・スケッパー・盆(数枚)

・かとりせんこう(一日三本×三六五日×三年×へや数)・現地の物は目やのどが痛む)・ペーパーマツト(器具は現地で二三〇ポルト用を)・ハエ網(食品カバーネット大小各二)・ビニール袋(大中小多数)

・背広上下・略礼服(一着)・ネクタイ(数本)・ロングドレス(数着)・ロングスカート(数着)・イヤリング・短ソックス・ペンダント・指輪(数枚)・生理用品(多数)・パーティ用小型ハンドバック・水着・運動着・運動帽・短ズボン・ゆかた・Tシャツ・

(2) 必要がないと思われるもの(現地で調達できるもの)

・トイレットペーパー(高価)・ティッシュペーパー・お盆(日本からも数枚はあった方がよい)・サララップ(高価)・さとう・ラックス洗顔石けん・ガムテープ・紙ナプキン・鉛筆・ボールペン・ノート(お粗末)・ゴルフ・テニス等のスポーツ用品は外国製が安く手に入る。

(3) 持参金等(一Rs:五・五円)

ア 住宅(屋賃と契約)

三寝室・台所・リビング・車庫・サーバントルーム・家具つき程度:二ノ二・五万ルピー契約方法は、一年更新(二年目から値上げの可能性あり):一年分前納・三年契約の場合は三年目の一年分を前納し、さらに本年分と来年分を毎月支払う。いずれにしても、中途事故などを想定し、契約解除した場合に(三年目の前納金を返してもらえような文面で契約すること。

一五〇万ノ二〇〇万円が入要

イ その他の購入品

電気クッカー……………約二万ルピー:住宅について

いる場合は不要

エアコン……………約三万ルピー: ”

ギザー……………約七千ルピー: ”

ディーブフリーザー……………約四万ルピー: ”

冷蔵庫……………約三万ルピー……………三〇〇リットル程度のもの

せん風機……………約三千ルピー……………四十センチス

水のろ過器……………約三千ルピー……………タンド型

電気がま……………約一、五〇〇ルピ一

その他、VTRRはベーターを日本人会は採用して
いる。現在使用中のものを持ち込み処分して帰れば
よい。

ウ 自動車

・日産・トヨタ・三菱の代理店がある。

・無税で持ち込みできるが持ち出しは不可能

・二ドア車は不便

・新車の場合（日産）は受注生産方式なので一刻も
早く発注する。（赴任証明のみ必要）発注してから
受け取るまでに三・五か月を要した。

・中古車の持ち込みは手続きが複雑で事実上不可能
・中古車の現地調達 一、八〇〇cc・二年ものブルー

バード…約七〇万円

一、四〇〇cc・二年ものサニー

…約五〇万円

希望があれば至急、校長にお
願いして探してもらうこと（車
体検査はないのでその日から
乗れる）

エ その他

・ビニールひも・小包用糸入包装紙

・一〇〇円ライター・ボールペン・カレンダーはチ
ップ代わりに喜ばれる。

・ラジオはNHK国際放送がかすかに入るとソニー
スカイセンサー等十万元以上のもの

・予防注射は義務づけられてないが、破傷風・コレ

ラ・肝炎・陰性ならBCGは必要

・か・はえ・やもり・あり・からすは名物（かや・

はえたたき・スプレンダーも必要

・百貨店・商店の包装紙は各方面に利用できる。

・内定したら一刻も早く下記宛、挨拶状を出す。

His Excellency Mr. (大使名)
Embassy of japan
20, Gregory's Road
Colombo 7
SRI LANKA

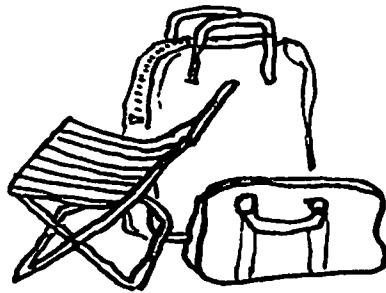
Mr. AKIO YAMAMOTO
141, Ward Place
Colombo 7
SRI LANKA

・右記要領で校長・学校運営委員長にも出す。

オ 空港まで、大使館の学校担当官・日本人学校教職員全員が迎えに出る。挨拶を考えて：入国許可証は飛行機を早く降りてから書く（大使館の方がアドバイスしてくれる。）空港を出る時は学校でせわをしてくれるのでチップ等払わないこと。

大使館員（十五、十六名）と日本人会役員（三名）、
学校運営委員（七名）、教職員（要覧参照）に手みやげを（アナカンへ入れないで手に持って）：金額よりアイディアで

※ 何か一つ「これをやった。」というものを残して帰ってください。御健闘を祈っています。



事例研究シリーズ(一)

「これからの派遣教師へ」

―管理職から見た日本人学校―

海外に管理職として派遣された人達が、経験をとおして感じられた事を事例をあげながら、これからの派遣者の参考となることを記してみます。

◎ 香港日本人学校

五六年四月一日から五九年三月三十一日

教頭 村 瀬 俊 一

香港日本人学校は昭和五十八年度、小学部二十九学級一、〇八七名、中学部八学級二五〇名、合計一、三三七名の児童生徒と四組一七四名の幼稚部幼児をもち、派遣教員四〇名、現地採用教員一二名（幼稚部担当四名を含む）、外人講師五名、計五十七名の教師群の他事務と現地人スタッフ計三十六名、総計九十三名の教職員が勤務している大規模校で小幼の校舎と中学校校舎が分離したマンモス校です。日本人学校ではシンガポールに次ぐ大きさです。

日本人学校の児童生徒数を各校別に調べて見ると、五十

名以下の学校が六割くらいあり三〇〇名を超える学校は二割もありません。このように極端な偏りから、各学校の抱える諸問題もかなり異なったものになると思います。

一、人間関係

在外校では日本国内と違って非常に複雑な人間関係に留意しなければなりません。大規模校では特に人間関係の調整は大事なことでと考えます。普通、日本人学校に派遣されて、持たねばならない人間関係を児童生徒以外について羅列しますと、

- (1) 在外公館
- (2) 日本人クラブ
- (3) P T A および個々の保護者
- (4) 学校経営理事会
- (5) 管理職教員
- (6) 同僚教員（派遣教員）
- (7) 現地採用教員
- (8) 日本人職員
- (9) 現地人職員
- (10) 教職員の家族
- (11) 日本商社
- (12) 現地の関係公署
- (13) 現地の学校および教職員

⑭ 現地の商店・商社

⑮ 報道関係

⑯ 一般現地人

などでしょう。などを付けたのは、個人的に他にもあるだろうと考えたからで、フラット（借家）のオーナーとか現地語の家庭教師とか、或はスポーツクラブで知り合った友だち……etcがあるでしょう。

人間関係の多様さに加えて、この社会での情報の伝播の激しさ（敢て激しさと書きました）には驚きます。例えば、今日の午後に話し合った職員会議の内容が克明に、或は、拡大変曲されて、その夜のうちに日本人社会を駆けめぐるといふようなことです。また、日本人社会はえてして仲間の中からスケープ・ゴートを作りやすいのですが、実際にそんな場面に出会うと大いに戸惑うことがあります。

以上のようなことが、大規模校程複雑にからみ合って困難さを増大します。小規模校では、教員もこじんまりと家族的な雰囲気ですが、大規模校では同学年とか同教科とか、或は住宅が近かったり趣味で結ばれている人同志は親しくなりますが、そうでない場合、殆んど言葉を交さないことも考えられます。海外で孤立的な生活をすることは病氣その他の危険もありますし、学校全体の組織

上からも好ましいことではありません。また学校における教員同志のつきあいとは別に、家族同志のつきあいもあり、夫人がPTAの会員だとか複雑化する要素はいくらでもあります。このようなことから、海外に派遣された教員は、各種の人間関係を気を配って、円滑な関係の維持に努力する必要があります。

二、管理職のむつかしさ

文部省から「校長」または「教頭」として派遣されるのですが、たまたま香港日本人学校で一緒に勤めるようになったという関係だけしかなく、国内では顔も合せたことのない人同志ですから、当分の間はお互いに理解し合えるようにはなりません。小規模校では、例えば四、五人しかいないので、赴任の日から一緒に仕事に取り組みますが、大規模校程なじむのに日時がかかります。全員の顔と名前を暗記するまでに、一か月はかかるでしょう。その間に、「校長」、「教頭」としての仕事はどしどし消化しなければならぬので、お互いの気心が分り合わないうちは何となくやりにくいものです。派遣教員は個性豊かな人が多く、日本全国からそれぞれの習慣を持ち寄っています。新入りは何一つ前例を知らず、我流を無理に押しつけて波瀾がおきることがあります。特定少数の人と親しくして何事でも相談することも間違いのものと

ですしよく意見を述べる人にだけ耳を貸すことも危険です。

これらのことは、対保護者、対PTA、対現採教員：etcとすべての関係においても云い得ることです。私の場合、やっと概要を把握したなと思ったのは赴任一年後でした。

日本人学校は三年で全ての人が入れ替ります。理事会の理事、PTAの役員、そして教師も生徒・児童も例外ではありません。そのため、時間をかけて話し合い決定したことが、いとも簡単に変更されて行きます。教師は慣れるのに一年、そして三年目は帰国に備えてし残した仕事に熱中しますから、学校で立派な仕事ができるのは中間の一〜二年間、その時その教員が獲得した貴重な業績は、後任へ伝えられることなく日本への土産として持ち帰られ、後任の人はまた一から苦労するという循環になります。これを改め、各係担当の作った資料を学校の記録として次の人のため残すという話し合いですら、ずい分難航したことが思い出されます。

時の流れに対する不連続性について申しましたが、横の連絡も殆んどありません。国内なら隣の学校に問合わせるとか教育委員会の指導を仰ぐという場面もそれは不可能です。また、出版物などを参考にしなくても殆んど

無いといってよいでしょう。管理職が校務を処理する上で判断する場合、判断の基準や参考になる材料が乏しいのは困ったことです。

◎ クアラ・ルンプール日本人学校

五九年四月一日から六二年三月三十一日

教頭 増 田 節 男

私が勤務した学校は政府派遣教員校長教頭を含めて二十四名、現地採用教員十名、事務職員その他十二名計四十数名園児、児童、生徒数約七百名（最近やや減少）。世界七十八校中、七番目にランクされ、大規模校といわれている。

ひと言に、海外校勤務といえども、そう簡単、かつ平易なものではなく、異文化での三年間にわたる生活は、確かに苦しく厳しいというのが私の偽りのないところである。家族と共に健康と身の安全（治安、交通、その他etc）を主軸に、より多く異文化と触れ合い（風俗、習慣、言語、歴史、教育、文化芸術等）異文化を自分の中に修めてしまいう迄には、文字通り、自分との闘いであり、確固たる信念に基づく根性と忍耐と努力が当然のこととして要求される。ここに「期待される派遣教師の姿」を、同僚二人の働きぶりを通して、本題に触れたい。

感動を受けた二つのタイプ

一、海外派遣教員の誇りと、使命感を最後まで持ち続けよう！

(1) 「A」先生の場合

ここでの思い出の一つに、イラン、クエート日本人学校に派遣が決っていた「A」先生が、イラン情勢の緊迫から、赴任先が変更になり、クアラルンプール日本人学校に五月中頃赴任してきました。

A先生は、英語専攻で、日本では、英語科の先生と
のことでしたが、スポーツは万能、何にでも……その
上、放送教育視聴覚教育には特に造詣が深く、その面の
特技も優れていました。それだけに新校舎を増築する
際、とても役立ってくれました。おかげで海外校随一
といわれる程の放送室やL1教室、AV教室、視聴覚
室が出来上り現地校は勿論、国内からもよく参観に來
られたものでした。それにA先生は、毎日夜遅く迄残
って仕事をされていました。夏休みや冬休みは殆んど
出勤して、工事の手伝いや、進行具合を見守る一方、
担任の子たちの学習相談にのったり、クラブや部活の
指導に骨身おします精魂こめて取り組んでいました。
体育の授業を終えて、職員室に帰って来ると、冒頭
に「やれやれ、暑い暑い」といって、汗を体中に吹き
出しながら椅子につく姿がとても印象的で今も目に浮

びます。一時間一時間を大切に精一杯頑張っているよ
うがよく窺えました。

先生のこのような姿を見るたびに、私共の心を強く
打ったものです。

A先生は、常に、子ども達を心底愛し炎熱の中での
きびしい実践にも耐え、外に向って、「自分は、日本政
府派遣の教師である。」との自負心を持っているすばら
しい先生でした。

これぞ、使命感あふるる教師、今日の国際社会の期
待に応え得る教師の姿ではなかるうかと強く感じた次
第です。

海外における日本人学校には、とかく思想やイデオ
ロギーを基底とした教師論が優先論議されがちといわ
れているとき、こうした問題に目を奪われず、自己の
信念の下に、使命感を燃やし続け、すばらしい実績を
挙げられたのであります。

二、常に修養と自己の資質向上を怠るな！

(2) 「E」先生の場合

「E」先生は、専攻は技術科、小学部二年担任。

特技、パソコン技師、野球投手、ゴルフ。

さて、E先生は、赴任早々マレー語を独学で勉強さ
れ、僅か、三か月少々で「マレー語日常会話集」「日本

語版」を発行、現地ではこれが初めてとあって在留邦人の間で大変喜ばれ広く利用されました。

また、小学部にマレー語クラブを新設し、子ども達にマレー語に対する理解を図る一方その普及に努めた。

更に、「E」先生は、マレーシアの教育制度等についても調査され、約一年半かかって、文献として、日本語版で発表された。

内容は、一、教育政策 二、教育基本法 三、教育体系 四、技術・職業教育 五、三Rカリキュラム 六、その他参考文献等

現地マレーシアの図書館（国営、市営）には、すべて、マレー語で述べてあるため、長年住んでいる在留邦人の間でも理解されていない状況にあった。それがE先生の努力によって、今度日本語で各誌に載せられるに至って、日本人会はもとより、日本国大使館、日本商工会議所および、保護者に至る迄大変喜ばれ広く利用されている。最も、ここに至る迄に、先生には、大変な努力をされました。昼夜を問わず、マレー語学習の特訓が半年以上も続き、インフォーマーションセンター・マレーシアをはじめ、現地文部省や大学にも足しげく通われたとのこと。又、恥を偲んでマレー人との会話をショッピングを始め、あらゆる場所や機会をと

らえて実践された結果このような実力がつき、マレー語の文献をも翻訳できるようになったと云っていただきました。

日本を遠く離れ、海外生活にも少しづつ慣れてくれば、とかく解放的になり、心の緊張感も、緩んで、自己の研鑽、修養に怠りがちになることも銘記しておく。

「国際社会の中の日本」を代表し、異文化の中の日本人であるという自覚を失ってはならない。

同時に短期間のうちに、異文化の歴史的背景や、現代社会のしくみおよび地理的条件などをしっかり修め、その困の方々の交友をも心掛けたいものである。それらを背景にした対話こそ今日的交友のマナーでもありと考えるものである。

◎ 北京日本人学校

五八年四月一日から六一年三月三一日

教頭 熊代剛士

海外派遣教員の資質について

(1) 教諭の条件

① 校長・教頭の苦衷の分かる人であって欲しい

海外に於いて校長を含めた教員のランクは低い。特に中国では教員は大使館の中に入っていない。そして日本人会（商社関係）の中にも入っていない。宙ぶらりんの位置にあった。

例えば、住宅は、中国側が大使館に与えた大使館分の中から御裾分けしてもらう。他の国のように個人の契約で借りることは不可能である。

赴任する人はホテルよりアパートがよい。アパートに入れると広い方がよい。これが人情というものだ。

・ S五十六年に四人の教員が派遣された（校長と教諭三人）

私が赴任したS五十八年、この人達の三年目の時である。会議が始まると、校長の発言、決定には全員が一致して反対する。何たる学校かと驚いた。「坊主憎けりや袈裟まで憎い」の例えの通り教頭の私もターゲットにされた。

みんなの話を総合すると次のようである。

一才の子をつれた夫妻の教員がホテル暮らし、夫妻だけの教員が一ベットのアパートを与えられた。独自の教員は勿論ホテル暮らし、そのとき校長夫妻は二ベットのルームのアパートにさっさと入ったと

いうのである。順から言えば一才の子をつれた夫妻が一ベットへ入るのが順当だが彼は二ベットのねらって入らなかった。（これが一つ問題）。ところが一才の子が病気になるホテルではどうにもならず、一ベットの人が替って上げた。校長はそれに対して何ら手だてを講じなかったというのである。

その外にも色々なことがあり、翌年来た四人と前年度の三人その前の人々は結束が次第に固まったようである。その結果、前述のように校長対八人（S五十七年度までは総勢九人）の敵対関係となったようである。

校長の努力不足があったかも知れぬが、大使館への働きかけはやられたと思う。海外では助け合い思い遣る心が大切である。

② 赴任者は後顧の憂いのない人がよい。家族のこと、家のこと等度々一時帰国しなくてはならない状態があるとしたらやはり日本人学校の教員数は少ないのだから教育効果に問題が出て来る

三年間憂いなく海外子女教育に邁進できる環境づくりがあって受験してほしいものだ。

③ 礼儀を知り、けじめのつく人であってほしい。

校長の机で平気で仕事をする人
校長室の応接セットでねそべる人

大使館での言葉使いの横柄な人

公使から「日本人学校の先生の中には世間知らずがいるね」といわれたことがある。

④ 感心したこと

北京へ赴任した先生は行事に対しては一人一人が一騎当千で任せると立派にやりとげることが出来た。

◎ カルカタ日本人学校

五六年四月一日から五九年三月三十一日

校長 西 崎 正 明

カルカタ日本人学校は、もともと小規模校の学校で、三年間に児童・生徒が六人、十六人と移動していた。職員は、派遣が校長以下四人、英会話講師一人（現地採用、米国人からインド人に変った）使用人五人（インド人）であった。派遣教員四人で、小学部、中学部を担当運営してゆかなければならなかった。校長も十五、十九時間授業を持つなど、各人が色々と工夫しながら苦勞をしていた。

一人でも、勝手なことをしだすと何もできなくなるので

「和」には気をつかった。「和」の中には、教員だけでなく、その家族も含めたものが必要であった。

生活は学校だけでなく、保護者の人達、日本人会の人達、在外公館の人達、商社、会社の人達等、日本ではお会いできない人達や、経験できない出来事なかでの生活であるので、それぞれの人達が自分達の経験、信条、モラルから、教員の仕事の甘さなどについて厳しく見つけておられた。

例えば、赴任時にエアポートまで保護者の代表が迎えに来られるが、赴任の挨拶・態度などについての礼儀を批判された人も居られた。

小規模校であることは、日本人の人達が多くないという事で、日本人会はよくまとまっていた。したがって、萬月、お互いの生活は知れわたっており特に教員については注目をされていたようだ。教員が誠心誠意子供の為に努力をしていたら、少々のことはすべて理解されるが、一度批判されると、学校の仕事にまで影響がでることがある。私の帰国後であるが、一、二名しかいない中学生の補習を要求されたと聞いている。

又小規模校は、複式、複々式の授業や、二、三の教科領域の指導が必要となるので、派遣前に数多くの経験を積み、少なくとも数種類の指導可能な分野を持つことは、学校で有益な存在となるだけでなく、派遣先の社会でも貴重なも

のとして、重宝されるでしょう。

派遣先の生活環境は、日本と全然違うから、日本の生活を持って行くことなど有えない事です。派遣先でも人々が幸せな生活をしているのですから。

頭をスバッと切り替えられる余裕が必要となります。



第三回 国際フィルム映像 鑑賞会を終わって

中国・北京日本人学校

岡山市・加茂小学校 黒田忠男

この行事も、三回目になると要領がよくなり、計画も運営もともにスムーズに運ぶことができるようになった。会員以外の参加者も大幅に増え、年を追うごとに盛会になってきている。今後もあり方次第ではますます発展していくことが予想される。主催者側としては大満足しいことであり、「国際理解教育研究会」の名称も一般の人々の間にだんだんに知られてくるようになるだろう。

われわれの会は毎年確実に会員が増えていく会であり、フィルム映像鑑賞会も続ける気さえあればいくらでも開くことができる。帰国してくる派遣教員は後を断たず最新のフィルム映像をもち帰ってくる。その点では実に展望のある会であり意義のある行事であると言える。人が集まるかどうか心配ばかりしていた昨年の第二回のように比べると随分強気なことが言えるようになったものだ。

やるからには少しでも多くの人々に見ていただきたいし、

それなりの評価も得たいと思う。そのためには今までの経験を生かし、質的にすぐれたフィルム映像鑑賞会にしていくことが必要であろう。

第一回から三年続けてお世話をさせていただいた一人として、今後の発展のために少しでも役に立てばと思つて、以下のことを記録しておくことにする。

① 会場としては市立中央図書館は最高である。

視聴覚の機器が完備しており、スクリーンのすぐそばで説明しながら遠隔操作でフィルムを映すことができる。

一般の人々がよく集まる。催しのことを知って来て来た人のほかに、当日来館して初めて知って参加した市民も少なくなかった。図書館というところはそのような場所である。

使用料が要らない。これだけの設備で冷暖房完備の場所を使用するのに会場費が要らないというのは全く驚きであり、ありがたいことである。

② 会場借用の手続き

二か月前から使用申請ができる。直接中央図書館へ行って借用手続きを取る。印鑑を持参すること。前以て会員の中の市教委関係者などに依頼しておいてもらえばなお都合がよい。

・ 時期としては十一月の中下旬が適当である。全国
教大会と重なることになるが、フィルム提供者さえ
確保できていれば実施できないことはない。

③ 宣伝の方法

・ パンフレットを作り、配布する。B4版の印刷物
を手作りで約一、〇〇〇枚ほど用意する。世界地図
に派遣先を書き入れたものが分かりやすい。

・ 配布先

・ 会員（岡山市内の学校に勤務する会員には市役所
便で送る。その他の会員には郵送する。）

・ 市立中央図書館……三〇〇部程度持参して依頼す
る。

・ 総合文化センター…井関氏（会員）に連絡して必
要部数送る。報道関係にはこ

こから一応配布されるが、直
接送った方が効果的。

・ 市内の学校……市役所便で三部づつほど送る。

・ 船岡子女の会……大谷会長へ三十部程度

・ 県教委指導課社会教育課

・ 岡山市教委指導課社会教育課

・ 顧問各位

・ 以上の外にも大学関係などへ案内したらどうか。

・ 今年参加してくださった市民の方々へも郵送し
てさしあげたい。

④ 飲み物サービス

・ 今年から予算がついたので缶コーヒーを無料でサー
ビスした。これは今後も続けたい。ただし子供がやっ
てきて飲み物だけもらってすぐ出て行くのは警戒する
必要がある。

⑤ フィルムについて

・ 十五分程度で終わるよう上手に編集してきてほし
い。ビデオなどその場で早送りしなくてもいいよう
に。

・ 大きなスクリーンに拡大するのでビデオはどうし
てもボケてしまう。スライドかハミリがいちばん適
当である。

・ なるべく世界の各州にわたっての映像を見せたい。
特定地域に集中しないように。

・ テーマをしぼってまとめたものがよい。十五分間
ぐらいを有効に使うこと。

・ 日本人学校の紹介ばかりにならないように。その
国の産業、風物、文化、民族などを豊かに表現して
見せてほしい。

⑥ 展示について

外国の文物などの展示品があればよい。砂漠の砂、衣服類、民芸品など参加者の興味をひく。

第三回国際フィルム映像鑑賞会の記録

・日時 昭和六十二年十一月二十九日

午前十時～十二時

・場所 岡山市二日市

岡山市立中央図書館視聴覚ホール

・参加人数

会員 十六名 一般 三十名

世界の国々を見よう

第三回 国際フィルム映像鑑賞会

主催 岡山県国際理解研究会

(岡山県帰国教師の会)

こ 案 内

「岡山県国際理解教育研究会」という私達のこの会は、三年間にわたって海外にある日本人学校に派遣され、海外での日本人学校教育にたずさわった経験をもつ教師の集ま

りで、「帰国教師の会」とも呼んでいます。私たちは派遣されたそれぞれの国で、いろいろな体験をしました。

この目で見てきた世界各地のありのままの姿の映像を持ちよって、みんなで確かめながら、国際化時代に向けてさらに視野を広げていきたいという願いをもって、このフィルム鑑賞会を続けています。

今年第三回目です。今年三月に帰国したばかりの教師たちが持ちよる、最新の世界の国々からの映像は、きっと皆様方にご満足いただけるものと思います。

この機会をどうぞお見逃しなく、ご鑑賞いただけますよう、ご来場を心からお待ちして、ご案内申しあげます。

記

一、日時 昭和六十二年十一月二十九日(日)

午前十時～十二時

二、場所 岡山市立中央図書館(岡山市二日市)

三、内容 ・あいさつ

・フィルム映像鑑賞

・話し合い

一、異文化マレーシアの姿をかえりみて

岡山市立吉備中学校 増田 節男

(クアラルンプール日本人学校)

二、ボルネオの産業

岡山市立庄内小学校 尾崎 進

(コタキナバル日本人学校)

三、ジッダ市とジッダ日本人学校の紹介

津山市立広野小学校 神田 進

(ジッダ日本人学校)

四、バンコク日本人学校の紹介

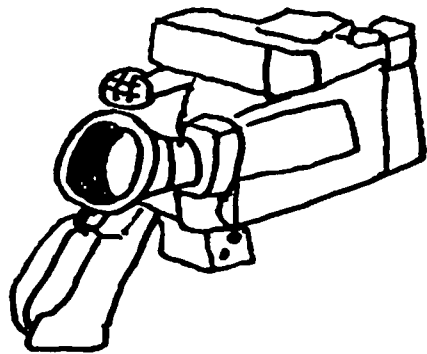
岡山市立福田中学校 船曳 文洋

(バンコク日本人学校)

五、シルクロードを訪ねて

岡山市立桑田中学校 渡辺 光

(北京日本人学校)



国際理解教育の実践

岡山市立平福小学校長 沼本泰知

本校は、人間尊重を基調とした「自主性・創造性に富み、心身ともに健康で平和を愛する人間性豊かな平福の子を育てる」ことを学校教育目標に掲げ、その具現に努力してきました。

このたび、昭和六十二年度・六十三年度、岡山市教育委員会の研究指定を受け、本校の指導の重点の一つである「中国洛陽市：実験小学との友好を深め、国際理解教育をすすめる」をめざし、次のように研究主題を設定しました。

「互いに助け合い、国際感覚

豊かな子どもの育成」

—— 広い心で互いに理解し、助け合う

子どもをめざして ——

二十一世紀を生きて働く今の子どもにとって、国際社会における人間のあり方の基本を身につけさせることは、欠くことのできない教育内容であると考えています。

「互いに理解し助け合う」ことは、個人の尊厳を重んず

る認識に立って自国民や他国民、あるいは他民族の人権を尊重する基盤であり、その上に国際理解も成り立つと思えます。

このようなことから、本校の国際理解教育は、単なる外国理解ということではなく、互いに相手の人格を尊重し、認め合い、助け合い、動まし合う仲間づくりを中核として、相互容認のできる児童づくりをめざしています。

また、教科指導等では、指導要領の示すところにしたがい、他国文化を理解し、自国文化を掘り下げることによって、異同関係でとらえ、他国文化をも認め、協調し共存する態度の基本を培おうと考えました。そのためには、道徳・社会科・創意活動が最も入りやすいと考え、授業研究を中心にその教材化を手がけました。

次に、ゆとりの時間を活用して、実験小学との交流をはじめ、世界各国に設置されている日本人学校との交流を行ない、乏しい内地の情報を提供して、その国の文化や生活・風俗や習慣などを知らせてもらっています。これらのものは、日中友好室や国際理解教室に展示するとともに、各学年に設けられたワールドコーナーで紹介し、子ども達の関心も盛り上がっています。なお、伝統的行事の一つである「平福まつり」を「ワールド集会」に替え、各国パビリオンを作ってワールド週間を催したのは、平素の学習や各国

日本人学校との交流などが集大成され、大きな成果をあげることができました。

とは申せ、帰国者も帰国子女もない本校での国際理解教育は、言わば平時体制下の地味な歩みであり、先進校も少なく、未だ緒にいたばかりであり、ご指導をお待ちしている次第であります。

昭和六十三年二月



山陽 62.9.20 (日)

日本人学校と 交流深めよう



海外の日本人学校からの手紙などを読む平福小の児童たち

平福小の児童が23カ国へ手紙送る

11カ国から返事

異国情緒あふれる内容

平福小の児童が、海外の日本人学校に手紙を送る。手紙の内容は、異国情緒あふれるものが多い。児童たちは、海外の生活や文化について、興味を持って調べている。手紙には、絵や写真を添えて送るものも多い。海外の児童からの返事も、11カ国から届いた。

平福小の児童が、海外の日本人学校に手紙を送る。手紙の内容は、異国情緒あふれるものが多い。児童たちは、海外の生活や文化について、興味を持って調べている。手紙には、絵や写真を添えて送るものも多い。海外の児童からの返事も、11カ国から届いた。

海外の日本人学校からの手紙などを読む平福小の児童たち

海外の日本人学校からの手紙などを読む平福小の児童たち